

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎ゼミナール		
授業担当者名	神谷 智子、五十里 明、金城 やす子、石井 健一郎、本多 利枝、工藤 紀子、世俵 智恵子、森 京子、伊藤 美智子、白砂 恭子、佐藤 由佳、藤澤 浩美、木野 有美、八田 早恵子、鯉淵 乙登女、鈴木 孝、小幡 さつき、鈴木 里美、土井 智子、三輪 桂子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	複数（主担当：神谷智子）	ナンバリングコード	241-4IAL9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 大学生生活とはどのようなものか、また看護学を専攻するとはどのようなことか、名古屋学芸大学の人材養成に関する目的や教育上の目的を活用した学びと豊かな大学生活のための自主的・持続的な学習の進め方について、基本的な知識を確認しながら展開する。</p> <p>〔到達目標〕 1. 大学生としての姿勢や態度、主体性を身につける。 2. 大学で学ぶために必要とされる知識やスキルを身につける。特に授業への参加のし方、ノートのとおり方、ゼミ学習の方法について修得することができる。 3. カリキュラムの特徴、講義、演習および実習について理解し、看護学生としての学びにつなげる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「意欲・態度」◎、「協働力」○		
授業の概要	大学生としての学習や生活に必要な基本的知識や姿勢を修得し、これからの大学生活の学習基盤を整える。「調べる」「書く」「話す」「聴く」など自発的・能動的な学習の進め方を学ぶ。また学生間および学生・教員間の円滑な人間関係を培うとともに、大学で学ぶための基本的な知識と技術を身につける。そして、看護キャリア開発を進めるために必要とされる能力である協働探求力、自己教育力、自己評価力の基盤を育てる。		
学生に対する評価の方法	①アクティブラーニングを活用したグループワークにおける参画度（50%） ②課題レポート（30%） ③ポートフォリオ（20%） ①～③により総合的に評価する 本科目は再評価を実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 ガイダンス 大学で学ぶということ 第02回 大学生生活を有意義にするために 第03回 主体性を身につけるためのグループワーク①自己紹介・役割決定、計画 第04回 主体性を身につけるためのグループワーク②文章の読み方・まとめ方、プレゼンテーションスキル 第05回 主体性を身につけるためのグループワーク③仲間と学ぶスキル、演習実習に必要なスキル 第06回 主体性を身につけるためのグループワーク④対人関係スキル、ストレス対処スキル 第07回 主体性を身につけるためのグループワーク⑤効果的な学び方、健康管理スキル ※第4回～7回は順不同 各ゼミで役割と内容を決めて計画を立てる。 第08回 テーマディスカッション① 第09回 テーマディスカッション② 第10回 テーマディスカッション③ 第11回 テーマディスカッション④ 第12回 テーマディスカッション⑤ ※第8回～12回は、各ゼミでテーマや方法を相談しプレゼンテーション資料の作成まで計画的に進める 第13回 学習成果報告プレゼンテーション① 第14回 学習成果報告プレゼンテーション② 第15回 基礎ゼミナールを通しての学び、自己の成長、課題についてレポート作成、授業全体の振り返り		
使用教科書	前原澄子監修『看護学生のためのよくわかる大学での学び方』金芳堂 配布資料		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	前半に大学生活について、大学と高校の違いについて、大学生としての行動力や人間関係構築について、グループワークを通して学びます。常に相手の考えを尊重しながら多くの情報から客観的な判断力や論理的な思考力が高まることをねらいとしています。ポートフォリオの作成が科目評価のひとつとなります。丁寧な学修を心がけましょう。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	アカデミックライティング		
授業担当者名	木野 有美、佐藤 由佳、鈴木 孝、藤澤 浩美、土井 智子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1年次前期
教員担当形態	クラス分け(主担当:木野有美)	ナンバリングコード	241-11AL9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 大学の学修を進めるうえで必要なレポート作成のための”読む”、”書く”、”表現”する力を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕 1. 大学での学修を進めるうえで必要なレポート作成、表現力の習得に向けて”読む”、”書く”、”表現”する力を身につける。 2. 図書館および検索エンジンを利用し、的確かつ持続可能なレポート作成にかかる情報収集及び情報整理基礎的能力を養う。(検索力・引用力) 3. テーマや課題を読み取る読解力、課題を分析する力を養う。(読解力・分析力) 4. レポートを書くうえでの基本的技法(出典の表記法、参考文献の表記法・スタイル)の習得および読む人にとってわかりやすく、根拠に基づいた、説得力のあるレポートを書く能力を養う。(文章作成力)</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	<p>大学での学修を進める上で必要なレポート作成には、文章を読む、書く、表現することが求められる。レポート作成において重要な”読む”、”書く”、”表現”する力とは、専門書や文献またフィールドワークなどで得た事実や知識、概念を、根拠に基づいて論理的・科学的にまとめることである。そのためにはテーマを見つけるための思考の方法や形式にそった文章の書き方、多様な情報源からの確かな情報・知識を、論旨をふまえて取捨選択する能力が必要となる。そこで本講義を通して、レポート作成に必要な基礎的能力を身につける。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>① 講義参画度：10% ② 小テスト 2回：40% ③ レポート 2回：50% ①～③により総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 アカデミックライティングとは、レポートとは、文献とは(資料検索法/図書館活用法)</p> <p>第02回 課題読解、テーマを決める</p> <p>第03回 レポートの体裁・形式、日本語のルール</p> <p>第04回 『理解度の確認と解説①』『レポート提出①』</p> <p>第05回 アウトラインをつくる、パラグラフライティング</p> <p>第06回 引用の仕方、引用・参考文献提示法</p> <p>第07回 主張を根拠で支える、序論と結論を書く</p> <p>第08回 『理解度の確認と解説②』『レポート提出②』 まとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>前原澄子監修『看護学生のためのよくわかる大学での学び方』 金芳堂 毎回配布される資料</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキスト第1編 スタディ・スキルの必要箇所をよく読んでおくこと。 ・少人数クラスでの開講を予定しています。 ・日頃から新聞や雑誌の気になる記事を読んでみましょう。読書をしましょう。 		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語コミュニケーションA		
授業担当者名	浅野 輝子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1年次前期
教員担当形態	クラス分け	ナンバリングコード	241-3ENG9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. バランスのとれた英語の4技能を伸ばす。 2. 外国の医療システムの理解を深める。 3. 医療知識を深める。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎		
授業の概要	<p>在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生がグローバルな医療現場で活躍するために必要な英語力も身につける。本授業では外国人患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)をバランスよく習得し、かつ基礎的な医学用語を学ぶ。特に、海外での職種の名称、入院患者に対する病室案内の場面、さまざまな症状表現など医療文化も含めたその国の医療システムを正しく理解することを通して、幅広い医療知識を身につけることを目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	小テスト(30%)、授業内容の理解度(40%)、授業への参画態度(30%)以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション Unit 1. 英会話導入 第02回 Unit 2 Where are you from? 基本的な質疑応答 第03回 Unit 3 Could you tell me your address? 数字の言い方、聞き取り 第04回 Unit 4 What department do you want to visit? 診療科の名称 第05回 Unit 5 Where is the X-ray department? 道順の説明 第06回 Unit 6 What are your symptoms? 症状の表し方 第07回 Unit 7 Where does it hurt? 痛みの種類/身体部位の名称 第08回 パフォーマンス発表 Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 時制 第09回 Unit 9 Take one tablet, four times a day. 薬の飲み方、頻度 第10回 Unit 10 Let me make an appointment for your test. スケジュールの表現 第11回 Unit 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 手術等の説明① 第12回 Unit 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 手術等の説明② 第13回 Unit 12 How are feeling today? 入院患者とのよくある会話① 第14回 Unit 12 How are feeling today? 入院患者とのよくある会話② 第15回 総復習 理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院 クリスティーンのやさしい看護英会話 知念クリスティーン著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	基本的な医療の現場での英会話だが独特な表現もあるため、復習をしっかりすること。(週60分) 毎回必ず英単語のミニテストがあるため医療英単語等を覚えること。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語コミュニケーションA		
授業担当者名	立花 みどり		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1年次前期
教員担当形態	クラス分け	ナンバリングコード	241-3ENG9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. バランスのとれた英語の4技能を伸ばす。 2. 外国の医療システムの理解を深める。 3. 医療知識を深める。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎		
授業の概要	<p>在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生がグローバルな医療現場で活躍するために必要な英語力も身につける。本授業では外国人患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)をバランスよく習得し、かつ基礎的な医学用語を学ぶ。特に、海外での職種の名称、入院患者に対する病室案内の場面、さまざまな症状表現など医療文化も含めたその国の医療システムを正しく理解することを通して、幅広い医療知識を身につけることを目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	小テスト(30%)、授業内容の理解度(40%)、授業への参画態度(30%)以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション Unit 1. 英会話導入 第02回 Unit 2 Where are you from? 基本的な質疑応答 第03回 Unit 3 Could you tell me your address? 数字の言い方、聞き取り 第04回 Unit 4 What department do you want to visit? 診療科の名称 第05回 Unit 5 Where is the X-ray department? 道順の説明 第06回 Unit 6 What are your symptoms? 症状の表し方 第07回 Unit 7 Where does it hurt? 痛みの種類/身体部位の名称 第08回 パフォーマンス発表 Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 時制 第09回 Unit 9 Take one tablet, four times a day. 薬の飲み方、頻度 第10回 Unit 10 Let me make an appointment for your test. スケジュールの表現 第11回 Unit 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 手術等の説明① 第12回 Unit 12 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 手術等の説明② 第13回 Unit 12 How are feeling today? 入院患者とのよくある会話① 第14回 Unit 12 How are feeling today? 入院患者とのよくある会話② 第15回 総復習 理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院 クリスティーンのやさしい看護英会話 知念クリスティーン著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	基本的な医療の現場での英会話だが独特な表現もあるため、復習をしっかりすること。(週60分) 毎回必ず英単語のミニテストがあるため医療英単語等を覚えること。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語コミュニケーションB		
授業担当者名	浅野 輝子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	クラス分け	ナンバリングコード	241-3ENG9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生が英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師に求められる英語コミュニケーション能力について理解ができる。 2. 外来の臨床経験に役立つ医療英語の必要性が理解ができる。 3. わが国の国際化と国際社会への医療看護を通じての貢献について理解ができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎		
授業の概要	英語コミュニケーションAを踏まえて、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。この授業では外国人の患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)をバランスよく習得し、かつ専門的な医学用語を学ぶ。またリーディング演習においては最近話題となっている事項を取り上げているのでしっかりと読み理解しその話題についての医療的知識を深める。		
学生に対する評価の方法	課題(30%)、授業内容の理解度(40%)、授業への参画態度(30%)以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 オリエンテーション 第02回 U1. 看護師との問診の会話 第03回 U2. 検査 血圧体温測定等 第04回 U3. インフルエンザ等の症状の会話 第05回 U4. 痛みへの対処 第06回 U5. 胃痛を訴える会話 第07回 U6. 腹痛、食欲不振を訴える会話 第08回 U7. 血液検査、検査に関する用語 パフォーマンス発表 第09回 U8. メタボリック、定期検査の会話 第10回 U9. 貧血についての会話、検査 第11回 U10. 外傷、外科での会話 第12回 U11. 手術 第13回 U12. アルコール中毒 テスト準備 第14回 U13. 超音波検査 第15回 総復習 理解度確認、授業全体の振り返り		
使用教科書	センゲージラーニング Medical English Clinic 西原俊明著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	前期と比べるとより専門的な会話の内容になっているため復習は必ず行うこと。(週60分) またreading activityのトピックの内容に関する日本語での知識、また英単語等も前もって調べておくと良い。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語コミュニケーションB		
授業担当者名	立花 みどり		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	クラス分け	ナンバリングコード	241-3ENG9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生が英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師に求められる英語コミュニケーション能力について理解ができる。 2. 外来の臨床経験に役立つ医療英語の必要性が理解ができる。 3. わが国の国際化と国際社会への医療看護を通じての貢献について理解ができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎		
授業の概要	英語コミュニケーションAを踏まえて、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。この授業では外国人の患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)をバランスよく習得し、かつ専門的な医学用語を学ぶ。またリーディング演習においては最近話題となっている事項を取り上げているのでしっかりと読み理解しその話題についての医療的知識を深める。		
学生に対する評価の方法	課題(30%)、授業内容の理解度(40%)、授業への参画態度(30%)以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション 第02回 U1. 看護師との問診の会話 第03回 U2. 検査 血圧体温測定等 第04回 U3. インフルエンザ等の症状の会話 第05回 U4. 痛みへの対処 第06回 U5. 胃痛を訴える会話 第07回 U6. 腹痛、食欲不振を訴える会話 第08回 U7. 血液検査、検査に関する用語 パフォーマンス発表 第09回 U8. メタボリック、定期検査の会話 第10回 U9. 貧血についての会話、検査 第11回 U10. 外傷、外科での会話 第12回 U11. 手術 第13回 U12. アルコール中毒 テスト準備 第14回 U13. 超音波検査 第15回 総復習 理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	センゲージラーニング Medical English Clinic 西原俊明著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	前期と比べるとより専門的な会話の内容になっているため復習は必ず行うこと。(週60分) またreading activityのトピックの内容に関する日本語での知識、また英単語等も前もって調べておくと良い。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	哲学へのいざない		
授業担当者名	稲垣 恵一		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ前期)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1PHI9-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 現代を形作る学問や社会のあり方について理解すること。</p> <p>2. ITをはじめとする情報や日常生活から、生き方や社会のあり方についての哲学的問題について見つけ、自分の考え方を育てるようになる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>哲学は、人生論や屁理屈、非現実的な空想と見なされがちであるが、本当は自己とそれを取り巻く他者・社会との関係を自分に軸足をおいて総体的かつ論理的に捉えていく知的営為である。本講義では、最先端科学技術(医療・環境)、経済社会の仕組み、情報化社会、男女共同参画を基本線とし、学生の皆さんが、(1)「現代を形作る学問や社会のあり方について理解すること」、(2)「ITをはじめとする情報や日常生活から、生き方や社会のあり方についての哲学的問題について見つけ、自分の考え方を育てるようになる」ことを目標としたい。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>(1) リアクションシート(10%) 講義前後の感想および質問を書いてもらい、授業に積極的に参加しているのかどうかを評価する。</p> <p>(2) 授業内容の理解度(90%) 授業内容についてどの程度理解しているのか、テキストをどの程度適切に読んでいるのか、自分でどの程度考えたのか、について評価する。</p> <p>(3) 授業への参画態度</p> <p>上記1~3を総合して評価を出す。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス この授業の進め方や単位の取り方について説明する。</p> <p>第02回 自然と人間 動物と人間がどう異なっているのか素朴に考える。</p> <p>第03回 芸術とは何か 古代の壁画を参考にしながら、芸術の意味について考える。</p> <p>第04回 科学技術と人間 臓器移植を中心に身体と人間の尊厳について考える。</p> <p>第05回 科学技術と労働 科学技術は本当に人を楽にしているのかどうかを検討する。</p> <p>第06回 社会と自由 監視社会と自律について考える。</p> <p>第07回 歴史と暴力 ユダヤ人がなぜ殺されねばならなかったのか、戦争の責任について考える。</p> <p>第08回 ジェンダーの哲学1 ジェンダーの基礎概念について学ぶ。</p> <p>第09回 ジェンダーの哲学2 ジェンダーと労働がどのように関わっているのかについて学ぶ。</p> <p>第10回 ジェンダーの哲学3 セクシュアルハラスメントとDVの仕組みについて学ぶ。</p> <p>第11回 ジェンダーの哲学4 LGBTと権利の問題について検討する。</p> <p>第12回 意識とは何か 自分とは何か、について考える。</p> <p>第13回 まとめと理解度確認</p> <p>第14回 哲学とは何か 哲学とはどのような営みなのかを考える。</p> <p>第15回 理解度確認の解説、授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	<p>教科書は使用しない。毎回、プリントを配布する。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシェル・オンフレ『〈反〉哲学教科書-君はどこまでサルか?-』(NTT出版)。 ・森下直貴、稲垣恵一他『生命と科学技術の倫理学-デジタル時代の身体・脳・心・社会-』(丸善出版) <p>いずれも購入の必要はない。</p>		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	テキストやノートを熟読して、日常について考えてみる。哲学の新書本程度の簡単な入門書を読むと、哲学の知的営みがよく理解できるだろう。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	心の科学		
授業担当者名	江畑 慎吾		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1～4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1PHI9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>ヒトを心の働きを科学的に捉えることで、人間を理解する上で必要な視点を得る。 【授業科目の到達目標】 1. 各領域における心理学の概要や特徴を説明できる。 2. 心理学の知見に基づき、人間の行動や思考のメカニズムを説明できる。 3. 科学的な視点から、人間生活の問題と解決策を説明できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>ヒトを理解する上で必要となる心のメカニズムについて紹介する。また、本講義では、単に知識の習得だけではなく、自身の生活の中で心理学の知見がどのように活かされているのかについて体験的な学びをすることを目的とする。具体的には、人間はいかにして外界を知覚し、日々どのような学習を行うのか、我々の行動や性格は、どのように決定づけられるのか等を取り上げる。それらについて、基本的な心理学の知識を実験や実例を用いながら解説する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>①授業内容の理解度 (70%) ②授業への参画態度・小レポート (15%) ③課題 (15%) 以上3点により総合的に評価する。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 導入：心理学とはどのような学問であるか 第02回 認知心理学 (1)：感覚・知覚 第03回 認知心理学 (2)：記憶のメカニズム 第04回 学習心理学 (1)：古典的条件付け 第05回 学習心理学 (2)：オペラント条件付け 第06回 学習心理学 (3)：行動の機能 第07回 中間振り返りと小テストⅠの実施 第08回 小テストⅠの解説と動機づけ理論 第09回 動機づけを活用した行動変容：トークンエコノミー法 第10回 社会心理学 (1)：認知バイアス 第11回 社会心理学 (2)：集団心理学 第12回 小テストⅡの実施と解説 第13回 発達心理学 (1)：人間の発達 第14回 発達心理学 (2)：発達の個体差 第15回 人間の無意識についてと全体のまとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>毎授業、レジュメを配布します。教科書は使用しませんが、以下の参考書が手元にあると、より理解が深まります。なお、配布資料を管理できるファイル等を用意しておくこと。 参考著書：心理学・入門 心理学はこんなに面白い サトウタツヤ・渡邊芳名 (書) 有斐閣アルマ</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>事前にアップされている事前学習動画を視聴し、学習を行う (週60分)。 授業後、自身の学びについてまとめレポートを提出する (週20分)。 授業で学習した内容を日常生活や自身の体験等と結び付け、現象を心理学の知見を用いて説明する (週20分)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	人間と教育		
授業担当者名	西尾 一		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1PHI9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	看護は「人の生きる力を引き出す営み」とも表現でき、看護師にとっては人を理解し人の生きる力を引き出すことは不可欠な資質・能力の一つである。教育も人の能力を引き出し発揮させることであり、教育について学ぶことはこれからの看護実践の土台となる。教育とは何か、人間形成における教育のあり方、人の発達や発達上の問題、現代社会の課題を捉えることなどを通して、人を理解していくための基礎的な力を培うとともに人に寄り添うための基盤をつくる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	「教育」を学校教育に限定することなく広義に捉え、教育の本質や意義、在り方などについて見つけていくことで看護への応用の可能性を広げる。講義形式の授業となるが、できる限り具体的な事例や実態、教育実践等を通して教育を捉え、教育に対して認識を深められるようにしていく。また、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、できる範囲で話し合い・意見発表の機会をつくるようにする。		
学生に対する評価の方法	授業や話し合いへの積極的参加(10%)、毎時間の授業の振り返り及び授業外課題レポート2本程度(40%)、数回の理解度確認(50%)を総合して評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 授業のオリエンテーション 「教育」を学ぶ意義(教育の目的、必要性)</p> <p>第02回 発達の仕方、教育の在り方(私教育と公教育の役割)</p> <p>第03回 発達段階と発達課題</p> <p>第04回 非認知能力の育成</p> <p>第05回 学習の成立と学習意欲</p> <p>第06回 指導者の役割(看護師の仕事と指導の関わり)</p> <p>第07回 指導とコミュニケーションスキルの関わり</p> <p>第08回 現代の教育問題Ⅰ(発達障害、特別支援教育など)</p> <p>第09回 現代の教育問題Ⅱ(子どもの貧困、虐待など)</p> <p>第10回 看護と教育評価の関係</p> <p>第11回 我が国の学校制度</p> <p>第12回 現代の教育問題Ⅲ(いじめや不登校問題など)</p> <p>第13回 これからの教育と未来の学校</p> <p>第14回 看護師の学びとキャリア形成、授業全体の振り返り(学生受講結果アンケート)</p> <p>第15回 授業全体のまとめ、理解度確認</p>		
使用教科書	教科書は特に指定しない。必要に応じて資料やワークシート等を自作し配付する。 (参考図書) 「よくわかる教育原理」(ミネルヴァ書房)他		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	授業計画を参考に、最近の教育動向や授業内容に関連した内容の検索等を行い、予習しておく(週60分)。また、授業外課題への取組を通し、「看護師の仕事と教育との関わり」について主体的に理解を深める(授業外課題レポートの作成:1本あたり90分×2本)なお、各種メディアに掲載される現代的な教育問題(いじめ、虐待、不登校など)にも関心をもち、捉えるよう心掛けていく。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	民族と文化		
授業担当者名	杉尾 浩規		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ前期)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1CVL9-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>日々私たちは文化に関する多様な情報の中にいます。しかし、そのような情報を捉える方法＝「文化の考え方」もまた多様です。つまり、どのような考え方に依拠するかによって、文化の理解は大きく変わる可能性があります。そして、自分が依拠する「文化の考え方」に無自覚であることは非常に危険でもあります。なぜなら、それは、自らが暗黙の内に当然としている「文化の考え方」によって自らの文化を更には異文化を勝手に理解することだからです。自らの「文化の考え方」に無自覚であることの危険性は、何が危険であるのかを全く分からない状態に当人が陥っていることにあります。本授業では、「世間」という日本の文化的な生活世界について客観的に考えます。そして、多様な文化的背景を持つ人々が共生する国際社会の一員として必要不可欠な多角的で柔軟なバランス感覚を伴う考え方を身に付けます。「他者の考えの多様性を認めると同時にその中で自らの考えを創り出しそれを他者に伝えることができるようになる」ことが本授業の到達目標です。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>本授業では、日本における異文化理解という視点から、歴史学者の阿部謹也による日本の伝統的で文化的な生活世界＝「世間」についての研究を検討します。そして、「世間」を相対化することによって異文化理解へと開かれた態度を身に着けます。はじめに、阿部謹也「世間」論の概要を示します。それに続いて、「世間」論の特徴を具体的な研究テーマに即して理解します。最後に、阿部謹也「世間」論の応用編として、鴻上尚史の「世間」論を紹介します。本授業では、日本の伝統的で文化的な生活世界である「世間」を、感情論に基づく独断的な主義主張に陥ることなく、冷静かつ客観的に捉えるための考え方と態度を養うことを目指します。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>総授業数の3分の2以上の出席を条件に、毎授業提出のリアクションペーパーを評価資料とした平常点評価100%とします。出席票を兼ねたアクションペーパーは「授業の要約(文脈)記述」+「お題(課題文)に対応した感想記述」からなり、記述の「量」と「質」を評価基準とします。記述の「量」は、リアクションペーパー片面3分の2~フル(用紙の大きさに依存)を目安とします。記述の「質」は、「要約記述」を前提として、お題(課題文)との関連性により判断します。本授業は平常の学習状況に基づく評価であり、期末試験は実施しません。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 イン트로ダクション：講義の概要 第02回 阿部謹也の「世間」論(1)：「世間」を考えるための準備 第03回 阿部謹也の「世間」論(2)：「世間」のルール 第04回 阿部謹也の「世間」論(3)：「世間」教、みんな一緒にラクがいい 第05回 「世間」を対象化する(1)：ただより高いものはない 第06回 「世間」を対象化する(2)：謝罪とバッシング 第07回 「世間」を対象化する(3)：家族という「世間」 第08回 「世間」を対象化する(4)：学校という「世間」 第09回 「世間」を対象化する(5)：対人恐怖 第10回 「世間」を対象化する(6)：道徳心なき道徳レベルの向上 第11回 鴻上尚史の世間論(1)：「世間」と「空気」 第12回 鴻上尚史の世間論(2)：「世間」と「社会」 第13回 鴻上尚史の世間論(3)：「世間」と「空気」の対処法 第14回 鴻上尚史の世間論(4)：「親の期待」という「世間の同調圧力」 第15回 終わりに：講義の振り返り(学生受講結果アンケートの実施) ※リアクションペーパーで多く見られた疑問や感想などはフィードバックとして次回の授業で紹介し検討します。</p>		
使用教科書	<p>特定の教科書は使用せず、毎回レジュメを配布します(原則としてレジュメの再配布はしません)。</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>毎回の授業内容は、それまでの授業内容を前提とし、それぞれ関連しながら次の回へと展開します。それまでの授業レジュメを復習して全体的流れをイメージしながら、毎回の授業に出席して下さい。また、事後学習として、授業レジュメや授業内で紹介する文献を積極的に読書し、授業内容の理解を深めて下さい。毎回、それぞれ授業時間の二倍を目安に、準備学習・事後学習に取り組んで下さい。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	日本の歴史		
授業担当者名	今井 隆太		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ後期)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1CVL9-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマは「欧米の眼をとおしてみた日本」。中世におけるヨーロッパとの出逢いから始める。日本人とはなにか、日本の文化と社会は外国人の目にどう映ったのかを見ていく。初期の外交官は宣教師であり、商人であった。江戸時代を鎖国と断じるのはもはや間違い。ヨーロッパのグローバルなネットワークに、日本もしっかり組み込まれていたことを知る。幕末から明治・大正にかけての日本は、そのネットワークを積極的に活用し独立を維持した。近代日本は日本民族の成功体験であるとともに、挫折体験を含むものである。その時代時代に日本へ来、日本の姿を書き留めた記録をとおして、今日に至る日本の姿をしっかりと見極め、今日を、そして未来を生きる糧としたい。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>日本の近代がどのように成立したか、織豊時代に始まり、明治期までの日本と外国との関わりを、主に外国人によって書かれた資料を読むことによって理解する。キリスト教の宣教師たちに始まり、出島のオランダ商館の医師たち、幕末に開国を迫り、駐在し又は旅行した記録を読む。『ペリー提督日本遠征記』、アーネスト・サトウの『一外交官の見た明治維新』、オールコックの『大君の都』などを通して「生きた時代」を実感する。文字文献のみならず錦絵や漫画、写真などを用いて、時代の感覚を蘇らせ、そこに生きていた人々の声を聴きたい。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>15回ある授業がすべてであり、期末試験、期末レポート等は実施しない。毎回回収するリアクション・ペーパーにおいて、記述式で設問に答える必要がある。なお、リモートの場合は、後日資料は教室で印刷教材を受け取る。リアクション・ペーパーの提出も紙で出す。クラウド上の資料を読むのは、時間も手順を踏むことも必要だから。印刷資料だけでは不足なので、音声資料を別途用意する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 イエズス会宣教師のみた日本、布教の可能性と有望性について 第02回 オランダ商館の医師たち その1:ケンベル 第03回 オランダ商館の医師たち その2:ツェンベリー、シーボルト 第04回 17/18世紀のグローバルネットワークと日本 第05回 蘭学の発展から開国まで 第06回 ペリーとその先駆者たち 第07回 アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』 第08回 オールコックの『大君の都』 第09回 岩倉使節団と征韓論 第10回 日露戦争前後の日本外交 第11回 協調外交と強硬外交 第12回 ジョゼフ・グルー『滞日十年』 第13回 『奥地紀行』のイザベラ・バード、『その日その日』のモース 第14回 『日記』のベルツ、再話のハーン、ケーベル先生 第15回 キャサリン・サンソム『東京に暮らす』と授業全体の振り返り (学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	<p>テキストとしてなにか一冊という指定はしない。プリントを配布、あるいはPDF形式でダウンロードできるようにする。過去には講談社学術文庫『ライシャワーの日本史』を用いたことがある。この本は日本の歴史の概略を把握するのに有効であるので、授業の中でときどき言及することがある。従って、これを所持して、あるいは通読しておくのは役に立つ。ただ、教科書的に使う訳ではないし、持っているのが必須というわけでもない。いま歴史に関する本は多い。高校までに使った本が自宅にあれば、脇に置いて時々ひらくとよい。</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>講義を聴いて、あるいは教材を視聴して、課題をこなしていれば充分であろう。日頃から歴史に興味を持てれば持って、自宅の近くに遺跡があれば訪れるとか、説明板があれば読んでみるとか、そういう趣味をもてれば良いだろう。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	医療の歴史		
授業担当者名	福田 真人		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1～4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1CVL9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の歴史の中の疾病に対する医学、医療の役割の再認識 2. 病気に対する看護の役割の評価 3. 医療、看護の人間への貢献 <p>〔到達目標〕</p> <p>看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探求・具現化できる。 寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>人間の歴史とともに実践されてきた医療の歴史を学ぶ。医学史・看護学史を含んだ医療の歴史を学ぶことにより現在の保健・医療・福祉の成り立つ基盤を理解し、その将来も考える。看護学を学ぶ導入として医学の概念を学問的にとらえ、理解する確かな基盤とするための学習である。医学の歴史の変遷をたどりながら、医学とは何か、その中の看護とは何かを学ぶ。歴史は今をつくりあげている出来事であり、未来へつながる出来事である。今、医療分野・看護分野が直面している課題の根は歴史の中にあるともいえる。医学・看護学が人間や社会とどのように関わり形作られてきたのかその歴史を学び、時代・社会の変化に対応し変化し続ける医学・看護学のあり方について、看護の対象となる人々の生活の質を向上するための看護職者として自らの責務を考える機会とする。</p>		
学生に対する評価の方法	授業への参加態度(20%)、レポート(50%)、小論文による理解度の確認(30%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 イン트로ダクション：医学と医療、看護とは</p> <p>第02回 人類と病と恐怖</p> <p>第03回 ペストの歴史</p> <p>第04回 コレラの歴史</p> <p>第05回 梅毒の歴史</p> <p>第06回 結核という病の概要</p> <p>第07回 結核の治療法の変遷</p> <p>第08回 衛生、死亡率の変化</p> <p>第09回 結核と看護</p> <p>第10回 結核の美化(文化史的俯瞰)</p> <p>第11回 結核の歴史(英国)</p> <p>第12回 結核の美化(世界)</p> <p>第13回 結核の歴史(日本)</p> <p>第14回 結核の歴史(日本)</p> <p>第15回 医学と看護とは一体何なのか：未来の指標 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	プリントを配布します。		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>医学史概要を知る為の読書が推奨される。医学、医療、看護の歴史的経緯をたどる際に、その関連事項を予め学習しておく事は有意義であろう。医学の変遷史を知れば、それ自体で医学思想の大きな流れを把握できよう。すると今日の再先端医学に至る、長い道程が理解でき、医学、医療、看護が一夜にしまったものでない事が理解できる。そして、今後もなお発展を続けていくものであるという事が認められよう。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。</p> <p>学習のヒントは、実は日常にふんだんにあります。医学、医療、看護は遠くにあるようで身近です。日々の生活の中に、おもしろい種を色々と発見して、それを学びの糧としてください。（参考図書：福田真人『結核の文化史』名古屋大学出版会、福田真人『結核という文化』中央公論社、福田真人『北里柴三郎』思文閣出版、シゲリスト『文明と病気』（岩波書店）、立川昭二『病気の社会史』（NHK出版）</p>
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	海外の文学		
授業担当者名	鈴木 薫		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ後期)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1LIT9-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：英米文学の世界に触れることで、英語学習に必要な一般常識である英語圏の歴史や文化に関する知識を獲得する。</p> <p>到達目標： 1. イギリスやアメリカの歴史・社会・文化を理解する。 2. 作品鑑賞を通して異文化社会や人間関係について学ぶ。 3. 英語という言葉の理解を深め、文字と音声の関わりを知る。 4. 英語音声の特徴を学ぶことによって、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	英語力のさらなる向上を目指す学習者にとって、英語圏の文学作品の背景にある歴史・社会・文化について知ることは重要となる。これらについての知識が豊富であれば、異文化理解が容易となり、コミュニケーション能力も向上するからである。国際語としての地位を確立している英語の文化的な基礎知識を獲得することは、グローバルに活躍する社会人を目指す者にとって役立つものとなるであろう。詩のリズムを学ぶことは、英語のプロソディ(韻律学・作詞法)を学ぶことであり、英語音声の表現力を培うものとなる。		
学生に対する評価の方法	①受講態度(10%) ②英語圏の歴史と文学に関するテスト(45%) ③米文学作品に関するレポート(15%) ④英文学作品に関するレポート(15%) ⑤英語の詩とプロソディに関するレポート(15%) を総合して評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 授業の目的・内容・日程・課題・レポート・テストなどについての説明 英国の歴史と古代英文学：ベウオウルフ・アングロサクソン年代記 第02回 英国の歴史と中世英文学：チョーサー 第03回 英国の歴史と近代英文学：シェークスピア 第04回 米文学の独立期・開花期・金ぴか時代と歴史的背景 第05回 近代と現代の米文学：失われた時代・第二次大戦後の文学 第06回 英語圏の歴史と文学に関するテスト 第07回 米文学作品の鑑賞：登場人物の人間像と心理的变化 第08回 米文学作品の鑑賞：全体的分析と発展的解釈の手法 米文学作品に関するアクティブ・ラーニング 第09回 英文学作品の鑑賞：ピグマリオンとマイ・フェア・レディ 第10回 英文学作品の鑑賞：マイ・フェア・レディと英語プロソディ 英文学作品に関するアクティブ・ラーニング 第11回 英語音声の変化とプロソディ 第12回 英語の詩の韻律 第13回 英語の詩とプロソディ(マザーグース) 第14回 英語の詩とプロソディ(ポピュラーソング・他) 英語の詩とプロソディに関するアクティブ・ラーニング 第15回 作品鑑賞レポートの講評・発展的学習のすすめ・授業全体の振り返り 学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	随時、プリントを配布		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	毎回配布されるプリントを、年代ごとに整理しながら、復習ノートを作成し、歴史上の出来事が、言語や文学に与える影響に着目し、因果関係を把握する。(週90分) 授業で紹介する文学作品の日本語に翻訳したものを読んだり、映画化されたものを鑑賞したりすることで、作品について理解を深める。(週90分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	法と社会		
授業担当者名	早川 秋子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1S0C9-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>本講義は、法律をはじめて学ぶ学生を対象に、主として私法分野における法律学の基本的な考え方を理解していただくことを目的とする。私たちの市民生活は法律と密接に関係している。</p> <p>法律学の考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養ってほしい。</p> <p>講義を通して、生活の中のルールを見直してみよう。</p> <p>さあ、諸君の身近な親族法から始めていこう。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>単位修得のための丸暗記でなく、法律を活用していく力の養成を目標とする。</p> <p>講義の中で、基本的な判例をいくつかコピーして配付する。それらの判例を読み解き、今後の問題点を一緒に考えていく作業を項目終了ごとに行う。</p> <p>そうした作業により、六法を片手に、現実の問題にも法的解決の説明ができるようになっていこう。同時に法律のおもしろさや難しさを実感してもらおうことになろう。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>積極的に参加する姿勢を強く求める。当然のことながら私語や内職は厳禁である。</p> <p>①受講態度 ②不定期に行う小テスト(講義時間中にレポートを作成してもらうことがある) ③理解度確認 (①20パーセント+②20パーセント+③60パーセント 以上より総合的に評価する)</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション・民法とは？ 第02回 婚姻法 i 法律婚と事実婚 第03回 婚姻法 ii 離婚制度 第04回 (事例研究) 有責主義離婚から無責主義(破綻主義)へ 第05回 親子の法 i 親と子の権利・義務 嫡出子と非嫡出子 第06回 親子の法 ii 養子制度 第07回 (事例研究) 代理母契約による親子関係は？性同一性障害の父？ 第08回 相続法 i 法定相続 第09回 相続法 ii 遺言 第10回 私的自治の原則と契約の成立・効果 第11回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示 契約の無効・取消 第12回 代理制度 無権代理と表見代理 三河屋のサブちゃんが金もってトンズラ？ 第13回 物権法定主義 夢のマイホームに潜む危険アレコレ 第14回 損害賠償を請求しよう(不法行為とPL法) 第15回 理解度確認 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p> <p>(最終日に欠席した場合の理解度確認はレポートで評価する)</p>		
使用教科書	「法学六法」24年度版 信山社 (最新版が望ましいが、第1回で説明する)		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>講義で扱う内容は新聞やニュースで日々報道されている内容と深く関係しています。</p> <p>いつ、どんな出来事が起こってどのような問題が生じたのか、それについて自分は何を感じたのか、と日々問題意識を持つことが、法に取り組むきっかけになります。</p> <p>興味を感じたら、直ぐに参考書等を利用して、関係項目に目を通し、自分なりにまとめる習慣をつけましょう(週60分)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	日本の憲法		
授業担当者名	早川 秋子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1～4年次前・後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1SOC9-04
備考	管理栄養学部・メディア造形学部：1～4年次前・後期 ヒューマンケア学部：1年次 看護学部：後期		
授業のテーマ及び到達目標	憲法改正が現実的な議論となってきている。日本は、第二次世界大戦終結のためにポツダム宣言を受諾し、今後の近代国家のあり方を憲法に示した。国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を3本柱とする憲法の内容を理解し、国民の権利を尊重するとは具体的にどのようなことか等、事例の整理を通して理解し、各自が自分の言葉で、①国民の権利義務、②平和維持について考えた上で、③国民主権、国づくりのあり方について、自分の考えをしっかりと他者に伝えることができるようになる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	憲法の歴史を踏まえながら、基本的人権について、判例を通して整理する。法の下での平等や表現の自由を身近な問題に照らし合わせながら整理する。平和維持に関する問題では、湾岸戦争以来の国際社会の動きを軸にして自衛隊問題や国際協力について整理する予定である。自律した自己改善を継続的に行うために日々の生活の中でも、法について、国家のあり方について思考する習慣を身につける。 必要に応じてプリント配布、DVDやパワーポイントを使用する。		
学生に対する評価の方法	積極的に参加する姿勢を強く求める。当然のことながら私語や内職は厳禁である。 ①授業への参画態度 ②不定期に行う小テスト(講義時間中にレポートを作成してもらうことがある) ③理解度確認 (①20パーセント+②20パーセント+③60パーセント 以上から総合的に評価する)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 (オリエンテーション) 憲法とは何か どのような内容であるかを理解する</p> <p>第02回 権利の主体 特別な法律関係 外国人参政権や子供の人権制限</p> <p>第03回 条文明記の国民の権利義務の整理</p> <p>第04回 新しい人権 プライバシー権を例に整理してみよう</p> <p>第05回 自己決定権 尊厳死を例に考えてみよう</p> <p>第06回 人身の自由 刑罰・死刑制度・国民裁判員制度について考えてみよう</p> <p>第07回 法の下での平等 女性の再婚禁止期間違憲裁判を例に考えよう</p> <p>第08回 表現の自由の優越的地位</p> <p>第09回 信教の自由と政教分離 靖国神社に政治家が参拝すると騒がれる理由</p> <p>第10回 平和主義1 戦争放棄 (歴史的視点から考える)</p> <p>第11回 平和主義2 国際貢献 (政府の憲法解釈を基に考える・イラク自衛隊派遣違憲訴訟)</p> <p>第12回 社会権 生活保護の受給と生存権 朝日訴訟を事例に整理しよう</p> <p>第13回 一票の重み 権力分立の原理</p> <p>第14回 弾劾裁判所・改正手続きと課題</p> <p>第15回 総まとめ・理解度確認 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p> <p>(最終日に欠席した場合の理解度確認及び再評価はレポートで評価する)</p>		
使用教科書	田中・大野編『法学入門』(第2版)成文堂		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	講義で扱う内容は新聞やニュースで日々報道されている内容と深く関係しています。いつ、どんな出来事が起こってどのような問題が生じたのか、それについて自分は何を感じたのかと、日々問題意識を持つことが、憲法に取り組むきっかけになります。興味を感じたら、直ぐにテキストの関係項目に目を通し、自分なりにまとめる習慣をつけましょう(週120分程度)。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	社会と福祉		
授業担当者名	石田 路子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2S0C9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 現代社会における福祉分野の課題について、その原因や背景を知るとともに、医療分野とのかかわりを正しく理解する。そのうえで、看護専門職として、医療と福祉の分野をつなぐ複合領域において果たすべき役割や機能を認識し、問題解決に向けて、どのように自らの力を発揮・実践していくかを考える力を獲得できる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービスの対象となる人々の生活状況や社会背景を理解し、看護専門職としてのアプローチ方法を考察する。 2. 福祉分野と医療分野の連携を視座にいれ、それらの複合領域において果たすべき看護専門職に求められる学びの力を養成する。 3. グローバル社会を対象とした幅広い福祉課題に取り組み、国際協力への積極性を身につける。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「思考力・判断力・想像力」◎		
授業の概要	現代社会の福祉分野に関わる様々な課題について、その原因や背景を正しく理解して問題点を抽出する力を身につける。また、医療分野とのかかわりについて、各分野の専門職連携を視野に入れながら実践的に理解し、看護専門職としての役割や機能を確認する。さらに、グローバル社会を見据えた福祉課題に着目し、看護専門職に求められる社会的な役割についても考察する。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に判断する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 社会福祉とは</p> <p>第02回 社会福祉の重要ワード</p> <p>第03回 福祉の歴史(1)古代から近代</p> <p>第04回 福祉の歴史(2)現代まで</p> <p>第05回 現代日本の福祉施策</p> <p>第06回 社会保障のしくみ</p> <p>第07回 子どもと福祉</p> <p>第08回 子ども家庭福祉施策</p> <p>第09回 児童虐待問題について</p> <p>第10回 障害と福祉</p> <p>第11回 障害者福祉施策</p> <p>第12回 高齢者と福祉</p> <p>第13回 認知症関連施策</p> <p>第14回 地域包括ケアシステムについて</p> <p>第15回 まとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>パワーポイントデータを使用する。</p> <p>参考図書：川村匡由、石田路子ほか 「地域福祉と包括的支援体制」 ミネルヴァ書房</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>現代社会における福祉課題について、各自で授業前にどのような問題があり、その原因や背景について事前に調べ、講義において質問や確認したいことを準備しておく(週90分)。</p> <p>また、講義後には配布された資料や、自ら記入して作成したワークシートに基づき、新たな気づきや問題解決に結びつくような発見等があれば、それらのことについてコメントを付しながらノート等にまとめ、逐次、提出を求められるリアクションペーパー等に反映させる(週90分)。</p> <p>看護専門職として医療はもとより福祉分野との関連を視野に入れた幅広い観点から問題解決の視点を身につけてほしい。参考図書として、『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 社会福祉』編著/山崎泰彦(神奈川県立保健福祉大学名誉教授)、鈴木真理子(社会福祉法人奉優会理事) B5判/236頁。なお、疑問をもった点、関心をもった点については、各自で調べる習慣を身につけてほしい。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	世界の動き		
授業担当者名	大園 誠		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ前期)
教員担当形態	講義	ナンバリングコード	201-1CVL9-04
備考	新鮮な知的好奇心を持ち、楽しみながら学び、柔軟でしなやかな思考力を身につけたい学生を歓迎する！		
授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 「現代世界事情」を理解するために、戦後世界の歴史と、各国政治の実態を学んだ上で、自らの興味・関心に基づいたレポートを執筆することで、現代世界の多様性を把握する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日必ず新聞・テレビ等でニュースを読み解く習慣を身につけることで、ひろく世界に対する興味・関心を持ち、異なる他者に対する理解力や想像力(他者感覚)を持つ 2. 現代(特に第二次世界大戦後)における、世界の「歴史」と「実態」を学ぶことで、世界の「多様性」を理解し、政治的判断能力を身につけ、日々生起する「政治現象」を自分なりに読み解けるようになる 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>「世界の動き」では、「現代世界事情」を学ぶ。ヨーロッパおよびアメリカは歴史的に「豊かな政治的実験場」と言われており、その豊富な歴史的経験から現在のわれわれが学ぶことは非常に多い。従って、日本を含む、いわゆる「先進諸国」が今後とるべき政治的選択肢(政治路線)を模索する上でのヒントも豊富に存在する。ヨーロッパおよびアメリカの多様性と魅力を知り、それが抱えている問題点を考えることで、これからの世界が目指すべき方向性も見えてくるかもしれない。そのような豊かな政治的構想力を身につけてもらいたいと願いつつ、「世界の動き」を学んだ受講生の皆さんが、日々生起する「政治現象」を読み解き、自分なりに考察し判断できるようになることを目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>成績は、「理解度確認」40%、「レポートの執筆とプレゼンテーション」40%、「平常点」20%(毎回の受講態度、コメント用紙の提出実績と内容、レポートや感想などの提出実績とその内容に現われる積極的参加姿勢を総合的に評価)、合計100%で評価する。毎回の講義に参加した受講生には、「コメント」の提出を義務づける。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 「世界の動き」を学ぶ意義 ※ガイダンス 第02回 戦後世界の歴史(1)「冷戦」とは何か 第03回 戦後世界の歴史(2)「福祉国家」とは何か 第04回 戦後世界の歴史(3)「新しい社会運動」と「新自由主義」 第05回 戦後世界の歴史(4)「EU統合」と「グローバル化」 第06回 前半のまとめ/理解度確認(第1回確認問題) 第07回 各国政治論(1)アメリカ 第08回 各国政治論(2)イギリス 第09回 各国政治論(3)フランス 第10回 各国政治論(4)ドイツ 第11回 各国政治論(5)イタリア 第12回 現代世界の多様性(1) ※受講生によるプレゼンテーション 第13回 現代世界の多様性(2) ※受講生によるプレゼンテーション 第14回 現代世界の多様性(3) ※受講生によるプレゼンテーション 第15回 後半のまとめ/理解度確認(第2回確認問題) 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p> <p>「賢者は歴史に学び、愚者は体験に学ぶ」「政治とは可能性の芸術である」(ビスマルク) 「歴史とは…現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話です」(E. H. カー) 「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」(ヴァイツゼッカー) 「私が望むのは、考えることで人間が強くなることです」(映画「ハンナ・アーレント」) 「混沌への陶醉でもなく、秩序への安住でもなく、混沌からの秩序形成の思考を！」(丸山眞男) 「世界を認識したければ、自身の心の深みに探せ。自分自身に出会いたければ、世界の果てまで目を注げ」(ルドルフ・シュタイナー)</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>指定教科書はなし。講義内容を理解するために役に立つ参考文献として、以下を推薦する。 ①中田晋自・松尾秀哉ほか編『入門 政治学365日』（ナカニシヤ出版、2024年近刊） ②佐々木雄太『国際政治史—世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年） ③松尾秀哉『ヨーロッパ現代史』（ちくま新書、2019年） ④明石紀雄監修『現代アメリカ社会を知るための63章』（明石書店、2021年） ⑤坂井一成・八十田博人編『よくわかるEU政治』（ミネルヴァ書房、2020年） ⑥広瀬佳一・小笠原高雪・小尾美千代編『よくわかる国際政治』（ミネルヴァ書房、2021年）</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>毎回の講義の復習はもちろんのこと、「世界の動き」を把握し、ひろく社会科学的な思考をマスターし、世界観を広げるための日常的な基礎訓練として、毎日必ず新聞・テレビ等でニュースを読み解く習慣を身につけることを課題とする。ひとつの目安として、毎日約30分はニュースに触れる機会を作って欲しい（週210分）。その成果として、講義に参加した受講生には、毎回「ニュース・コメント」の提出を義務づける。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	生命の科学		
授業担当者名	牧田 友香		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SC19-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p><テーマ> 生体のしくみを理解する。</p> <p><到達目標> 今後の専門科目を学ぶ上で必要な知識の基盤となる、生体のしくみを理解する。 ・人体の構成について、細胞レベル、組織レベルで理解する。 ・生体を構成している成分について理解する。 ・生体内で起こっている現象について理解する。 これらの知識を得たうえで、この知識が実生活でどのように役立つかを考え自らの生活に生かす。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	細胞の構造や機能、生体をつくっている成分、栄養素についての基礎的な内容について講義する。その上で、その知識が実生活でどのように生かせるかを考えるきっかけになるよう、身近に起こっている現象と照らし合わせながら進めていく。基礎的な知識を実生活と結び付けて考えることで、将来、健康な生活を送るためにどうするべきかを考えていく。		
学生に対する評価の方法	小テスト(40%)、理解度確認(50%)、授業への参画態度(10%) 以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 人体の構造・器官 第02回 人体の構造・細胞 第03回 人体の構造・生体膜(小テスト) 第04回 生体をつくる栄養素 第05回 アミノ酸・ペプチド 第06回 タンパク質の構造と機能 第07回 糖質の構造と機能(小テスト) 第08回 脂質の構造と機能 第09回 脂質の代謝とメタボリックシンドローム 第10回 ビタミン・ミネラルの機能(小テスト) 第11回 ヒトの遺伝子とタンパク質の合成 第12回 神経系と内分泌系 第13回 血液と免疫システム(小テスト) 第14回 理解度確認と授業全体の振り返り 第15回 フィードバックと追加説明		
使用教科書	適宜、資料を配布する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	配布された資料を見て、次回の講義で扱う内容について予習する。(週90分) 講義内容を振り返り、得た知識が実生活の中のどのような場面で生かせるかを考え、まとめる。(週90分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	性差の科学		
授業担当者名	青山 温子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SC19-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 看護学の基本的知識として、性と生殖、生物学的性差、社会文化的性差について学び、看護の対象となる人間をより深く理解した看護を实践できるようにする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性と生殖、生物学的性差について理解する。 2. 性差と健康、性差に関わる疾患について学ぶ。 3. ジェンダーすなわち社会文化的性差について理解を深め、健康との関わりについて学ぶ。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	看護学を学び看護を实践する上で、性差を理解することは重要な事項である。ヒトの生物学的性差は、遺伝子・染色体、性腺、性ステロイドホルモン、生殖器の形状や身体的特徴により規定されている。性分化の過程、性周期や妊娠のメカニズム、性ホルモンや身体的特徴の違いによる疾患の性差など、性差に関連する医学的事項について概説する。ヒトでは性と生殖が切り離され、ジェンダーすなわち社会文化的性差が課題となっている。ジェンダーが健康や社会生活に及ぼす影響について概説し、多様な社会での看護のあり方について考察する。		
学生に対する評価の方法	各回の講義終了後、小テストを実施する。小テストの合計点数(90%)と授業態度など(10%)を総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 生物学的性差：性と生殖、生物の性差、ヒトの性差</p> <p>第02回 性周期と妊娠：女性の性周期、男性の性周期、妊娠・分娩・産褥</p> <p>第03回 妊娠分娩合併症：妊娠中の合併症、分娩時の異常、産褥期の合併症</p> <p>第04回 不妊と生殖補助医療：不妊症、生殖補助医療、出生前診断</p> <p>第05回 避妊・家族計画：避妊の意義、避妊の歴史と文化・政治的背景、避妊の方法</p> <p>第06回 思春期・更年期・性教育：思春期/青年期、性教育、更年期・高齢者の性</p> <p>第07回 性感染症とエイズ：性感染症の歴史と現状、性感染症の病因・症状・治療、HIV/AIDS</p> <p>第08回 SOGI/LGBTI とセクシュアリティ：SOGI/LGBTI、セクシュアリティ、ダイバーシティとインクルージョン</p> <p>第09回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの背景、リプロダクティブ・ヘルスの課題</p> <p>第10回 性差医療：性差医療とはなにか、生理学的機能の性差、疾患・病態の性差</p> <p>第11回 健康指標の性差：人口統計の性差、疾病統計の性差、発育・栄養・生活習慣・介護の性差</p> <p>第12回 ジェンダー：社会・文化的性差：ジェンダーとフェミニズム、ジェンダーと開発、ダイバーシティとインクルージョン</p> <p>第13回 ジェンダーと社会・経済・教育：ジェンダーと社会、ジェンダーと経済・労働、ジェンダーと教育・科学</p> <p>第14回 ジェンダーと健康・栄養：健康状態に影響する社会・文化的要因、社会的マイノリティの女性の健康問題、ジェンダー・ベースド・バイオレンス</p> <p>第15回 ジェンダーと健康危機：健康危機・健康危機管理、自然災害、紛争、感染症 授業全体の振り返り</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>教科書：特に指定しない 参考書： - 天野恵子 編著 「性差医療」真興交易(株)医書出版部 (2005) - 伊藤公雄, 樹村みのり, 國信潤子著 「女性学・男性学-ジェンダー論入門 第3版」有斐閣アルマ (2019) - 青山温子 『ジェンダー』 日本国際保健医療学会編「国際保健医療学 第2版」pp 41-45 杏林書院 (2005) - 青山温子 『ダイバーシティ』 日本国際保健医療学会編「実践グローバルヘルス」pp 91-95 杏林書院 (2022) - 青山温子 『4. 保健医療とコミュニティ』『5. 保健医療とジェンダー』『6. 健康と社会的包摂』大森佐和・西村幹子編「よくわかる開発学」pp 112 -117 ミネルヴァ書房 (2022)</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>講義で学習したことについて、関連する書籍、新聞・雑誌、信頼できるウェブサイトの記事などを読んで理解をすすめ、自分や周囲の人たちのこととして考え、さらに考察を深める（週90分）。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	人間と地球環境		
授業担当者名	大矢 芳彦		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部のみ後期)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1SCI9-04
備考	対面授業		
授業のテーマ及び到達目標	<p>「人間と地球環境」のテーマは、「地球環境の過去を知り、現実を理解し、地球と人類の未来のためにどのように今を生きるかを考える」ことである。</p> <p>授業の到達目標は、宇宙の誕生、太陽系・地球の形成、生命および人類の歴史など過去の地球環境を踏まえた上で、現在私たちが直面している地球環境問題や自然災害を基に私たちと自然との関わり合いを理解すると同時に、環境問題や自然災害に対する対策、循環型社会、今後予想される宇宙開発や新技術を通して人類・地球・宇宙の未来について考察し、今に生きる私たちが未来の子孫や地球環境保全のために何をすべきかを考えることができる地球科学的な素養を身につけることにある。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>この授業は基本的に教科書を利用した講義形式で行う。具体的には毎回のテーマに即したプリントを配布し、パワーポイントによる説明を受けながらプリント内の課題に回答し提出するという形で行う。随時小テストで理解度を確認する。</p> <p>質問などは授業後にメールにて対応するが、希望があればzoomなどを用いて個別あるいはグループディスカッションによる質疑応答なども行っていく。</p> <p>授業の流れとしては、地球環境と人類活動について過去・現在・未来の順序で時系列的に学んでいく。</p>		
学生に対する評価の方法	毎回の課題が70%(5%×14回)、小テスト20%、最終課題10%		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>授業計画は、第01回のアンケート調査に基づいて決定されるが、大まかな授業計画は次のとおり。</p> <p>第01回 ガイダンスとアンケート(講義の内容・目的と単位取得の方法など)</p> <p>第02回 宇宙の構成と誕生(宇宙における地球の位置付けと私たちとの関係)</p> <p>第03回 太陽系の構成と誕生の大きさとその動き(太陽系の特徴と水惑星地球の誕生)</p> <p>第04回 生命の誕生(生命とは何か、なぜ地球にだけ生命が誕生したのか)</p> <p>第05回 生物の進化と地球環境の変化(生物の進化と地球環境との深い関連性)</p> <p>第06回 人新世に生きる(現代人が地球環境に影響を与えている事実とその素因)</p> <p>第07回 現在の地球環境問題1(地球温暖化とエネルギー問題)</p> <p>第08回 現在の地球環境問題2(生物種減少と海洋汚染、森林破壊)</p> <p>第09回 現在の自然災害1(プレートテクトニクスと地震災害・火山災害)</p> <p>第10回 現在の自然災害2(台風や都市型豪雨などの気象災害の現状)</p> <p>第11回 未来の地球環境(将来予想される地球環境の変化に人類は今何をすべきか)</p> <p>第12回 未来の自然災害(予想される巨大地震や宇宙災害にどう備えていくべきか)</p> <p>第13回 人類の未来(循環型社会の実現、宇宙開発、新技術などによる人類の明るい未来)</p> <p>第14回 生物、地球、宇宙の終焉(生物、地球、宇宙はどのように最期を迎えるか)</p> <p>第15回 理解度確認とまとめ、学生受講結果アンケートの実施</p>		
使用教科書	<p>「地球を知る」 荘人社</p> <p>参考書に関しては新書等を含め授業中に随時紹介する。</p>		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について、プリントを讀んでおくことはもちろん、わからない単語などは、予め調べておくことで授業内容が良く理解できる（週90分）。また、授業時に生じた疑問点等について自分で調べてみると、その知識が身につけやすい（週90分）。</p> <p>テレビや新聞、インターネットなどで環境やエネルギーの話題が報道されたときに、授業で学んだ事柄を思い出し考えることができれば、これが最も効果的な復習であり、この授業の目標が達成されたことにもなる。宇宙、地球、生命、人類、環境、エネルギーについては、生涯を通して学習していくことがふさわしい事柄であると思う。</p>
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	音楽の世界		
授業担当者名	愛澤 伯友		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1LIT9-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 「音楽とは何か」、「芸術とは何か」、「創作とは何か」を理解し、各自の領域においても探求する</p> <p>2. 西洋音楽と邦楽の違いを理解し、日本における「芸術」の意義を考察する</p> <p>3. 教養としての「音楽」との接し方を学び、教養を深める</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>「音楽」について、歴史、地理、文化、社会、宗教、民族、風俗、言語などのさまざまな角度からアプローチし、音楽の多様性の理解と同時に、本来のリベラルアーツとしての教養を高める。授業は毎回のテーマを中心に、講義、音、映像など、さまざまなサンプルから深く考察していく。</p>		
学生に対する評価の方法	各授業ごとのコメント(総計100%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 「音楽」とは何か? -オリエンテーション、音楽とは何か、西洋音楽と邦楽</p> <p>第02回 日本の音楽(1) -邦楽は西洋音楽だった(奈良時代、音楽の伝来、邦楽)</p> <p>第03回 日本の音楽(2) -舶来品の西洋音楽(明治時代、西洋音楽と邦楽)</p> <p>第04回 テキストと音楽(1) -歌い方には4通りもある(テキストと音楽との関係、西洋詩学)</p> <p>第05回 テキストと音楽(2) -和風ラップに至る道(日本語と音楽の関係、東遊歌、能楽、J-pop)</p> <p>第06回 宗教と音楽 -感動『戦場のピアニスト』を正しく鑑賞するために(宗教、民族と音楽)</p> <p>第07回 ポピュラー音楽 -Mozartの時代にもポピュラー音楽はあった(大衆芸能と芸術の差異)</p> <p>第08回 日本音楽の受容 -エッフェル塔と三味線(パリ万博、異国趣味、印象派の音楽)</p> <p>第09回 音律 -ドレミは対数?(音響学基礎、音律、世界の音階)</p> <p>第10回 『第9』とは -なぜ『第9』は年末恒例?(戦後西洋音楽受容史、西洋音楽の衰退)</p> <p>第11回 著作権 -自分の曲でも使用料払うの!?(音楽における国内、海外の著作権法の概説)</p> <p>第12回 オペラ -愛の結末は・・・(古典派オペラ、イタリア・オペラ、楽劇)</p> <p>第13回 電子音楽 -電子立国ニッポンはすごい(発振の原理、電子音楽史、日本の技術とアーティスト)</p> <p>第14回 民族音楽 -音楽は世界「非」共通言語(民族音楽とその関連、民族音楽からの享受)</p> <p>第15回 現代の音楽 -音楽、なう!(20世紀後半からの音楽と思想、音楽と社会、音楽と量子力学?)</p> <p>授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p> <p>※内容は、同時代的な出来事を取り扱うため、変更や順番の入れ替えがある。</p>		
使用教科書	指定なし。毎回の授業で資料を配布する。参考資料などについては授業内で紹介する。		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業で取り上げたテーマに関する楽曲や作品を鑑賞すること。また、作者、時代背景など、関連した項目についても幅広く調べる。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる、質問があればコメントまたは次回授業で確認すること（週90分）。できれば、実際に演奏会、公演に行くこと。こうした小さな鑑賞体験の積み重ねで芸術やリベラルアートな教養は高まる。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	映画の世界		
授業担当者名	柿沼 岳志		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1LIT9-06
備考	管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部は1年次のみ		
授業のテーマ及び到達目標	映画表現の多様性を物語論と編集論を中心に幅広く学ぶことによって、批評的な視座と歴史観を身につけることを目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	①批評的視座、②物語論、③編集論、④技術革新による表現の変化、の4点を軸に古典から現代映画まで多数の参考上映と共に論じる。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度(40%)：各回の出席フォームにて確認 ②授業内容の理解度(60%)：最終課題レポートにて確認 以上2点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 序論：比較研究①映画と演劇『侵略する散歩者』,比較研究②ミュージカルとMV-フレッド・アステアとマイケル・ジャクソン, ジーン・ケリーとBTS-</p> <p>第02回 批評的な視座 ヒッチコック/スピルバーグ, タランティーノ/『呪術廻戦』</p> <p>第03回 物語の構造分析① 『スターウォーズ』, 宮崎駿</p> <p>第04回 物語の構造分析② 『新世紀エヴァンゲリオン』, 『魔法少女まどか☆マギカ』</p> <p>第05回 アーキタイプとしてのファンタジー 『ロード・オブ・ザ・リング』, 『ハリー・ポッター』</p> <p>第06回 サイエンス・フィクションとしてのSF 『デューン砂の惑星』, 『宇宙戦争』</p> <p>第07回 スペキュレイティブ・フィクションとしてのSF 『ブレード・ランナー』, 『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』</p> <p>第08回 モンタージュ① 古典的ハリウッド映画とエイゼンシュテイン</p> <p>第09回 モンタージュ② アンゲロプロス, イニャリトゥ</p> <p>第10回 モンタージュ③ ゴダール, ガス=ヴァン・サント</p> <p>第11回 フレーム① スクリーン内での空間表現</p> <p>第12回 フレーム② VFX, 3DCGによるデクパージュの変化</p> <p>第13回 ヴァーチャル・リアリティ 押井守, 『マトリックス』, 細田守</p> <p>第14回 特撮的想像力 庵野秀明, ギレルモ・デル・トロ, ティム・バートン</p> <p>第15回 総論：説話/視座/モンタージュ, 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	使用しない。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	授業時に生じた疑問点等について調べ、復習する(週30分)。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	演劇の世界		
授業担当者名	田尻 紀子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期 (看護学部は1年次前期のみ)
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1LIT9-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕浄瑠璃の成立と古典演劇の展開</p> <p>1. 「文楽」として親しまれている人形浄瑠璃の成立と展開をたどり日本の文化の理解を深める。</p> <p>2. 浄瑠璃・歌舞伎の歴史について学び、代表的な作品を鑑賞できるようになる。</p> <p>3. 現代の日本文化への影響も含めて考察し、古典芸能や日本文化についての理解を深める。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>「文楽」として親しまれている人形浄瑠璃の成立と展開をたどりながら、浄瑠璃・歌舞伎の歴史について学び、代表的な作品を鑑賞できるようになると共に、現代の日本文化への影響も含めて考察し、古典芸能や日本文化についての理解を深めることを目標とする。浄瑠璃は、江戸時代に「語り」と伴奏を伴った人形劇として完成されたが、その源流は、中世の『平家物語』(平曲)にまで遡る。本講義では、浄瑠璃成立までの歴史的展開をたどった後、大人気を博した近松門左衛門の世話浄瑠璃作品を紹介し、その特色について考察する。また、作品を鑑賞しながら、歌舞伎との関わりや、時代物の三大名作『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』についても言及し、近世に流行した演劇や近世文化が現代に与えた影響について考察する。</p>		
学生に対する評価の方法	小テスト・レポート・授業への参画態度(約25%)、授業内容の理解度(約75%)などによって総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション・芸能の起源</p> <p>第02回 時代の特色-中世-</p> <p>第03回 『平家物語』と「語り」の成立</p> <p>第04回 平曲の衰退と早物語『浄瑠璃物語』の流行</p> <p>第05回 浄瑠璃節と人形浄瑠璃の成立</p> <p>第06回 歌舞伎と浄瑠璃</p> <p>第07回 古浄瑠璃と新浄瑠璃</p> <p>第08回 近松門左衛門について</p> <p>第09回 世話物の世界-『曾根崎心中』について-</p> <p>第10回 世話物の世界-『冥途の飛脚』について-</p> <p>第11回 作品鑑賞①</p> <p>第12回 時代物の世界-時代物三大名作-</p> <p>第13回 『義経千本桜』について</p> <p>第14回 作品鑑賞②</p> <p>第15回 理解度確認およびまとめ 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	必要に応じて資料を配付する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>作品鑑賞に際しては、資料を事前に配付するので、授業の前に目を通したうえで、あらすじや特色など、作品に対する基礎的な知識を身につけておくこと。</p> <p>シラバスや授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する(週30分)。</p> <p>授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週60分)。</p> <p>テキストは特に使用せず、講義と配布資料に基づいて授業を進めていくので、講義内容を把握できるよう、ノートの取り方を工夫すること。また、授業を始める前に、コメントの記入できる出席カードを配布するので、疑問をもった点、関心をもった点について、授業終了後に記入して提出すること。特に疑問点については、次回の授業時にも説明するが、自身でも自己学習を通して学びを深めてもらいたい。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	スポーツと健康1		
授業担当者名	大河原 絵里、正 美智子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独、一部複数 (主担当 : 大河原 絵里)	ナンバリングコード	241-1WEL9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の心身をより快適な状態にもっていこうとする意識や態度を養う 2. ヨガの基本的な姿勢を練習しながら、しっかり立つこと、理想的な骨格に矯正すること、バランスよく筋肉をつけることを目指す 3. 身体、呼吸、心を調整する身体技法をとおして心と身体のセルフケアができる能力を養う 4. 自らの身体、他者や環境と対話したり、調和していくための実践的な力を養う 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>ヨガは、ゆったりした呼吸や瞑想を組み合わせることで、集中力が高まり、穏やかで揺るぎない精神状態を作り出すことができます。深い腹式呼吸を意識して行います。呼吸で肺、横隔膜を動かすと、全身の血流を良くし、自律神経の活動を整えることができます。心と身体、自身と環境、呼吸と空間の狭間を呼吸、姿勢、瞑想を組み合わせ、心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得るものです。ヨガとは、将にサンスクリット語でこの「つながり」を意味しています。本実習では、将来の看護師としての勤務の過程で多様なストレスや環境変化に遭遇した際にも、常に心と体のバランス、平穏を保つための技法としてヨガを習得します。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>全体を通してワークショップの形態で実施する。受講参画態度40%、授業への取り組みの姿勢（技法や注意点を習得し、理解しようと努めたか。学んだことを積み重ねて、実際に身につけることができたかなど）40%、総合レポート（授業に対する理解度）20%など、総合的に評価する。なお、再評価は実施しない。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 オリエンテーション、簡単なヨガ / ヨガの歴史やヨガの効果について講義する。身体ほぐしと簡単なヨガのポーズを体験 <大河原・正 美智子></p> <p>第02回 ヨガの体験1. / 予備体操（首、肩、腕の凝りをとる体操）と基本アーサナの実践<大河原></p> <p>第03回 ヨガの体験2. / 予備体操と基本アーサナの実践<大河原></p> <p>第04回 ヨガの体験3. / 予備体操と基本アーサナの実践<大河原></p> <p>第05回 ヨガの知識を深める1. / ヨガのレクチャー（瞑想法について）、ヨガのアーサナの実践 <大河原></p> <p>第06回 現代生活とヨガ1. / 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践 <大河原></p> <p>第07回 現代生活とヨガ2. / 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践 <大河原></p> <p>第08回 現代生活とヨガ3. / 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践 <大河原></p> <p>第09回 ヨガの知識を深める2. / ヨガの効果についてのレクチャーとアーサナの実践および、呼吸法について<大河原></p> <p>第10回 心身とヨガ1. / アーサナの特徴と心につながりについて学び、実践する <大河原></p> <p>第11回 心身とヨガ2. / アーサナの特徴と心につながりについて学び、実践する <大河原></p> <p>第12回 心身とヨガ3. / アーサナの特徴と心につながりについて学び、実践する <大河原></p> <p>第13回 グループワーク1. / ヨガで得た心身の変化を実感しながらヨガをグループ内で実践する <大河原></p> <p>第14回 グループワーク2. / ヨガで得た心身の変化を実感しながらヨガをグループ内で実践する <大河原></p> <p>第15回 まとめ / 総合練習とレポート、授業全体の振り返り <大河原・正 美智子></p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>教科書は使用しないが、必要に応じてレジュメを配布する。</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>授業で習得したことを日常生活の中で活かすこと。例えば、身体の使い方や心身の調整などを復習する形で実践してほしい。とくに、呼吸法や瞑想法についての理解を深めてトレーニングを日常的に実践することを期待する。毎日15分から20分程度。 疑問点や分からなところは、質問すること。自己評価ノートを準備して、授業は勿論であるが、日常的にも感想や心身の気づきについて記すこと。ヨガに関連する多様な参考書籍やDVDを随時紹介する予定。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	スポーツと健康2		
授業担当者名	大河原 絵里、正 美智子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独、一部複数(主担当: 大河原 絵里)	ナンバリングコード	241-1WEL9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. いろいろな種類の音楽を用いて、その音色やリズム、アクセントを身体を使って表現することを考え、学習する</p> <p>2. 基礎的技術の練習では、身体に対する意識を高めて、ダンスエクササイズによる身体コンディショニングの基礎を学習する</p> <p>3. 身体、精神ともにコントロールすることを身につけ、ジャズダンスに大切なリズム感を養う。そして、音楽にあった感受性豊かな表現力を獲得し、洗練された動きを身につける</p> <p>4. グループワークにおいてコミュニケーション能力を高め、個性を生かしたジャズダンスを発表する</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>看護師にはその勤務状況から健康の維持向上が求められる。本実習では、ジャズダンスを通じて、将来、何時、何処でも身体を動かしながらストレスを解消し、柔軟な身体をつくり、バランスやリズム感を養い、心と身体を健康に保持するためのスポーツとして身につけたい。また、楽しみながらダンスを長く続けることによって、持久性を養い、トレーニングとしての効果も期待できる。ジャズダンスは、体脂肪の低下や心肺機能の向上など、身体に大変よい影響を及ぼすことが科学的にも証明されており、身体を動かすことの素晴らしさを発見し、心の安定感を得ることもできる実習としたい。</p>		
学生に対する評価の方法	受講参画態度30%、課題達成度50%、実技発表20%など総合して評価する。再評価は実施しない。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション / 授業の進め方、ジャズダンスの歴史、身体バランスチェック <大河原・正 美智子></p> <p>第02回 ウォーミングアップについて / ストレッチのポイント、基本的な身体の使い方を理解する <大河原></p> <p>第03回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(1) / 基本的なストレッチ、首・肩の動きを組み合わせた基本ステップ<大河原></p> <p>第04回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(2) / 基本的なストレッチ、胸・腰の動きを組み合わせた基本ステップ<大河原></p> <p>第05回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(3) / 基本的なストレッチ、様々な動きを組み合わせたステップ(1) <大河原></p> <p>第06回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(4) / 基本的なストレッチ、様々な動きを組み合わせたステップ(2) <大河原></p> <p>第07回 ボディートレーニングについて(1) / アイソレーションについて身体の各部分の基本的な動きを理解する <大河原></p> <p>第08回 ボディートレーニングについて(2) / アイソレーション・コンビネーション(1) <大河原></p> <p>第09回 ボディートレーニングについて(3) / アイソレーション・コンビネーション(2) <大河原></p> <p>第10回 ボディートレーニングについて(4) / アイソレーション・コンビネーション(3) <大河原></p> <p>第11回 ボディートレーニングについて(5) / アイソレーション・コンビネーション(4) <大河原></p> <p>第12回 応用(1) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(1) <大河原></p> <p>第13回 応用(2) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(2) <大河原></p> <p>第14回 応用(3) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(3) <大河原></p> <p>第15回 ダンス発表 / グループダンス発表、授業全体の振り返り <大河原・正 美智子></p>		

授業概要(シラバス)

使用教科書	教科書は使用しない。
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業内で学習したストレッチ、ステップ、コンビネーションダンスなどを各自復習しておくこと。日常的に15分から20分のトレーニング。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。授業で得た知識や動きを次の授業までに再度確認し、練習する必要がある。とくに不得意な点を重点的に注意してトレーニングを行う。

授業概要(シラバス)

授業科目名	スポーツと健康科学		
授業担当者名	正 美智子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1WEL9-03
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>「誰にも運動が必要という事実と科学的根拠」をテーマに、健康と身体運動の関わりを考える。そのためには、身体の組織や器官の働きを細胞レベルで知り、身体運動のメカニズムを理解することによって健康の意味や身体運動の意味がみえてくる。授業で得た知識と内容の理解から運動習慣を身につけて「よく生きてゆく人間」を目指す。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>現代生活における健康と身体運動の意味、健康と身体運動の関わり、身体運動のメカニズム、具体的な身体運動の実践方法、身体の機能などについて学び、運動の必要性を理解することにより、日常的に運動を実施して生涯にわたる身体の健康に対する意識を深める。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>①授業内容の理解度 (40%) ②課題の提出 (授業内における問いの解答を含む) (10%) ③自己学習 (調べ学習を含む) (20%) ④授業への参画態度 (30%) 以上、4点から総合して評価する</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 1. 身体は細胞のすみか、そして主は私 1) 自分を見る目をつくる 第02回 2) 身体運動の意味について考える 第03回 2. 宇宙空間における生体変化について解説する 1) 骨や筋肉への影響 第04回 2) 呼吸、循環器への影響 第05回 3. 運動しているとき、身体の中で何が起きているのか、「エアロビクス」を細胞や分子からつなげて考える 1) ヒトは動くようにできている 第06回 2) 有酸素性運動について解説する ・酸素供給能力と酸素利用能力について 第07回 3) 骨と筋肉のなめらかな連携プレイについて解説する ・筋肉についての知識と筋肉の働きを理解する 第08回 ・骨についての知識と骨の働きを理解する 第09回 第10回 4. 歩行の生涯健康 1) 歩行の定義について解説する 第11回 2) 歩行の運動学的意味について解説する ・ヒトの歩行の特徴 ・歩く速さと歩幅 ・歩く速さとエネルギー消費量 ・歩行と健康 第12回 5. 運動と身体の健康 1) 肥満の予防と解消 ・肥満の予防や解消に有効といわれる基礎代謝量や活動代謝量を高めるため のトレーニング方法について解説する 第13回 2) スマートダイエットについて解説する 第14回 3) 「健やかに痩せる」とはどういうことなのか考える 第15回 授業内容の理解度確認 第16回 授業全体の総括および振り返り (学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	生涯発達の健康科学 藤井勝紀編著 杏林書院		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none">・ 授業内容をノートに整理・記載する。そして、疑問や関心のある事柄についてはより深く調べてノートに記しておくこと。〈週90分〉・ 次回の授業範囲を教科書で予習し、専門用語の意味等を事前に調べておくこと。〈週45分〉・ 新聞などのメディアを通して健康科学、スポーツ科学、医科学分野のニュースに関心を持ち、身体や健康についての確かな知識を得るよう努める。〈週45分〉
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	食と健康		
授業担当者名	早戸 亮太郎		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次前・後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1WEL9-04
備考	メディア造形学部、ヒューマンケア学部、看護学部 ※看護学部は後期のみ		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 現在、食生活の乱れによる生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧症など)患者が増加傾向にある。本講義では、なぜ食べることが大切なのか、健康であるためにはどのような食生活が必要なのか、食べ物と生活習慣病の間にどのような関係があるのかについて、考え、理解する。</p> <p>〔到達目標〕 人体の構造を知り、食べ物が健康に与える影響を学習し修得できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	現在、食生活の乱れによる生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧症など)患者が増加傾向にある。本講義では、人体の仕組みを理解し、なぜ食べることが大切なのか、健康であるためにはどのような食生活が必要なのか、人間にとっての栄養素とは何か、その栄養素をどのように利用しているのか理解する。本授業は対面授業で実施する。		
学生に対する評価の方法	小テスト(60%)、理解度確認(40%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 食と健康 イン트로ダクション 第02回 炭水化物の構造 第03回 炭水化物の消化と吸収(小テスト) 第04回 タンパク質の構造 第05回 タンパク質の消化と吸収(小テスト) 第06回 脂質の構造 第07回 脂質の消化と吸収(小テスト) 第08回 ビタミンの種類と機能 第09回 ビタミンの種類と機能(小テスト) 第10回 ミネラルの種類と機能 第11回 ミネラルの種類と機能(小テスト) 第12回 代謝(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系) 第13回 食と健康にかかわる諸問題(生活習慣病)(小テスト) 第14回 理解度確認と解説 第15回 授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)		
使用教科書	適宜、資料を配布する。またICTを活用した資料配布を実施する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	講義内容を振り返り、資料やノートを見直し、早いうちに復習を行うこと。 (予習:週90分、復習:週90分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	情報リテラシー演習		
授業担当者名	山本 恭子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1ICT9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 情報に対する広範で適切な活用力を身につけ、大学生活で必需となるパソコンを用いたレポートの作成方法を学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本的な取り扱い、ワープロソフトの基本的な活用ができる。 2. SNSやネットの危険性を理解し、適切な活用ができる。 3. レポートの意味、調査方法、書き方を理解し、高い情報リテラシーをもって質の高いレポートが執筆できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・想像力」○		
授業の概要	<p>大学では、学習や研究の成果としてさまざまなレポートを作成しなければならない。レポートを論理的で効果的なものにするためには、インターネットを含めたコンピュータの活用能力に加え、テーマの決め方、調査の進め方、内容のまとめ方といったレポートそのものの作成技法も重要になってくる。これらに対応するため、本授業ではコンピュータの基本から学習を始め、よりよいレポートを効率的に作成するために必要となる考え方や知識を学び、最後に自ら決めた自由なテーマに沿ってレポートの作成を試みる。授業は、教員による解説、学生の実際の操作演習を織り交ぜながら進めていく。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内で提出する課題 (40%程度)、レポート (40%程度)、授業への参画態度 (20%程度) の3点から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション(受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明)</p> <p>第02回 PCの基本操作について知る (概論、各種基本操作、タッチタイプなど)</p> <p>第03回 インターネットとメール活用方法について知る (インターネットの歴史と発展経緯、ネットワーク社会の光と陰、電子メールの送受信方法、各種パスワードの変更方法など)</p> <p>第04回 ビジネス文書と基本書式について学ぶ (ビジネス文書とは、基本的な書式機能)</p> <p>第05回 メール文書と基本書式について学ぶ (メール文書とは、基本的な書式機能)</p> <p>第06回 作表と描画の方法について学ぶ (作表、イラスト、文字装飾、図形描画)</p> <p>第07回 理解度確認その1 (学習した機能を使い複合文書を作成)</p> <p>第08回 理解度確認その2 (同上) ※提出された課題は次回にフードバックする</p> <p>第09回 レポートの書き方について知る (大学でのレポートとは、論理的な文章とは、フォーマットについて)</p> <p>第10回 レポートを作成する1 (最近のニュースなどより各自がレポートテーマを決める)</p> <p>第11回 レポートを作成する2 (インターネットなどを利用した文献調査と考察)</p> <p>第12回 レポートを作成する3 (章立て・執筆)</p> <p>第13回 レポートを見直す (推敲・引用文献の提示)</p> <p>第14回 レポートを提出する (推敲・提出)</p> <p>第15回 レポートのフィードバック、まとめ、授業全体の振り返り (学生受講結果アンケートの実施)</p>		
使用教科書	なし。テキストの代わりとなる教材資料をMoodleに公開するので活用してほしい。副教材として「情報倫理ハンドブック (noa出版)」を使用する (入学時に配布、購入不要)。		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	授業での学習内容を復習 (反復練習) する (週45分程度)。レポート作成に向けて図書館や自宅などで情報収集や考察を行う (週1時間程度) タイピングスキルの向上を目指し自主練習を行う (毎日15分程度)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	表計算演習		
授業担当者名	山本 恭子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-2ICT9-02
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 表集計ソフトExcelを用いたデータの加工、管理、分析、活用について学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフトの基本操作（編集、加工）ができる。 2. 表計算ソフトの基本機能（計算、グラフ、データベース）を理解し、操作できる。 3. アンケートデータを用いたデータの集計、分析ができる。 4. 表計算ソフトの実践的な活用法を理解し、データ処理ができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「思考力・判断力・想像力」◎		
授業の概要	<p>社会では、ワープロや電子メールとならび、表集計ソフトの利用頻度は高い。この授業では、代表的な表集計ソフトExcelの基本的な操作方法から実践的な機能について学習する。さらに演習を通じて具体的な問題解決にコンピュータを活用する方法を学ぶ。その後、各自が決めた目的に従い高機能なワークシートを作成していく。</p> <p>受講者は、実現目標の設定、実現のための問題点抽出、試行錯誤による問題点の解決など、問題解決に必要な様々なプロセスを、これら演習を通して体験していく。このような体験を通じて問題解決のために必要な思考力・判断力を養うことを目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	理解度確認（30%）、授業内で提出する課題（50%）、授業への参画態度（20%）の3点から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 オリエンテーション（受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明）、Excelの基礎知識、データの入力</p> <p>第02回 シートの編集、計算機能</p> <p>第03回 グラフ作成、印刷</p> <p>第04回 関数の活用①（SUM/AVERAGE/MAX/MIN/COUNT/COUNTA関数）</p> <p>第05回 関数の活用②（RANK関数、絶対参照・相対参照）</p> <p>第06回 関数の活用③（IF関数、AND/OR関数、IFS関数）</p> <p>第07回 データベース処理</p> <p>第08回 理解度確認（次回の授業でフィードバックを行う）</p> <p>第09回 アンケート調査の基礎知識、設計方法</p> <p>第10回 アンケート集計① ピボットテーブル・ピボットグラフの活用</p> <p>第11回 アンケート集計② COUNTIF関数</p> <p>第12回 アンケート結果の分析</p> <p>第13回 アンケート調査報告書の作成</p> <p>第14回 アンケートの集計結果と報告書の提出</p> <p>第15回 提出課題のフィードバック、まとめ、授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）</p>		
使用教科書	なし。テキストの代わりとなる教材資料をMoodleに公開するので活用してほしい。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業での学習内容を復習（反復練習）する（週60分） 授業で学んだExcelの操作スキルを、実務の場でどのように活用できるか考える（週60分）		

授業概要(シラバス)

授業科目名	プレゼンテーション演習		
授業担当者名	山本 恭子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	201-1ICT9-03
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 スライドを活用したプレゼンテーション技法の修得。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの定義、目的が理解できる。 2. PowerPointを用いた効果的なスライド資料が作成できる。 3. 論理的なプレゼンテーションの組み立てが理解できる。 4. スライド資料を活用したプレゼンテーションが実践できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>プレゼンテーション能力は、学生生活では研究発表、社会人となってからも企画提案や事業報告など、多くの場面で必要とされている。本授業では、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を用いて資料作成の技術を習得する。さらに、論理的なプレゼンテーションの組み立てや話し方を学び、自分の伝えたいことを限られた時間の中で効果的に伝えるプレゼンテーション技法を身につける。授業の成果として、各自で選択したテーマに基づきインターネットや書籍等を活用しながら情報収集を行い、テーマに相応しいスライドと発表シナリオを作成し、対面式のプレゼンテーションを行う。その際に受講者同士による相互評価相互評価と自己評価を行い、改善点を把握することでプレゼンテーション能力の向上を目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>以下の各項目の得点を合計し、評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの実践① (20%)、プレゼンテーションの実践② (30%) : スライド資料を用いた対面式のプレゼンテーションを受講者全員2回行う (発表時間3分) ・課題 (30%) : 授業内で課題として作成したスライド等 ・授業への参画態度 (20%) : 授業に対する意欲的な取り組みを評価する 		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 ガイダンス (授業概要、進め方、成績の評価方法について説明)</p> <p>第02回 「プレゼンテーションとは何か」について考える、PowerPointの基本操作を学ぶ (1) 画面構成/レイアウトの選択/テキストの入力</p> <p>第03回 PowerPointの基本操作を学ぶ (2) ヘッダーフッターの設定/図形の挿入</p> <p>第04回 PowerPointの基本操作を学ぶ (3) アニメーションの設定/画面の切り替え効果/スライドショーの実行/リハーサル機能</p> <p>第05回 PowerPointの基本操作を学ぶ (4) 表・グラフの挿入/サウンドの挿入/配付資料の作成/印刷形式</p> <p>第06回 プレゼンテーション技法を学ぶ (1) ストーリー構成/情報収集の方法、プレゼンテーションの実践①の準備 (1) テーマの設定/ストーリーシートの作成/情報収集</p> <p>第07回 プレゼンテーション技法を学ぶ (2) 話し方・態度・聞き手とのコミュニケーション方法/評価のポイント、プレゼンテーションの実践①の準備 (2) スライド作成/シナリオを考える</p> <p>第08回 プレゼンテーションの実践①の準備 (3) リハーサル (時間配分を考える) 評価</p> <p>第09回 プレゼンテーションの実践① プレゼンテーションの実践と相互評価</p> <p>第10回 プレゼンテーションの実践①の振り返り 評価結果のフィードバックと自己評価</p> <p>第11回 プレゼンテーションの実践②の準備 (1) プレゼンテーションの実践①のフィードバック結果をもとに発表原稿・スライド等の修正作業を行う</p> <p>第12回 プレゼンテーションの実践②の準備 (2) 同上</p> <p>第13回 プレゼンテーションの実践②の準備 (3) 同上</p> <p>第14回 プレゼンテーションの実践② プレゼンテーションの実践と相互評価</p> <p>第15回 プレゼンテーションの実践②の振り返り 評価結果のフィードバックと自己評価、まとめ、授業全体の振り返り (学生受講結果アンケートの実施)</p> <p>※授業の中で数回にわたり、プレゼンテーションスキルの向上を目的としたスピーチ練習を行う。</p>		

授業概要(シラバス)

使用教科書	なし。テキストの代わりとなる教材資料をMoodleに公開するので活用してほしい。
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業での学習内容を復習（反復練習）する（週30分程度） プレゼンテーションの実践に向けて、授業外の時間を有効に使い情報収集を行う（週1時間程度）

授業概要(シラバス)

授業科目名	ボランティア演習		
授業担当者名	石原 貴代		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	<241-1IND9-01>
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業では、講義をもってボランティアを理解し、社会的課題を見出し、その解決者としてのボランティアの役割を知る。 講義・演習をもってボランティア活動の実践者として考え行動する基礎力をつけ、ボランティア活動を実際に行うために必要な知識と技術を学ぶ。 さらに、演習をもってボランティア活動を実践し、その意義を探究し、活動を振り返り、受講者間で共有する。 [受講科目の到達目標] 科目の目標(ボランティア活動の体験をとおして、課題を見出し、自発性・無償性・奉仕性のボランティアである自己の在り方を振り返ることが出来る。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会や人々が抱えている問題に気付く 2. コミュニケーション力の涵養 3. 国際社会へも目を向け、広く社会や人々が抱えている問題に気付く 4. ボランティア活動の意義を理解する 		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>日本には、親族や集落間で行われてきた結、強制力をもつ奉仕、課題解決のためのボランティア活動など様々な形のボランティア活動がある。 現代の日本が持つ社会的課題解決を解決するために、必要とする機関においてボランティアが要請され、希望者にマッチングされている現状にある。また、近年多発する自然災害に際しては多くの人々が駆け付けボランティアとして集まる状況にあり、専門性の高いボランティア活動の必要性も認識され、ボランティアへの理解は深まってきているといえよう。その一方で、ボランティアの存在は、少なからず労働と雇用に影響を与えている現状もみられる。また、日本のボランティアの考え方と世界のボランティアの考え方にも違いがある。 本授業は、講義、講義・演習、演習で構成し、ボランティアについて幅広く学び、ボランティア活動に必要な知識技術を身に付け、さらに、ボランティアとして社会活動に参加し社会的課題を見つけるとともに、課題解決のために自らが果たせる役割に気づくことができる力を養うことを目的とする。 また、海外ボランティアも目を向ける。 なお、各自でもボランティア活動を行うことが望ましいことを付け加える。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への参加 学習状況 30% 講義レポート40% 最終プレゼンテーション30% (別途ボランティアに参加した場合は、ボランティア報告書 ボランティア証明書 ボランティア先評価)により総合評価 再評価は実施しない</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 【講義】授業概要 授業の進め方(オリエンテーション) ボランティアとは ボランティアと社会的課題 ※第01回~第14回は毎回授業時に授業課題のレポートを提出する。 第02回 【講義】日本のボランティア 世界のボランティア 第03回 【講義】ボランティア活動の実際 第04回 【講義・演習】ボランティア活動をするにあたって必要な知識1 挨拶とコミュニケーション 第05回 【講義・演習】ボランティア活動をするにあたって必要な知識2 他者理解 言葉を使ってのコミュニケーション 第06回 【講義・演習】ボランティア活動をするにあたって必要な知識3 事故予防とけがの手当て 第07回 【演習】ボランティア活動1 第08回 【講義・演習】グループワーク1 共同作業 第09回 【講義・演習】グループワーク2 ボランティアの心構え 第10回 【講義・演習】グループワーク3 考えてみよう 第11回 【講義・演習】グループワーク4 あなたにできること 第12回 【講義・演習】グループワーク5 困っていることは何だろう 第13回 【演習】ボランティア活動2 第14回 【演習】社会的問題とその解決の方法1 問題となる社会的課題と自分たちでできる問題解決について報告 ※ディスカッション 第15回 【演習】社会的問題とその解決の方法2 問題となる社会的課題と自分たちでできる問題解決について報告 まとめ 授業全体の振り返り ※プレゼンテーション</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>プリント等を配布する。</p>
<p>自己学習（予習・復習 等の内容・時間）</p>	<p>新聞、ニュースから社会的課題を見出すように心がけ、その背景を探り、見出した課題を解決するために自分には何が出来るか、社会的課題の解決者としての自分（自分事）として思考しましょう。</p> <p>ボランティア活動に必要な知識については、他者との関係性を常に意識し、学びを身に付けるようにしましょう。</p> <p>グループ学習で感じたこと、考えたことはとても重要な事柄です。他者との係わりを体感するなかで、その時にしか感じられないことがありますので、聞き取れた事柄や感じたことをノートに記録しておきましょう。SLセンターの利用の仕方、SLセンターHPによるボランティア検索方法の説明などを授業内でも行いますが、自ら進んでボランティアを探してみましょう。</p> <p>ボランティア活動に参加する場合は、各自が見出した社会的課題に対するボランティア活動に計画的に参加しましょう。</p> <p>ボランティア活動の実践に際しては授業内で連絡する注意事項を守り、安全に実施しましょう。</p> <p>また、海外の社会的課題やボランティアにも目を向けて思考するとよいでしょう。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	臨床看護英語 A		
授業担当者名	浅野 輝子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3ENG9-03
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 1年生の復習を基盤により高度な現場での会話などを学ぶ。 2. 医療通訳という特殊な職域が存在すること、その意義を理解できる。 3. 通訳法の学びにより、海外での看護の対象と医療従事者の間の隙間を埋めるためには真の人間力に基づくコミュニケーション能力が必要であることが理解できる。</p> <p>医療現場での基本的な英単語、表現、会話を修得し英語を通じての患者とのコミュニケーション能力を身につけることができる。 また、患者と医療従事者との間で医療通訳が出来るまでの能力を習得することができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎ 幅広い視野で看護を捉え、国内外の看護事情に関心を持つ姿勢を有すること。		
授業の概要	<p>1年生で学んだ英語を基本に近年はここ愛知県も含み在留外国人、外国人旅行者数も飛躍的に伸び、病院を受診する機会や入院もあり看護の世界でも英語を使う機会が大変増えてきている。またカルテや院内等の表記も英語を含み多言語で見受けられるようになってきている。看護の臨床現場で使われる英語は独特な英語の言い回し、表現もあり授業を通じ実際に医療現場ではどのような会話を患者として、どんな病気があり、どんな診療等をしているのか理解をし、現場での基本的な英単語、表現、会話を修得し英語を通じての患者とのコミュニケーション能力も向上させる。</p> <p>医療知識の豊富な医療通訳としての活躍も期待し演習に取り組む。医療通訳者は日本在住あるいは日本を訪問している外国人にとって病気や怪我をした際に医療機関との言葉の壁を取り除くことのできる非常に大切で、必要不可欠な存在である。基本的な通訳技術を習得しつつ、本来あるべき看護師としても患者の心に優しく寄り添いながらも同時に医療従事者との間の正確な通訳をする医療通訳者としてのマナー等をこの授業で学ぶ。患者、通訳の3者間でのロールプレイを中心に実践的に学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	小テスト (30%)、筆記口頭試験・理解度確認 (40%)、授業参画態度 (30%) 以上三点から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	第01回 オリエンテーション ①通訳とは 基本練習 第02回 Unit 1. Do you work on the surgical ward? 第03回 Unit 2. What's your problem today? 第04回 Unit 3. This is the nurses' station. 第05回 ②医療通訳実践 第06回 Unit 4. Are you suffering from any illnesses? 第07回 Unit 5. You need to have an MRI. 第08回 Unit 6 You are going to have a baby. 第09回 ③医療通訳の実践 第10回 Unit 7. My baby has a fever. 第11回 Unit 8. Your surgery will be tomorrow at 10 am. 第12回 Unit 9 How are you feeling? 第13回 ④医療通訳の実践 第14回 Unit 10. 心のケア、文化の違い 総復習 第15回 理解度確認、授業全体の振り返り		
使用教科書	医学書院 クリスティーンのレベルアップ看護英会話		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	医療英会話の完成版でかなり内容も難しいので単語等知らない場合は必ず事前に知らべること。(週30分) また今回はそれぞれの科での表現も詳しく説明しているので覚え復習すること。(週30分) 医療英単語は1年生でほとんど習っているのが、新しい用語もでてくるのでしっかり覚えること。通訳演習もはいるので日→英、英→日の練習もすること。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	臨床看護英語B		
授業担当者名	立花 みどり		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3ENG9-04
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. わが国の国際化を在留外国人や外国人旅行者の視点から捉え、受診・入院の機会を通じて多言語運用能力が問われているわが国の実情把握を、英語コミュニケーション能力の育成の観点から促進する。</p> <p>2. 臨床看護英語の基礎からの学びにより、実践的かつ看護の対象へのポライトな接し方を修得し、日本の看護が素晴らしいこと〔看護の心〕を外国人に対して伝えることができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「協働力」◎		
授業の概要	<p>近年はここ愛知県も含み在留外国人、外国人旅行者数も飛躍的に伸び、病院を受診する機会や入院もあり看護の世界でも英語を使う機会が大変増えてきている。またカルテや院内等の表記も英語を含み多言語で見受けられるようになってきている。この授業では臨床現場で起こりうる色々な場面を想定し、例えば内科の受診や、検査時の英語ではどのように表現するか基礎的な臨床看護英語や患者との英会話を実践的、かつロールプレイを通じ、また基礎的な看護の知識に照らし合わせながら学んでいく。看護の臨床現場で使われる英語は独特な英語の言い回し、表現もあり授業を通じ実際に医療現場ではどのような会話を患者として、どんな病気があり、どんな診療等をしているのか理解をし、現場での基本的な英単語、表現、会話を修得することを目標とする。また、英語を通じての患者とのコミュニケーション能力も向上させる。通訳をする機会があるかもしれないので、通訳の仕方もペアワークなどを通じて体験する。</p>		
学生に対する評価の方法	小テスト(30%)、授業内容の理解度(40%)、授業への参画態度(30%)以上3点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーションUnit 1 Do you work on the surgical ward?</p> <p>第02回 Unit 1 Do you work on the surgical ward? &Unit 2</p> <p>第03回 Unit 2 What's your problem today?</p> <p>第04回 Unit 3 This is the nurses' station.</p> <p>第05回 Unit 3 This is the nurses' station.</p> <p>第06回 Unit 4 Are you suffering from any illnesses?</p> <p>第07回 Unit 4 Are you suffering from any illnesses?</p> <p>第08回 Unit 5 You need to have an MRI</p> <p>第09回 Unit 5 You need to have an MRI</p> <p>第10回 Unit 6 You are going to have a baby.</p> <p>第11回 Unit 6 You are going to have a baby.</p> <p>第12回 Unit 7 My baby has a fever</p> <p>第13回 Unit 7 My baby has a fever.</p> <p>第14回 Unit1~7 総復習 単語復習</p> <p>第15回 まとめ 理解度確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院 クリスティーンのレベルアップ看護英会話 知念クリスティーン著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>医療英会話の完成版でかなり内容も難しいので単語等知らない場合は必ず事前に知らべること。(週30分)</p> <p>それぞれの診療科における表現も1年生の時より詳しく説明しているので理解した上で表現等を覚えて復習すること。(週30分)</p> <p>医療英単語は1年生でほとんど習っているのが、1年間英語の授業が無かったため1年前期で習った単語や表現等を復習すること。そしてそのうえで新しい用語も出てくるので忘れないようにしっかり覚えること。(週60分)</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	中国語 I		
授業担当者名	李 萍		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	本授業は半年で中国語の発音要領、基礎的文法・会話を身に付けながら、異文化の理解・異分野と共同するコミュニケーションの能力を有していることを目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	中国語はリズム感がとても大事なので、まず発音をしっかり教える。正確な発音から基礎的会話・文法に入り、さらに短文を学びながら文化の理解を深める。授業は教材に沿って進行する。		
学生に対する評価の方法	学習の成果を基本点数(70%)として、授業中の練習のでき具合(20%)と授業の態度(10%)を参考にしながら総合点を出します。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 履修に関するガイダンス・オリエンテーション</p> <p>第02回 第1課 中国語の特徴と発音要領及びその構成を説明する。</p> <p>第03回 第2課 「母音・子音」と声調(アクセント)を組んで発音を学習、練習をさせる。</p> <p>第04回 第3課 「你是日本人吗?」、人称代名詞と平叙文、否定文、疑問文の学習。</p> <p>第05回 第3課の要点、難点を説明する。本文を真似して、トレーニングとチャレンジを行う。</p> <p>第06回 第4課 「这是什么?」、指示代名詞、疑問詞、副詞の学習。</p> <p>第07回 第4課の要点、難点を説明する。本文を真似して、チャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>第08回 第5課 「数字・曜日」の学習。チャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>第09回 第6課 「日付・時刻」の学習。チャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>第10回 第7課 「你去哪儿?」。動詞の学習。</p> <p>第11回 第7課の要点、難点を説明する。本文を真似して、チャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>第12回 第8課 「这个多少钱?」。形容詞の学習。</p> <p>第13回 第8課の要点、難点を説明する。本文を真似して、チャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>第14回 第9課 「你吃饭了吗?」。過去形・完了形の学習。</p> <p>第15回 第9課の要点、難点を説明する。本文を真似してチャレンジとトレーニングを行う。</p> <p>理解度確認、授業全体の振り返り (受講者の理解度をみながら進度を調整する)</p>		
使用教科書	プリントを配布する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	前回の授業で学習した内容を復習してほしい(週60分)。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	中国語Ⅱ		
授業担当者名	李 萍		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-02
備考	看護学部 中国語Ⅰも受講すること		
授業のテーマ及び到達目標	この授業は「中国語Ⅰ」とセットで、同じテキストを使って、同じ教員が担当する「中国語Ⅰ」を履修する学生が受ける科目である。中国語で看護の出来事の一部始終を話したり、筋道を立てて自分の意見を分かり易く相手に伝えたり、会話資質と文化理解を向上させたりできることを目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	この授業では、「中国語Ⅰ」の中で習得した言語表現を踏まえて、それぞれの医療場面を設定して、看護に必要な中国語は「中国語Ⅰ」をレベルアップし学修する。テキストの特徴は、豊富な看護語彙と自然な中国語の言い回しである。		
学生に対する評価の方法	学習の成果として、授業中の応答・グループ寸劇演習やトレーニング・チャレンジ練習の出来具合（80%）と授業の態度（20%）を参考にしながら総合点を出します。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 前回で習得した中国語の検証</p> <p>第02回 検証の結果に焦点を合わせて、履修した「中国語Ⅰ」の復習</p> <p>第03回 「あなたは看護師ですか」。</p> <p>第04回 要点難点の説明；本文を真似して、臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第05回 「これは何の薬ですか？」。</p> <p>第06回 要点難点の説明；本文を真似して、臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第07回 「診察に行きますか？」。</p> <p>第08回 要点難点の説明；本文を真似して、臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第09回 「ご体調はいかがですか？」</p> <p>第10回 要点難点の説明；本文を真似して、臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第11回 「頭の痛みはいつからですか？」</p> <p>第12回 要点難点の説明；本文を真似して、臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第13回 「咳止めを飲みましたか？」。臨床看護の会話にチャレンジを行う。</p> <p>第14回 「臨床看護」のグループ寸劇演習と評議</p> <p>第15回 復習まとめ・質疑応答、理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	プリントを配布する。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	前回の授業で学習した内容を復習してほしい（週60分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	ポルトガル語 I		
授業担当者名	重松 由美		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	<241-3LNG9-05>
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。具体的には、ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と現在時制を用いた自己表現ができるようになります。		
ディプロマポリシーとの関連	（「協働力」◎、「意欲・態度」○）		
授業の概要	この授業は、ブラジル・ポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいきます。基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行います。また、状況を設定して日常会話の練習を行い、基礎的な会話力を身に付けていく予定です。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣、そして在日ブラジル人に関する情報の紹介も併せて行ってゆきたい。		
学生に対する評価の方法	小テスト20%、授業態度20%、授業内容の理解度60%、計100%。(合計が60%以上で合格)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 アルファベット、発音 第02回 挨拶表現、名詞の性と数 第03回 主語となる人称代名詞、動詞ser (職業の表現) 第04回 動詞ser (出身地の表現)、疑問文、否定文 第05回 形容詞 第06回 指示詞、所有形容詞 第07回 規則動詞の活用形 (-ar動詞) 第08回 規則動詞の活用形 (-er, -ir動詞) 第09回 定冠詞と前置詞の縮合形 第10回 動詞ir、未来表現 第11回 動詞ter、動詞fazer (頻度表現) 第12回 疑問詞 第13回 動詞poder (許可を得る表現)、動詞querer (誘う表現) 第14回 日付・曜日の表現 第15回 ポルトガル語 I の復習、授業全体の振り返り		
使用教科書	『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』(改訂版) 重松由美、瀧藤千恵美、Felipe Ferrari 著、朝日出版社		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	課題である練習問題を解く(週30分) 学習した箇所を音読する(週30分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ		
授業担当者名	重松 由美		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	<241-3LNG9-06>
備考	看護学部 ポルトガル語Ⅰも受講すること		
授業のテーマ及び到達目標	日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。具体的には、基本的な日常会話を習得し、簡単な文章を辞書を使って理解できるようになります。		
ディプロマポリシーとの関連	〔「協働力」◎、「意欲・態度」○〕		
授業の概要	ポルトガル語Ⅰの授業で学んだ知識をもとにして、状況設定した日常会話の練習、シャドーイング、台詞の暗記を行います。また、ブラジルの文化や社会、ブラジルと日本との歴史的背景そして在日ブラジル人の現状を紹介します。		
学生に対する評価の方法	口頭テスト20%、授業態度20%、授業内容の理解度60%、計100%。(合計が60%以上で合格)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 アルファベット、発音：「～はポルトガル語で何といいますか？」 第02回 挨拶表現 第03回 名詞の性と数、数字(0～30)：「ポルトガル語で注文する」 第04回 動詞ser：「自己紹介：私は～(名前・職業)です」 第05回 動詞ser：「私は～出身です」 第06回 形容詞、所有形容詞：「～は誰のものですか？」 第07回 指示詞：家族紹介 第08回 直説法現在の規則動詞：「私は～することが好きです」 第09回 疑問詞：「何語を話しますか？」 第10回 動詞ir：「～する予定です」 第11回 動詞fazer：「週に1回～します(頻度表現)」 第12回 口頭発表：「自己紹介・夏休みの予定」 第13回 動詞poder：「～してもいいですか？(依頼表現)」、動詞querer：「～しませんか？(誘う表現)」 第14回 月日と曜日の表現：「誕生日はいつですか？」 第15回 ポルトガル語Ⅱの復習、授業全体の振り返り		
使用教科書	『ブラジル・ポルトガル語を話そう！』(改訂版)重松由美、瀧藤千恵美、Felipe Ferrari著、朝日出版社		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	学習したテーマ内容についてポルトガル語で文を作る(週30分) 学習した箇所を音読する(週30分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	フランス語 I		
授業担当者名	J. パク		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-03
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 グローバル化する医療現場において基礎的なフランス語力とフランス社会・文化への理解を備えた看護師を育成する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の基礎を身につける。 2. フランスの社会・文化への理解を深める。 3. 医療の場でフランス語で簡単なコミュニケーションができるようになる。 <p>なお、本学部の掲げる育成ディプロマポリシーの「協働力」と関連しており、本授業ではフランスでの習慣や考え方、コミュニケーションの取り方を伝えることで、国籍や文化的背景が異なる立場の人を理解する力を身につけさせる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	フランス語の基礎を学習する。基本的な単語、表現、文法規則を学び、コミュニケーションの四つの能力すべて（読む、書く、聞く、話す）の習熟をめざす。またフランス語でのコミュニケーションに不可欠なフランス文化への理解（アイコンタクトとあいさつに始まる社交の大切さ、社会問題から芸術、食、モードに至るまで、自分の意見をしっかりともち、表明することの重要性など）を深める。また、看護に必要な簡単なフランス語にも触れる内容とする。授業はフランス語で行う。		
学生に対する評価の方法	授業への積極的参加 (20%)、課題への取り組み (20%)、理解度確認 (60%)		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 講義説明、授業で使うフランス語の説明、教科書Leçon 0 フランス語に触れる (挨拶/アルファベット)</p> <p>第02回 Leçon 1 自己紹介 (国籍・職業・年齢・居住地/TPOに合わせた挨拶)</p> <p>第03回 Leçon 1 自己紹介 (国籍・職業・年齢・居住地)</p> <p>第04回 Leçon 2 質問をして患者の基本的情報を得る① (疑問詞を使ってたずねる)</p> <p>第05回 Leçon 2 質問をして患者の基本的情報を得る② (数字と月を学んで生年月日をたずねる)</p> <p>第06回 Leçon 3 患者の習慣について理解する</p> <p>第07回 Leçon 4 物の説明をする</p> <p>第08回 Leçon 5 患者の家族構成について理解する</p> <p>第09回 Leçon 5 体の部位について話す/患者の身体的特徴や性格を伝える</p> <p>第10回 Leçon 6 時間を伝える/予定を伝える/気温を伝える/患者の体温を確認する</p> <p>第11回 Leçon 7 患者の食習慣を理解する</p> <p>第12回 Leçon 7 値段や量を伝える</p> <p>第13回 Leçon 8 患者に体調をたずねる</p> <p>第14回 Leçon 8 患者に健康上の指導をする</p> <p>第15回 理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	指定しません。授業中にプリントを配布します。		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	前回の講義で扱ったことは修得したものと前提で講義をすすめていくので、復習が必要です。授業後10分でもいいので、復習の時間をもうけてください。授業中に提示したモデル会話を理解した上で、ノートに書き出してください。フランス語の特徴的なひびきに耳を鳴らすために、インターネットでビデオをみるなどするとよいでしょう。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	フランス語Ⅱ		
授業担当者名	J. パク		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-04
備考	看護学部 フランス語Ⅰも受講すること		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 グローバル化する医療現場において基礎的なフランス語力とフランス社会・文化への理解を備えた看護師を育成する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の基礎を身につける。 2. フランスの社会・文化への理解を深める。 3. 医療の場でフランス語で簡単なコミュニケーションができるようになる。 <p>なお、本学部の掲げる育成ディプロマポリシーの「協働力」と関連しており、本授業ではフランスでの習慣や考え方、コミュニケーションの取り方を伝えることで、国籍や文化的背景が異なる立場の人を理解する力を身につけさせる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	フランス語Ⅰで学んだ事項について、ロールプレイによって知識を深める。ロールプレイでは学生は医療従事者と患者を演ずる。フランス語母語話者である患者の基本的な情報(名前、職業、住所、嗜好品など)についてフランス語でたずね、相手の答えを理解できるまで、練習をする。授業計画の左側がフランス語Ⅰで学んだ事項を指し、矢印の右側が学んだ事項をおさえたロールプレイの内容となる。		
学生に対する評価の方法	授業への積極的参加(20%)、課題への取り組み(20%)、理解度確認(60%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 講義説明、授業で使うフランス語の説明、教科書Leçon 0 フランス語に触れる(挨拶/アルファベット)→医療機関を訪れたフランス語母語話者の患者に挨拶をする</p> <p>第02回 Leçon 1 自己紹介(国籍・職業・年齢・居住地/TP0に合わせた挨拶)→医療機関を訪れたフランス語母語話者の患者に自己紹介をする</p> <p>第03回 Leçon 1 他己紹介(国籍・職業・年齢・居住地)→フランス語母語話者の患者の情報を医療機関に伝える</p> <p>第04回 Leçon 2 質問をして患者の基本的情報を得る①(疑問詞を使ってたずねる)→フランス語母語話者の患者に名前、国籍、職業、年齢、居住地をたずねる</p> <p>第05回 Leçon 2 質問をして患者の基本的情報を得る②(数字と月を学んで生年月日をたずねる)→フランス語母語話者の患者に生年月日をたずねる</p> <p>第06回 Leçon 3 患者の習慣について理解する→運動の有無など、患者の日常生活を確認する</p> <p>第07回 Leçon 4 物の説明をする→医療機関で使う物について説明する</p> <p>第08回 Leçon 5 患者の家族構成について理解する→患者の家族関係、身元保証人を確認する</p> <p>第09回 Leçon 5 体の部位について話す/患者の身体的特徴や性格を伝える→患者の特徴をフランス語で伝える</p> <p>第10回 Leçon 6 時間を伝える/予定を伝える/気温を伝える/患者の体温を確認する→診察や検査の時間を伝える</p> <p>第11回 Leçon 7 患者の食習慣を理解する→食習慣など、患者の日常生活を確認する</p> <p>第12回 Leçon 7 値段や量を伝える→薬の飲む量や値段を伝える</p> <p>第13回 Leçon 8 患者に体調をたずねる→患者の健康上の不安を確認する</p> <p>第14回 Leçon 8 患者に健康上の指導をする→健康上の指導をフランス語で伝える</p> <p>第15回 理解度確認、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	指定しません。授業中にプリントを配布します。		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習 等の内容・時間）	前回の講義で扱ったことは修得したものとの前提で講義をすすめていくので、復習が必要です。授業後10分でもいいので、復習の時間をもうけてください。授業中に提示したモデル会話を理解した上、何度も口に出して読み、暗記してください。フランス語の特徴的なひびきに耳を鳴らすために、インターネットでビデオをみるなどするとよいでしょう。
------------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	日本語表現 I		
授業担当者名	石川 稔子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-07
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	日本語表現 I は、大学生に必要な日本語の基礎的な学力と文章表現力を身につけることで就職活動や社会生活でも役立つ国語力養成を目標とする。したがって日本語の基礎的な学力を高めていけば、自然にその知識を発揮できるようになる。その上で様々な文章作成の実践を通して、論理的な思考を深めれば、大学で学ぶ期間だけでなく社会人、職業人として正確に自分の意思を伝えられる文章表現能力を身に付けることができるようになる。		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	大学生や社会人にとってレポートをはじめとする論理的な文章を作成する力は必須のものである。したがって授業期間の前半は文章を作成するために必要な日本語の基礎知識を習得するとともに論理的な文章について解説する。後半は卒業論文を見据えて、論文作成方法を丁寧に説明し、短い論文の作成・フィードバック・書き直しを繰り返すことによって文章を錬磨し完成させていく。 この授業では少人数でテキストや配付資料を使い、講義形式で行うとともに、期間の前半は練習問題やレポート・小作文などを実践するが、後半は短い論文を書き上げていく作業が中心になる。長文作成に伴い、その提出はMoodleを利用するためタブレットの準備が必要になる。		
学生に対する評価の方法	1. 授業に取り組む姿勢・各授業内容に関わるレポートなどの提出物 (30%) 2. 授業内容の理解度 (40%) 3. 論文作成に取り組む姿勢・提出論文内容 (30%) 以上3点から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	第01回 ガイダンス 日本語の特色と日本語力の認識 第02回 要約文の書き方と実践 第03回 基礎知識の確認：同音異義語・同訓異義語 第04回 基礎知識の確認：音訓と熟語・熟語の構造・四字熟語 第05回 基礎知識の確認：仮名遣い・送り仮名・用字法 第06回 基礎知識の確認：文のしくみと間違いやすい日本語 第07回 基礎知識の理解度確認と論文執筆手順の解説 第08回 論文・レポートの書き方 ①テーマ設定・資料収集・文献資料の扱い方 第09回 論文・レポートの書き方 ②資料分析と主題文・アウトラインの作成 第10回 論文・レポートの書き方 ③引用・要約の入れ方 (Moodle上に課題提出) 第11回 論文・レポートの書き方 ④三段構成の本論作成 (Moodle上に課題提出) 第12回 論文・レポートの書き方 ⑤本論のフィードバックと再点検 (Moodle上に課題提出) 第13回 論文・レポートの書き方 ⑥三段構成の序論・結論作成 (Moodle上に課題提出) 第14回 論文・レポートの書き方 ⑦論文のフィードバックと注の作成・清書・推敲 (Moodle上に課題提出) 第15回 論文のフィードバックと授業全体の振り返り * 第01・07・08・09回はグループワークを行う。 * 毎回の提出物のフィードバックは順次行う。		
使用教科書	『キャリアアップ国語表現法』丸山顕徳編著、嵯峨野書院 その他に授業内で適宜資料配布		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	授業時に示す次回授業に関連するテキストを下読みし、分からない言葉を調べ、ノートに書く。(週20分) 講義内容の復習、またはフィードバックされた提出物の読み直しや作文の書き直しをする。(週30分) 収載語彙数の多い国語辞典・漢和辞典を使用し、日常的に語彙の知識を増やすために辞書で調べる習慣をつける。(週15分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	日本語表現Ⅱ		
授業担当者名	石川 稔子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3LNG9-08
備考	日本語表現Ⅰと合わせて受講することが望ましい。 看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	日本語表現Ⅱでは、職業人として必要な論理的で分かり易い文章を書いたり、文章の内容を読み取ったりする国語力を充実させるため日本語の知識、技能を深めていく。同時に口語表現が他者を思いやる想像力と関連していることを理解し、社会人として円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション力習得を目標とする。したがって日本語の知識を深めるとともに様々な文章作成や表現方法を実践してゆけば、適切に文章や話の内容を理解しまとめる力を養え、自分の意思を正確に伝えられる表現力を身に着けることができるようになる。		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	日本語表現は、コミュニケーションのための重要な手段であり、社会に出ればさまざまな場面で国語力や文章力を問われることがある。そのため日本語の歴史を概観し日本語力を深める。また目的に合った文章が書けるよう多様な文章に触れ、作文していくことで文章表現力を高めていく。さらに他者とのコミュニケーションの円滑化を図るため敬語などの待遇表現を基礎から学ぶ。この授業では少人数でテキストや配付資料を使い、講義形式で行うとともに、練習問題やレポート・小作文作成などを実践する。また、テキスト以外の練習問題ではMoodleを利用するためタブレットの準備が必要になる。		
学生に対する評価の方法	1. 授業に取り組む姿勢・授業内容に関わるレポートなどの提出物(60%) 2. 授業内容の理解度(40%) 以上2点から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス レポートの種類と資料検索</p> <p>第02回 事実・意見・感想と論理的な文章</p> <p>第03回 日本語の歴史 ①漢字の成り立ちと変遷</p> <p>第04回 日本語の歴史 ②仮名の発明と変遷</p> <p>第05回 現代の日本語：現行の日本語表記と日本語の政策</p> <p>第06回 調査レポートの作成と文体の統一(Moodle上への作文提出)</p> <p>第07回 理解度確認と解説</p> <p>第08回 文章構成 ①ブレンストーミングとk j 法</p> <p>第09回 文章構成 ②テーマの決め方</p> <p>第10回 待遇表現 ①基本的な敬語(Moodle上で練習問題)</p> <p>第11回 待遇表現 ②婉曲表現(Moodle上で練習問題)</p> <p>第12回 待遇表現 ③来客の対応(Moodle上で練習問題)</p> <p>第13回 慣用表現の誤用(Moodle上で練習問題)</p> <p>第14回 論説文と批評文の書き方(Moodle上への作文提出)</p> <p>第15回 授業内容の補足と授業全体の振り返り</p> <p>* 第01・08・09回はグループワークを行う。</p> <p>* 毎回の提出物のフィードバックは順次行う。</p>		
使用教科書	『キャリアアップ国語表現法』丸山顕徳編著、嵯峨野書院 その他に授業内で適宜資料配布		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	授業時に示す次回授業に関連するテキストを下読みし、分からない言葉を調べノートに書く。(週15分) 講義内容の復習、またはフィードバックされた提出物の読み直しや作文の書き直しをする。(週25分) 各文章のテーマを各自が決定、準備するため図書館などを積極的に利用し、それぞれの分野に関わる資料をできる限り見ておく。(週20分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語論文講読 A		
授業担当者名	浅野 輝子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-3ENG9-05
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>[授業科目のテーマ]</p> <p>1. 言語運用能力、特に英語運用能力の向上はグローバルな知識を得るために必須となってきたことが理解できる。 2. 英語運用能力を向上させることによりキャリアアップの可能性が広がる。 3. 海外の発表論文を読むことにより深い見識を身につけることの大切さが理解できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP4：真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。幅広い視野で看護を捉え、国内外の看護事情に関心を持つ姿勢を有すること。 知識：理解◎</p>		
授業の概要	<p>医学及び関連科学を専攻する学生にとって、英語はグローバルな知識を得るために必要不可欠なものとなっている。将来的に臨床現場での体験や知識などに関する論文を書くことによってキャリアアップの可能性を広め、また海外で発表された論文を読むための高度な英語力の習得を目指すことによってより深い見識を身につけることができる。まず、論文執筆にあたり基本事項である医療情報を得るために必要な良質のウェブサイトへ自由にアクセスする方法、英語で書かれている情報を理解し要約できる読解テクニックなどを習得する。高度な英文講読を通して、医者と患者との関係について、例えば真実の伝え方、カルチャーショック、臓器移植、終末期医療について倫理的観点から自分自身の考えをもって読むクリティカルリーディングの手法を養う。国際学会での発表を見据え異文化を含めた医療専門知識も共に身につける。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への参画態度 (30%)、中間テスト・理解度確認(20%)、課題及び翻訳演習 (50%)以上3点から総合評価する。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 オリエンテーション Unit8 入院について① 第02回 Unit 8 入院について② 第03回 Unit 9 入院中のケア① 第04回 Unit 9 入院中のケア② 第05回 Unit 10 諸外国の医療事情 第06回 Unit 10 諸外国の文化と宗教 第07回 中間テスト 第08回 Truth telling 第09回 Living will 第10回 Living will 第11回 Beginning of life issues 第12回 Beginning of life issues 第13回 Organ transplantation 第14回 Organ transplantation 第15回 Writing Review 理解度確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>「クリスティーンのレベルアップ英会話」 出版社 医学書院 知念クリスティーン著</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>前半は色々な課題を通じての復習をすること。また新たに自分で英語の文章や医療現場での会話を英語で書けるようにする。 後半はユニット毎に背景知識、単語を下調べしておく。復習は自分の意見を英語でまとめ、書けるように練習する。(週60分)</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	英語論文講読B		
授業担当者名	立花 みどり		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1ENG2-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. わが国の国際化と国際社会への医療看護を通じての貢献には英語運用能力が必須であることが理解できる。</p> <p>2. グローバルな知識を得るために、英語によるコミュニケーション能力が必要となることが理解できる。</p> <p>3. 海外の研究成果を収集するためには英語力が必須となっていることがわかる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」○、「知識・技能」○、「協働力」◎ 真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。		
授業の概要	<p>医学及び関連科学を専攻する学生にとって、英語はグローバルな知識を得るために必要不可欠なものとなっている。将来的に臨床現場での体験や知識などに関する論文, を書くことによってキャリアアップの可能性を広め、また海外で発表された論文また文献を読むための高度な英語力の習得を目指すことによってより深い見識を身につけることができる。英語で書かれている情報を理解し要約できる読解テクニックなどを習得する。高度な英文講読を通して、医者と患者との関係について、例えば真実の伝え方、カルチャーショック、終末期医療、出生前診断について倫理的観点から自分自身の考えをもって読むクリティカルリーディングの手法を養う。これらを踏まえて自分自身の意見や感想を日本語、英語で書ける力をつけていく。最後は病気をテーマとしたアメリカ映画を鑑賞、今まで習った医療英語も沢山出てくるので復習する。</p>		
学生に対する評価の方法	授業への参画態度(30%)、課題及び翻訳演習(30%)、レポート(40%)以上3点から総合評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション Unit 8 入院について①</p> <p>第02回 Unit 8 入院について②</p> <p>第03回 Unit 8 入院について③</p> <p>第04回 Unit 9 入院中のケア①</p> <p>第05回 Unit 9 入院中のケア②</p> <p>第06回 Unit 9&10 入院中のケア③</p> <p>第07回 Unit 10 諸外国の医療事情</p> <p>第08回 Unit 10 諸外国の文化と宗教</p> <p>第09回 中間テスト</p> <p>第10回 Truth telling ①</p> <p>第11回 Truth telling ②</p> <p>第12回 Organ transplantation</p> <p>第13回 Beginning of life issue</p> <p>第14回 病気・病院がテーマのアメリカ映画を鑑賞</p> <p>第15回 病気・病院がテーマのアメリカ映画を鑑賞 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」 出版社 医学書院 知念クリスティーン著		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	前半は色々な課題を通じて復習をすること。また医療現場での会話を英語で書けるようにする。 後半は医療英語及び表現等を復習し、自分の意見を英語でまとめられるようにする。(週1時間程度)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	専門基礎入門1 (看護と生物)		
授業担当者名	早戸 亮太郎		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SFS0-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 これから人体の仕組みを学ぶために必要不可欠な生物学の基礎知識を習得することが、本授業のテーマである。生物学という観点から基礎的な人体生物学的知識の習得を目指す。生物学から生命科学への発展を理解し生命科学や人体の構造と機能を理解するため、人体生物学の基礎知識固めを行う。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体がどのような構造を持つのか、化学レベル、細胞レベル、組織レベル、臓器レベル、器官レベル、個体レベルで説明できる。 2. 人体を構成する細胞や臓器がどのような機能を持つか、説明できる。 3. 基本的な人体の構造と機能の説明ができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	生物学を学ぶ目的は、生命を特徴づける①細胞②秩序③動的平衡④エネルギー⑤恒常性、等を学ぶことで、ヒトを対象とした生命現象の共通性や特異性を学ぶことにある。ミクロレベルでの細胞の構造から物質代謝、遺伝、生態など、生物学の基礎的現象まで広範に学ぶ。moodleを利用したICTによる授業資料の配布を実施。		
学生に対する評価の方法	理解度確認にて評価 (100%)		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 生命とは何か 第02回 生命の物質的基盤 第03回 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ 第04回 生体維持のエネルギー 第05回 組織・臓器・器官系 第06回 各器官系の働き 第07回 各器官系の働き 第08回 理解度確認と解説</p>		
使用教科書	『系統看護学講座 基礎分野 生物学』 (医学書院)		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	生体の構造や仕組みには必ず理由がある。この理由を“暗記”ではなく“理解”する。授業終了後は早めに復習すること。また専門用語が多数出てくるので、それらの意味を理解すること。(予習：90分、復習：90分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	専門基礎入門2 (看護と化学)		
授業担当者名	間崎 剛		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SFS0-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 化学とは、物質の構造、性質、変化について学ぶ学問である。我々の身体は、物質から構成されている。したがって、人体の仕組み（解剖生理学、生化学）を学ぶにあたり、あらかじめ化学という学問を修めておく必要がある。また、我々が摂取する食品や薬物も物質である。そのため、食品や薬物の人体における役割（薬理学など）を学ぶためにも、あらかじめ化学を習得しておく必要がある。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物質が何からどのようにして成り立っているのかを、説明できるようになる。 2. 物質の状態にはどのようなものがあるのかを、説明できるようになる。 3. 物質の性質と変化について、説明できるようになる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	化学を学ぶ目的は、人体を構成する物質、およびそれらの変化を理解するうえで必要となる知識や考え方を身につけることである。そのため本授業では、原子の構造、化学結合、物理量、物質の三態、溶液の性質、酸塩基平衡、酸化還元反応を学ぶ。本授業で学んだことが、人体の仕組みや疾病について学ぶ「解剖生理学」「生化学」「薬理学」などを受講するときに役に立つ基礎知識となる。		
学生に対する評価の方法	期末の理解度確認（筆記試験）の得点（100%）により評価する。 その結果が60点未満だった者や理解度確認試験を欠席した者は、D評価となる。 D評価だった者は、所定の手続きをとった上で、再評価（筆記試験）を受けることができる。ただし、出席不足による単位不認定（F評価）の場合は、再評価を受けることが出来ない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 原子の構造<陽子、中性子、電子、原子核、電子殻、周期律、イオン></p> <p>第02回 化学結合<イオン結合、金属結合、共有結合、分子の極性、水素結合、ファン・デル・ワールス力></p> <p>第03回 物理量<SI単位、物理量、原子量、分子量、物質質量、気圧、絶対温度、有効数字></p> <p>第04回 物質の三態<固体、液体、気体、状態変化、蒸気圧、状態図></p> <p>第05回 溶液の性質<溶解と析出、溶解度、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、電離、濃度、コロイド></p> <p>第06回 酸塩基平衡<酸と塩基、水のイオン積、pH、酸・塩基の価数と強弱、中和反応、緩衝液></p> <p>第07回 酸化還元反応<酸化数、酸化剤と還元剤、半反応式、酸化還元反応、イオン化傾向></p> <p>第08回 期末の理解度確認とそれに対するフィードバック、授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）</p>		
使用教科書	<p>【教科書】 奈良雅之著「系統看護学講座 基礎分野 化学」（医学書院）</p> <p>【参考図書】 数研出版編集部編集「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」（数研出版） 実教出版編修部編集「サイエンスビュー化学総合資料」（実教出版） 中央図書館にある、「わかる～」「わかりやすい～」「やさしい～」等の言葉のついた化学の参考書 中央図書館にある、化学関係の解説DVD（ビデオ教材）</p>		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>次回の講義に登場する語句について、教科書や図書館の蔵書を利用して調べる（週30分）。</p> <p>授業中にとったノートをもとに、試験勉強用の清書ノートを作成する（週120分）。</p> <p>eラーニングの練習問題を解き、間違ったところを復習する（週30分）。</p> <p>高校で化学基礎を受講しなかった者、または受験科目としなかったために忘れてしまっている者にとっては、かなり難しい分野である。授業の内容がわからない場合は、教員に積極的に質問したり、図書館に行ってやさしい参考書を探してみるなど、まずは自分で解決しようとする努力が必要である。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	専門基礎入門3 (看護と物理)		
授業担当者名	水野 慎士		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SFS0-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 物理学の様々な分野のうち、看護師の教養として必要な内容を理解する。特にベッドサイドでの看護に関連する力学、ボディメカニクス、圧力、熱などを中心に習得する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な物理現象の仕組みを理解する。 ・物理学の知識を用いることで、看護対象者と看護師のどちらにとっても安全安心で負荷の少ない看護ができることを理解する。 ・看護に関する様々な事例を科学的根拠に基づいて考える習慣を身に付ける。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	物理学を学ぶ目的は、科学的なものの考え方に基づいてボディメカニクスや理学療法のような看護の現場で直接役立つ知識の習得することにある。看護に関する物理学を習得することで、例えば病床のベッドサイドで行う体位変換、点滴、血圧測定などについて、正しい実施方法が理論的に理解できるようになり、看護師と患者にとって有益な看護が自然に実施できるようになる。この授業を通じて、看護で役に立つ基本的な物理学を学ぶとともに、科学的なものの考え方に慣れてそれらを看護の実践で応用できる力を身に付ける。		
学生に対する評価の方法	授業への参加および学習状況(30%)，理解度(70%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ベクトルと力・・・力学の習得に必要な数学(ベクトル)の確認、および力の数学的な表現を学ぶ。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第02回 力のモーメント・・・力とモーメントについて理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第03回 身体と力学・・・ボディメカニクスについて理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第04回 圧力の基礎・・・力と圧力の関係について理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第05回 呼吸・吸引と物理・・・呼吸や吸引を物理(圧力)の観点から理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第06回 点滴、血圧と物理・・・点滴や血圧測定について物理(圧力)の観点から理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第07回 感覚器と物理・・・体温調整、聴覚などについて物理と数学の観点から理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>第08回 まとめ・・・体温調整、聴覚などについて物理と数学の観点から理解する。講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認、ノート整理、演習問題の確認を行う(各2時間)。</p> <p>授業全体の振り返り。</p>		
使用教科書	医学書院「看護学生のための物理学」		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	各回の講義前に教科書を読んで予習を行い、講義後に配布資料の確認，ノート整理，演習問題の確認を行う（各2時間）
--------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	専門基礎入門4 (看護と統計)		
授業担当者名	濱島 秀樹		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2SFS0-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>統計学の基礎知識を習得し、統計データの意味を理解して正しく読み取る力を付ける。また、計算により結果を算出できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の概念を理解し、専門用語を用いて説明できる。 2. 統計学の基礎的手法が理解できる。 3. データを正しく読み取り、結果を算出し、分析できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」○		
授業の概要	<p>高等学校までで学んだ統計の知識を基に、記述統計の意味を確認し、その上に立って推測統計の価値を理解できるようになる。そのためには、平均値・中央値・最頻値などの代表値と散布度を表す分散・標準偏差などの用語を自由に使えるようにし、さらに標本調査における推測、検定の必要性や信頼度について学ぶ。正規分布を理解することで、これまで用語としては知っていた「偏差値」の意味についても考察する。どのような計算をしているのか、そこにどのような意味があるのかについて手計算を通して考察する。</p>		
学生に対する評価の方法	授業への参画度と提出物 (20%)、理解度確認 (80%) から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション、第1章統計学入門 第02回 統計データの種類とまとめ方 第03回 統計データのグラフ表示 第04回 正規分布・標準正規分布・偏差値 第05回 母集団と標本と推定 第06回 推定 第07回 検定の基礎知識 第08回 授業全体の振り返り・理解度確認およびその解説と授業の補足、質疑応答</p>		
使用教科書	<p>『系統看護学講座 基礎分野 統計学』(医学書院) 副読本:「親切ガイドで迷わない統計学」 技術評論社 高橋麻奈著 参考図書、文献等はその都度紹介する場合がある。必要に応じてプリントを配布する。</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>講義を振り返り、教科書および副読本と授業のパワーポイントを見直し、疑問点等を自ら調べ、ノートにまとめる(週30分程度)。Excelを使ってデータ入力やグラフ表示の仕方をネット等で調べ、自学自習する(週20分程度)。新聞等、日常生活の中で目にする各種統計に関心を持ち、データを正しく読み取る力を涵養する(週30分程度)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	コミュニケーション論		
授業担当者名	江畑 慎吾		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1TOM1-01
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>自己や他者を理解し、対人関係の構築と維持にとって重要な役割であるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>【授業科目の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己洞察を行い、コミュニケーションにおける自己課題が理解できている。 2. 他者を理解するために必要な知識や視点を理解できている。 3. 実際のコミュニケーションに必要な技術の習得ができている。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>他者との円滑なコミュニケーションを行うためには、自己について知り、他者を理解する視点を養う必要がある。そのため、本授業では自己洞察と他者理解について、グループワークを中心に学ぶ。また、カウンセリングスキルの基礎である、「傾聴」と「共感」について、ロールプレイを通じ体験的な学習を行い、それらの技術、視点を日常のコミュニケーションに活かせるようになることを目指す。</p>		
学生に対する評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業への参画態度(20%) ②グループワークに関するレポート(60%) ③ロールプレイ課題(20%) <p>以上3点を踏まえ、総合的に判断する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション</p> <p>第02回 質問紙を用いた自己分析</p> <p>第03回 他者理解(1): 価値観の多様性 ディスカッションを実施する。</p> <p>第04回 他者理解(2): 道徳観について ディスカッションを実施する。</p> <p>第05回 他者理解(3): 優しさについて ディスカッションを実施する。</p> <p>第06回 アサーションスキル(1): 基礎</p> <p>第07回 アサーションスキル(2): 実践 ロールプレイを行う。</p> <p>第08回 自己援助スキル(1): ストレスコーピング</p> <p>第09回 自己援助スキル(2): マインドフルネス グループワークを実施する。</p> <p>第10回 コミュニケーションスキル(1): 傾聴</p> <p>第11回 コミュニケーションスキル(2): 共感</p> <p>第12回 コミュニケーションスキル(3): 総合演習 ロールプレイを行う。</p> <p>第13回 ビデオフィードバック</p> <p>第14回 他者理解における心理学</p> <p>第15回 まとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>特定の教科書は使用しない。毎回、資料やワークシートを配布するため、それらを管理できるファイルを用意すること。</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>シラバスに示されているテーマ、もしくはキーワードについて調べ、ノートにまとめる(週30分)。</p> <p>毎授業後に、本時における自身の体験や考察についてレポートを作成する(週60分)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	生命倫理		
授業担当者名	宮本 恵子、青山 温子、土井 智子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1～4年次後期
教員担当形態	オムニバス (主担当：宮本恵子)	ナンバリングコード	241-1TOM1-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] 生命の尊厳・生命の質・自己決定などの生命に関する倫理的問題の知識を学び、対象の人権を尊重し擁護することを理解する。また、看護実践が行われる生活の場において生じる倫理的問題や葛藤に対して考え、判断し、看護職に必要な倫理観を育てる。</p> <p>[到達目標] 1. 生命の尊厳・生命の質・自己決定等の知識を学び、人権尊重・擁護について理解する。 2. 医療・看護における倫理的課題について理解する。 3. 看護実践が行われる生活の場において生じる倫理的問題や葛藤に対して考え、判断することができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	DP1：知識・技能 ◎ DP2：思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	本講義では、生命の尊厳・生命の質・自己決定などの生命に関する倫理的問題の知識を学び、対象の人権を尊重し擁護することを理解する。生命倫理の歴史、臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断等の医療における倫理的課題、先端医療技術と倫理、個人の尊厳、患者の権利、自己決定権、インフォームドコンセントなどについて学ぶ。また、看護実践が行われる保健・医療・福祉・介護等の分野や生活のあらゆる場面において生じる倫理的問題やジレンマ等に関心を持ち、考えることで倫理への感受性を高める。さらに、社会状況の変化と看護倫理の関係性に関心を持ち、看護実践者として今後の看護倫理のあり方や方向性について修得できる素養を養成する。グループワークでは、積極的に自分の意見をまとめ発表するとともに、他者の考えを聞くことで倫理観を醸成する。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度 (55%)、小テスト (青山先生分25%) リアクションペーパー (20%) により総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 倫理を学ぶ意義 倫理の基本的考え方<宮本 恵子> 第02回 生命倫理の歴史と理論<宮本 恵子> 第03回 生命倫理と看護職の責務<宮本 恵子> 第04回 看護倫理とは<宮本 恵子> 第05回 看護実践上の倫理概念<宮本 恵子> 第06回 専門職の倫理<宮本 恵子> 第07回 保健師助産師看護師法と倫理<宮本 恵子> 第08回 性と生殖の倫理<青山 温子> 第09回 死の生命倫理<青山 温子> 第10回 看護研究の倫理<土井 智子> 第11回 先端医療と制度をめぐる生命倫理<青山 温子> 第12回 倫理問題へのアプローチ<宮本 恵子> 第13回 医療資源と医療保険制度<青山 温子> 第14回 倫理問題へのアプローチ<宮本 恵子> 第15回 倫理問題へのアプローチ・授業全体の振り返り<宮本 恵子>		
使用教科書	系統看護学講座 別巻「看護倫理」 医学書院 配布資料		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	倫理学を学ぶ際には難解な言語も多い。言語の意味を復習して理解する必要がある。看護実践現場のイメージが付きにくい場合は、質問等で明らかにして学習を進める。倫理は質の高い看護、患者中心の看護の実現に欠くことができない、また、看護師の実践には、看護師の考えや行動が示されるが、その中には個人の道徳や規範、価値観が含まれる。すなわち、看護実践は倫理観が問われている。そして、看護の対象である人間の本質や対象の理解、医療現場にある診断や治療・処置といった生命・医療倫理の課題を科学的に判断するとともに、自分の価値観・信念との関係性を踏まえながらどう看護に向き合っていくかは、看護職をめざす者にとって、倫理的課題である。様々な事例を学ぶ中で自己の考えを持ち、自分の価値観を知ることにつながっていく。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	解剖生理学1		
授業担当者名	石井 健一郎		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SHF1-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 人体を作る器官を細かく掘り下げていき、人体とその器官の構造と機能を組織・細胞、そして分子の働きから成り立つものとして理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常構造と機能について正しく理解する。 2. 血液循環、呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌など生命を維持する働きを説明できる。 3. 運動、感覚、神経など生命を活用する働きを説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1「知識・技能」◎、DP4「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>看護実践の場で必要となる、疾患や病態生理を理解するためには、人体の正常構造と機能を正しく理解することが重要である。基礎医学においては、解剖学によって人体の形態と構造を学び、生理学によって役割と機能を学ぶ。解剖生理学という科目はその名の通り、解剖学と生理学を1つにまとめ、機能に従って整理していくもので、消化器系や循環器系など、人体を器官系ごとに分けて学ぶ。</p> <p>例えば、人が感じる体調の不良は器官／器官系の不調であり、これを病気と捉える。器官／器官系の不調は器官を構成する「組織」の機能不全であり、そもそもの原因は組織を構成する「細胞」の機能不全である。つまり、人が健康な状態とは人体を構成する細胞が各々の場所（器官）で、与えられた役割や機能を正しく発揮している状態である。このような人体の階層性を意識しながら人体の正常構造と機能を学ぶことは、病理学によって病気の成り立ちを理解する際に役立ち、ひいては看護実践の場で患者の状態を観察・把握するために必要不可欠な知識となる。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度（90%）とレポート課題（10%）から総合的に評価する。 なお、理解度確認については別日程で実施する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 序章：人体の構造と機能を学ぶために（p. 1-6）</p> <p>第02回 第1章：解剖生理学のための基礎知識（A）（p. 7-15）</p> <p>第03回 第1章：解剖生理学のための基礎知識（B）（p. 16-27）</p> <p>第04回 第1章：解剖生理学のための基礎知識（C）（p. 27-54）</p> <p>第05回 第2章：栄養の消化と吸収（A）（p. 55-67）</p> <p>第06回 第2章：栄養の消化と吸収（B）（p. 67-84）</p> <p>第07回 第2章：栄養の消化と吸収（C, D）（p. 84-93）</p> <p>第08回 第3章：呼吸と血液のはたらき（A）（p. 94-107）</p> <p>第09回 第3章：呼吸と血液のはたらき（B）（p. 108-126）</p> <p>第10回 第3章：呼吸と血液のはたらき（C）（p. 126-148）</p> <p>第11回 第4章：血液の循環とその調節（A, B, C）（p. 149-175）</p> <p>第12回 第4章：血液の循環とその調節（D）（p. 175-187）</p> <p>第13回 第4章：血液の循環とその調節（E, F）（p. 187-208）</p> <p>第14回 第5章：体液の調節と尿の生成（A）（p. 209-225）</p> <p>第15回 第5章：体液の調節と尿の生成（B, C）（p. 225-237）</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	『系統看護学講座 解剖生理学』（医学書院） （参考書）ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>予習：授業計画に記載された学習項目について、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにしておく。（週90分）</p> <p>復習：授業担当者が各章の最後に提示する「ポイント」に対して、教科書や講義資料（スライド）を使って、サマリー（まとめ）を作成し、知識を整理する。（週90分）</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	解剖生理学2		
授業担当者名	石井 健一郎		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SHF1-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 人体を作る器官を細かく掘り下げていき、人体とその器官の構造と機能を組織・細胞、そして分子の働きから成り立つものとして理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常構造と機能について正しく理解する。 2. 血液循環、呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌など生命を維持する働きを説明できる。 3. 運動、感覚、神経など生命を活用する働きを説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1「知識・技能」◎、DP4「意欲・態度」○		
授業の概要	<p>看護実践の場で必要となる、疾患や病態生理を理解するためには、人体の正常構造と機能を正しく理解することが重要である。基礎医学においては、解剖学によって人体の形態と構造を学び、生理学によって役割と機能を学ぶ。解剖生理学という科目はその名の通り、解剖学と生理学を1つにまとめ、機能に従って整理していくもので、消化器系や循環器系など、人体を器官系ごとに分けて学ぶ。</p> <p>例えば、人が感じる体調の不良は器官／器官系の不調であり、これを病気と捉える。器官／器官系の不調は器官を構成する「組織」の機能不全であり、そもそもの原因は組織を構成する「細胞」の機能不全である。つまり、人が健康な状態とは人体を構成する細胞が各々の場所（器官）で、与えられた役割や機能を正しく発揮している状態である。このような人体の階層性を意識しながら人体の正常構造と機能を学ぶことは、病理学によって病気の成り立ちを理解する際に役立ち、ひいては看護実践の場で患者の状態を観察・把握するために必要不可欠な知識となる。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度（90%）とレポート課題（10%）から総合的に評価する。 なお、理解度確認については別日程で実施する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 第6章：内臓機能の調節（A, B）（p. 239-253） 第02回 第6章：内臓機能の調節（C）（p. 254-273） 第03回 第6章：内臓機能の調節（D, E）（p. 273-280） 第04回 第7章：身体の支持と運動（A, B）（p. 281-292） 第05回 第7章：身体の支持と運動（C, D）（p. 292-306） 第06回 第7章：身体の支持と運動（E, F）（p. 306-332） 第07回 第7章：身体の支持と運動（G, H）（p. 332-351） 第08回 第8章：情報の受容と処理（A, B）（p. 357-383） 第09回 第8章：情報の受容と処理（C, D）（p. 383-392） 第10回 第8章：情報の受容と処理（E, F, G）（p. 393-407） 第11回 第8章：情報の受容と処理（H, I, J, K）（p. 408-432） 第12回 第9章：身体機能の防御と適応（A, B）（p. 433-450） 第13回 第9章：身体機能の防御と適応（C, D）（p. 451-457） 第14回 第10章：生殖・発生と老化のしくみ（A, B, C）（p. 459-489） 第15回 第10章：生殖・発生と老化のしくみ（D）（p. 489-499） 授業全体の振り返り		
使用教科書	『系統看護学講座 解剖生理学』（医学書院） （参考書）ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習：授業計画に記載された学習項目について、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにしておく。（週90分） 復習：授業担当者が各章の最後に提示する「ポイント」に対して、教科書や講義資料（スライド）を使って、サマリー（まとめ）を作成し、知識を整理する。（週90分）		

授業概要(シラバス)

授業科目名	生化学																																																					
授業担当者名	石井 健一郎																																																					
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1年次前期																																																			
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1SHF1-02																																																			
備考																																																						
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 生体を構成する物質（糖質・脂質・タンパク質・核酸）の代謝、すなわち合成（同化）と分解（異化）を酵素が触媒する化学反応として理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学の視点から生命を理解する。 2. 生体を構成する物質の構造・代謝・機能を化学的に説明できる。 3. 人が食べ物を摂取・消化し、栄養素を体内に吸収・代謝する過程を説明できる。 																																																					
ディプロマポリシーとの関連	DP1「知識・技能」◎、DP4「意欲・態度」○																																																					
授業の概要	<p>看護実践の場で必要となる、疾患や病態生理を理解するためには、人体の正常構造と機能を正しく理解することが重要である。基礎医学においては、解剖学によって人体の形態と構造を学び、生理学によって役割と機能を学ぶ。そして、生化学によって機能を発揮するために必要な生体物質と、その化学反応（代謝）を学ぶ。</p> <p>生化学での学びは、糖質・脂質・タンパク質・核酸といった生体物質の代謝が中心であり、これら生体物質の代謝が正常な生命活動を維持する。糖質・脂質は各種細胞のエネルギー源となり、タンパク質は身体作りに利用される。人は、身体が発育・成長して生命を維持するために、また、正常な生命活動を営むために必要な生体物質（栄養素）を体外から食事として摂取する。腸から吸収された栄養素が生体内でどのような化学反応（代謝）を受け、どのように利用されるのか。このような生体内で生じる化学反応（代謝）を解剖生理学と関連づけて学ぶことは、病理学によって病気の成り立ちを理解する際に役立ち、ひいては看護実践の場で患者の状態を観察・把握するために必要不可欠な知識となる。</p>																																																					
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度（90%）とレポート課題（10%）から総合的に評価する。 なお、理解度確認については別日程で実施する。																																																					
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>栄養学</td> <td>第1章：人間栄養学と看護 (p. 1-16)</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>栄養学</td> <td>第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>栄養学</td> <td>第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>栄養学</td> <td>第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>栄養学</td> <td>第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>栄養学</td> <td>第4章：エネルギー代謝 (p. 73-90)</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>栄養学</td> <td>第9章：臨床栄養 (p. 187-236)</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>生化学</td> <td>第1章：生化学を学ぶための基礎知識 (p. 3-20)</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>生化学</td> <td>第2章：代謝の基礎と酵素・補酵素 (p. 21-48)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>生化学</td> <td>第3章：糖質の構造と機能 (p. 49-66)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>生化学</td> <td>第4章：糖質代謝 (p. 67-96)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>生化学</td> <td>第5章：脂質の構造と機能 (p. 97-110)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生化学</td> <td>第6章：脂質代謝 (p. 111-128)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>生化学</td> <td>第7章：タンパク質の構造と機能 (p. 129-140)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生化学</td> <td>第8章：タンパク質代謝 (p. 141-154)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>生化学</td> <td>第9章：ポルフィリン代謝と異物代謝 (p. 155-166)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>生化学</td> <td>第3部：細胞のシグナル伝達とがん (p. 245-283)</td> </tr> </table> <p>授業全体の振り返り</p>			第01回	栄養学	第1章：人間栄養学と看護 (p. 1-16)	第02回	栄養学	第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)	第03回	栄養学	第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)	第04回	栄養学	第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)	第05回	栄養学	第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)	第06回	栄養学	第4章：エネルギー代謝 (p. 73-90)	第07回	栄養学	第9章：臨床栄養 (p. 187-236)	第08回	生化学	第1章：生化学を学ぶための基礎知識 (p. 3-20)	第09回	生化学	第2章：代謝の基礎と酵素・補酵素 (p. 21-48)	第10回	生化学	第3章：糖質の構造と機能 (p. 49-66)	第11回	生化学	第4章：糖質代謝 (p. 67-96)	第12回	生化学	第5章：脂質の構造と機能 (p. 97-110)		生化学	第6章：脂質代謝 (p. 111-128)	第13回	生化学	第7章：タンパク質の構造と機能 (p. 129-140)		生化学	第8章：タンパク質代謝 (p. 141-154)	第14回	生化学	第9章：ポルフィリン代謝と異物代謝 (p. 155-166)	第15回	生化学	第3部：細胞のシグナル伝達とがん (p. 245-283)
第01回	栄養学	第1章：人間栄養学と看護 (p. 1-16)																																																				
第02回	栄養学	第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)																																																				
第03回	栄養学	第2章：栄養素の種類とはたらき (p. 17-43)																																																				
第04回	栄養学	第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)																																																				
第05回	栄養学	第3章：食物の消化と栄養素の吸収・代謝 (p. 45-72)																																																				
第06回	栄養学	第4章：エネルギー代謝 (p. 73-90)																																																				
第07回	栄養学	第9章：臨床栄養 (p. 187-236)																																																				
第08回	生化学	第1章：生化学を学ぶための基礎知識 (p. 3-20)																																																				
第09回	生化学	第2章：代謝の基礎と酵素・補酵素 (p. 21-48)																																																				
第10回	生化学	第3章：糖質の構造と機能 (p. 49-66)																																																				
第11回	生化学	第4章：糖質代謝 (p. 67-96)																																																				
第12回	生化学	第5章：脂質の構造と機能 (p. 97-110)																																																				
	生化学	第6章：脂質代謝 (p. 111-128)																																																				
第13回	生化学	第7章：タンパク質の構造と機能 (p. 129-140)																																																				
	生化学	第8章：タンパク質代謝 (p. 141-154)																																																				
第14回	生化学	第9章：ポルフィリン代謝と異物代謝 (p. 155-166)																																																				
第15回	生化学	第3部：細胞のシグナル伝達とがん (p. 245-283)																																																				
使用教科書	『系統看護学講座 栄養学』（医学書院） 『系統看護学講座 生化学』（医学書院）																																																					
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習：授業計画に記載された学習項目について、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにしておく。（週90分） 復習：授業担当者が各章の最後に提示する「ポイント」に対して、教科書や講義資料（スライド）を使って、サマリー（まとめ）を作成し、知識を整理する。（週90分）																																																					

授業概要(シラバス)

授業科目名	病理学		
授業担当者名	石井 健一郎		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2DTS1-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 病気になる原因や病気の成り立ちを科学的に理解し、病気を正しく認識する。 〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気には器官や組織を構成する細胞の異常が関連することを理解する。 2. 細胞・組織の形態学的変化は機能の変化に関連することを説明できる。 3. 病気に特徴的な細胞・組織の変化を説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP2「思考力・判断力・創造力」◎、DP3「協働力」○		
授業の概要	<p>看護実践の場で必要となる、疾患や病態生理を理解するためには、人体の正常構造と機能を正しく理解することが重要である。基礎医学において、解剖生理学・生化学は人体の正常構造と機能、生体物質の代謝を学ぶ学問である一方、病理学は病気の理屈、つまり病気とは何か、その原因、転帰を学ぶ学問である。特に、病理学総論では、炎症・循環障害・腫瘍など、器官／器官系の違いを超えて共通に見られる病気になる原因や成り立ちを学ぶ。</p> <p>現代において、医療行為は個人的な考えや習慣、経験に基づいて行うものではない。臨床医学に科学的根拠を与える病理学を学ぶことは、看護実践の場で患者の状態を正しく観察・把握するためには必要不可欠な知識となる。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度 (90%) とレポート課題 (10%) から総合的に評価する。 なお、理解度確認については別日程で実施する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 第1章：病理学で学ぶこと (p. 3-12) 第2章：細胞・組織の損傷と修復 (p. 13-29)</p> <p>第02回 第2章：炎症 (p. 29-32)</p> <p>第03回 第9章：腫瘍 (p. 135-166)</p> <p>第04回 第9章：腫瘍 (p. 135-166)</p> <p>第05回 第3章：免疫、移植と再生医療 (p. 33-54) 第4章：感染症 (p. 55-70)</p> <p>第06回 第5章：循環障害 (p. 71-92)</p> <p>第07回 第6章：代謝障害 (p. 93-102) 第7章：老化と死 (p. 103-114)</p> <p>第08回 第8章：先天異常と遺伝性疾患 (p. 115-134) 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	『系統看護学講座 病理学』 (医学書院) (参考書) 『系統看護学講座 解剖生理学』 『系統看護学講座 生化学』 『系統看護学講座 栄養学』 『系統看護学講座 微生物学』 (医学書院)		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>予習：授業計画に記載された学習項目について、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにしておく。(週90分)</p> <p>復習：授業担当者が各章の最後に提示する「ポイント」に対して、教科書や講義資料(スライド)を使って、サマリー(まとめ)を作成し、知識を整理する。(週90分)</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	微生物学		
授業担当者名	青山 温子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1DTS1-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] 微生物の種類と特徴、人体に及ぼす影響、病原微生物に対する感染予防等について理解する。</p> <p>[到達目標] 1. 病原微生物を理解した上で、看護を実践するために必要な感染症に関する基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における感染の制御を考慮した行動ができる。看護対象者および医療者・看護者の感染症予防・治療について理解できる。 3. 看護実践(感染予防)に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>「知識・技能」◎ 「思考力・判断力・創造力」○</p>		
授業の概要	<p>微生物学では、細菌・ウイルス・真菌・原虫など、人間に感染症を引き起こす病原微生物について学修する。微生物の種類と特徴、感染症と免疫、病原微生物により引き起こされる感染症とその予防・治療方法について、多面的・包括的に基本的知識を修得する。微生物学を学ぶ目的は、病原微生物への正しい知識を持つことにある。微生物と人間の関係には、生物浄化による環境保全や発酵食品などプラスの側面と、人間や動物に感染症を引き起こすマイナスの側面がある。看護学では、医療従事者が引き起こす媒介感染を防止するうえでも、病原微生物の知識は極めて重要である。微生物とはどのようなものか、どのような感染症を引き起こすのか、我々はどのように対処すべきかを、多面的に学ぶ。細菌・ウイルス・真菌・原虫の性質、病原微生物と感染症、感染症防御と予防対策について学び、知識を医療の現場で役立てることをねらいとする。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度確認の結果 (90%) および受講態度など (10%) から総合的に評価する		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 微生物の種類と性質(教科書 第1~4章 付章) 第02回 感染と免疫(教科書 第5~6章) 第03回 感染経路・感染症の診断(教科書 第7~8章) 第04回 感染症の治療と対策(教科書 第9~10章) 第05回 細菌感染症(教科書 第11章) 第06回 ウイルス感染症(教科書 第12章) 第07回 真菌・原虫・寄生虫・衛生害虫(教科書 第13章 付章 他) 第08回 微生物学まとめ・理解度確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院「系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 4」		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>テキストをもとに、当日の授業の復習(90分)、次回の授業の予習(60分)をする。日頃から健康や保健に関わるニュースを新聞等でチェックし、保健・医療・福祉への関心を高める。 また、国立感染症研究所等のホームページから最新の情報をチェックする。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護学概論		
授業担当者名	平賀 元美		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1FUN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 看護の役割・本質・機能・倫理・方法を学び、看護を学ぶ者としての基盤を整える。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の重要概念である「健康」「環境」「人間」「看護」を説明できる。 2. 先人の看護理論家の言う看護の考え方が理解できる。 3. 看護者に求められる活動について、社会情勢、歴史の変遷から考えることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP1. 知識・技能◎</p> <p>DP2. 思考力・判断力・創造力○</p>		
授業の概要	<p>看護学概論を学ぶ目的は、看護の対象・本質・役割・機能・方法など看護専門職に必要な知識と考え方を養い、これから学ぶ看護学への基盤を形成することにある。看護の「対象」は人間であり、世界の看護理論家の学説を学ぶことで、人間の見方の多様性を学び、看護学の視座を広げる。いにしえから看護は、人々の生活の営みと密着しつつ看護学に発展した歴史の変遷を学び、現代そして未来における看護の役割を考える。看護の場は、家庭、地域・職場に限らず、海外、災害の場へと拡大してきている実態も学ぶ。日常生活と人間の幸せとの関連性に気付き、看護への興味・関心を涵養する。</p>		
学生に対する評価の方法	事前・事後課題 (30%)、授業内容の理解度 (70%) により総合的に判断する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 ガイダンス (授業内容と目的の説明) 看護の変遷と歴史、看護職の法的根拠と位置づけ (講義)</p> <p>第02回 看護とは何か、看護の目的と機能、対象と機能について (講義)</p> <p>第03回 看護の場と看護活動 医療・看護の場と看護体制 (講義)</p> <p>第04回 看護を構成する主要概念 (講義)</p> <p>第05回 看護理論の理解・ナイチンゲール (講義)</p> <p>第06回 看護理論の理解・ニード論 (ヘンダーソン) (講義)</p> <p>第07回 看護理論の理解・適応理論 (ロイ)、セルフケア理論 (オレム) (講義)</p> <p>第08回 看護の対象の理解 (発達課題と人間の生活) (講義)</p> <p>第09回 看護の対象の理解 (社会、文化) (ディベート準備)</p> <p>第10回 看護の対象の理解 (社会、文化) (ディベート)</p> <p>第11回 看護の対象の理解 (社会、文化) (ディベート)</p> <p>第12回 看護と倫理 (講義)</p> <p>第13回 看護実践と科学、看護技術と科学的根拠 (講義)</p> <p>第14回 現代医療と保健・医療・福祉システム (講義)</p> <p>第15回 現代医療における看護の課題 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>『看護学概論』 (医学書院)、『看護の基本となるもの』 (日本看護協会出版会)、毎回配布する資料</p> <p>購入するテキストは2冊だけですが、さまざまなテキストがあります。いろいろな本を読み比べて、考えを深めていってください。参考書籍：『看護学概論』 (メヂカルフレンド社)、『看護学概論』 (ナーシング・グラフィカ)、『フローレンスナイチンゲール 看護覚え書』 現代社、『国民衛生の動向』 (厚生労働統計協会)、『看護者の倫理綱領』 (日本看護協会)</p>		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する。 Moodleを活用して、授業終了時は学びとして自覚したことや疑問等を提出をする。この内容に基づいて自己学習をすすめる。さらに、授業の最後に次回の課題を示すので、自己学習した結果を授業開始時に提出する。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。</p> <p>看護を学ぶ導入となるので、講義として話を聞くだけでなく、本を読むこと、読んで理解した内容をまとめ他者に伝えること、他者の意見を聞くこと、レポートにまとめることなどを体験する。全ての回の授業がそれぞれ異なり意味ある内容になっていますので、休まず、かつ課題を行って参加してください。</p>
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護学技術論1		
授業担当者名	林 智子、平賀 元美、白鳥 さつき、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1年次前期
教員担当形態	複数(主担当:平賀 元美)	ナンバリングコード	241-2FUN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 看護実践に共通する基礎看護技術を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践に必要なコミュニケーション、観察の意義と方法を理解できる。 2. 療養生活における安全、安楽のニーズに基づいて、ニーズを充足するための方法が理解できる。 3. 活動と睡眠・休息のニーズと療養生活における援助について理解することができる。 4. 生命徴候の観察と身体測定の方法が理解できる。 5. 看護者として看護実践を記録、報告する意味を理解できる。 6. バイタルサインの測定を正確に実施できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1. 知識・技能○ DP2. 思考力・判断力・創造力◎		
授業の概要	共通看護技術を学ぶ目的は、あらゆる看護技術の土台となる全ての対象に共通する基本的な基礎看護技術を修得することにある。①技術について(技術とは、技能とは)②コミュニケーション技術(言語的・非言語的コミュニケーション、「話す」「聴く」「伝える」基本技術)③観察・測定・記録・報告の技術(意義、生命徴候の観察方法、身長・体重・腹囲の測定方法、記録と報告の内容)④安全を守る技術(感染予防、転倒・転落の予防)⑤基本的な活動の技術(ボディメカニクス、体位変換、安楽な体位保持、移動・移乗・移送)⑥病床の整備(環境の調整、ベッドメイキング、リネン交換)⑦看護援助の判断基準となるバイタルサインの基本について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート(30%)、授業内容の理解度確認(70%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス、看護技術とは、看護技術の学び方、看護実践力と看護(講義)</p> <p>第02回 実習室の使用法と看護を学ぶ上での身だしなみと注意事項(講義)</p> <p>第03回 看護実践に必要なコミュニケーション(講義)</p> <p>第04回 安全・安楽のニーズと充足:安全・安楽の意義(講義)</p> <p>第05回 安全を守る技術:スタンダードプリコーション、手指衛生、廃棄物の取り扱い(講義)</p> <p>第06回 安全を守る技術:消毒と滅菌(講義)</p> <p>第07回 安全が脅かされる環境と予防:感染、転倒・転落(講義)</p> <p>第08回 安全を守る技術:ボディメカニクス、基本肢位・良肢位・体位、体位変換(講義)</p> <p>第09回 安楽を促す援助:褥法・リラクゼーション(講義)</p> <p>第10回 環境とは、看護における生活環境と整える意義(講義)</p> <p>第11回 安全を守る技術:衛生的手洗い、個人防護用具の着脱1(演習)</p> <p>第12回 安全を守る技術:衛生的手洗い、個人防護用具の着脱2(演習)</p> <p>第13回 看護場面における生活環境:快適な環境と整備(講義)</p> <p>第14回 病床の作り方:ベッドメイキング、リネン類のたたみ方(講義)</p> <p>第15回 病床の作り方:ベッドメイキングの実際1(演習)</p> <p>第16回 病床の作り方:ベッドメイキングの実際2(演習)</p> <p>第17回 病床の作り方:リネン交換(講義)</p> <p>第18回 安楽の援助:リラクゼーションの実際(演習)</p> <p>第19回 病床の作り方:リネン交換、環境整備の実際(演習)</p> <p>第20回 観察と測定:観察とは、観察の技術、全体の概観、生命徴候の観察(講義)</p> <p>第21回 生命徴候の測定:バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識1(講義)</p> <p>第22回 生命徴候の測定:バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識2(講義)</p> <p>第23回 生命徴候の測定:バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識3(講義)</p> <p>第24回 看護記録:看護における記録・報告、相談の意味、看護記録の方法と報告の仕方(講義)</p> <p>第25回 バイタルサイン:体温・脈拍・呼吸・意識・経皮的動脈血酸素飽和度の実際(演習)</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>第26回 バイタルサイン：血圧：触診法・聴診法の実際(演習) 第27回 バイタルサイン測定の記録・報告(講義) 第28回 カンファレンス：カンファレンスとは、種類と方法、カンファレンスでの役割(講義) 第30回 バイタルサイン測定の実際と記録、報告2(演習) 授業全体の振り返り</p>
<p>使用教科書</p>	<p>『基礎看護技術Ⅰ』(医学書院) 『基礎看護技術Ⅱ』(医学書院) 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』(インター・メディカ)</p>
<p>自己学習(予習・復習等の内容・時間)</p>	<p>シラバスに基づいて、講義内容を自己学習して授業に臨むこと。初回にテーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。技術演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護学技術論2		
授業担当者名	平賀 元美、林 智子、白鳥 さつき、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	複数(主担当:平賀元美)	ナンバリングコード	241-2FUN2-04
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 生活援助の実践に必要な基礎看護技術を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間に必要な食事、活動、睡眠・休息、排泄、衣生活、清潔の意義が理解できる。 2. 食事、活動、睡眠・休息、排泄、衣生活、清潔のニーズと療養生活における援助の方法を理解することができる。 3. 安全安楽な陰部洗浄の援助を実施できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1. 知識・技能○ DP2. 思考力・判断力・創造力◎		
授業の概要	生活援助技術を学ぶ目的は、対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で基本的な日常生活の援助方法と基本的ニーズとして生命維持に極めて重要な日常生活の援助方法の基礎知識を学ぶとともに、看護師としての基本的な態度を修得することにある。基本的ニーズとして生命維持に極めて重要な①栄養と食事(食事介助)②活動(体位変換・安楽な体位保持)③睡眠・休息④排泄(自然排泄への援助、便尿器の挿入、膀胱留置カテーテルの管理)の援助技術を学ぶ。対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で、基本的な⑤衣生活(和式寝衣・パジャマの交換)⑥身体の清拭(全身清拭、口腔ケア、洗髪、部分浴、陰部清拭)の援助技術を学ぶ。コミュニケーションを駆使し、対象の反応を評価し、次の学習に活かすリフレクションを慣習化する。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート(30%)、授業内容の理解度確認(70%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 ガイダンス(授業内容と目的の説明)、人間における食事の意義とニーズ、栄養と食事のアセスメント(講義) 第02回 嚥下のメカニズム、食事介助の方法(嚥下障害のある患者を除く)、摂食・嚥下の訓練(講義) 第03回 経口的に栄養が摂取できない場合:経鼻経管栄養法、食事の形態の工夫 第04回 食事介助の方法(講義) 第05回 人間にとっての活動、意義とニーズ、アセスメントと援助(講義) 第06回 睡眠・休息の意義とニーズ、アセスメントと援助(講義) 第07回 人間にとっての衣生活 意義とニーズ、アセスメントと援助(寝衣交換)(講義) 第08回 移動・移送の援助:ストレッチャー、車いす(講義) 第09回 移動・移送の援助の実際:ストレッチャー、車いす(演習) 第10回 清潔の意義とニーズ、アセスメント、身体清潔に関する基礎知識(講義) 第11回 清潔援助:全身清拭と入浴・シャワー浴・の目的・根拠・援助方法(講義) 第12回 寝衣交換の援助の実際:和式寝衣・パジャマの交換、たたみ方1(演習) 第13回 寝衣交換の援助の実際:和式寝衣・パジャマの交換、たたみ方2(演習) 第14回 清潔援助:清拭の実際1(演習) 第15回 清潔援助:清拭の実際2(演習) 第16回 清潔援助:清拭の実際3(演習) 第17回 清潔援助:部分浴(手浴、足浴)の基礎知識(講義) 第18回 清潔援助:陰部洗浄の基礎知識(講義) 第19回 清潔援助:洗髪・結髪、口腔ケア、耳、眼、鼻部の手入れの基礎知識(講義) 第20回 清潔援助:部分浴の実際1(演習) 第21回 清潔援助:部分浴の実際2(演習) 第22回 人間にとっての排泄のニーズと行動、アセスメント(講義) 第23回 排泄コントロールが困難な患者、尿意、便意があいまいな患者への援助:オムツ交換 第24回 自然排泄の援助:床上排泄、便器、尿器の使い方(講義) 第25回 清潔援助:陰部洗浄の実際1(演習) 第26回 清潔援助:陰部洗浄の実際2(演習) 第27回 自然排泄の援助:トイレへの誘導、ポータブルトイレ(講義) 第28回 清潔援助:洗髪の実際1(演習)		

授業概要(シラバス)

	<p>第29回 清潔援助：洗髪の実際2(演習)</p> <p>第30回 膀胱留置カテーテルを挿入している場合の管理(講義) 授業全体の振り返り</p>
使用教科書	<p>『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）</p> <p>『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』（インター・メディカ）</p>
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>シラバスに基づいて、講義内容を自己学習して授業に臨むこと。テーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。技術演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護情報学		
授業担当者名	神谷 智子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1~4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1FUN2-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 看護におけるデータと情報の違いを理解し、どのようなデータを情報として看護に活用するかを学習する。また、医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、コミュニケーション、患者情報の管理など、医療情報について学習する。さらに、情報を活用するうえで守らなければならない倫理について考える。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕 1. どのようにデータを情報として活用するかを理解する。 2. 医療における情報システムの役割とその具体的な運用方法について理解する。 3. 情報を活用するうえで遵守しなければならない倫理について理解する。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	看護情報学を学ぶ目的は、ICTを取り入れながら、「情報」と「コミュニケーション」を看護実践の場面で活用する方法を学ぶことである。「情報とは何か」について学習し、保健医療における情報システムの活用の実際や情報を扱う上での情報倫理について学習する。看護・医療分野でICTを活用し、情報社会に適應できる看護師としての基礎的能力を身につける。		
学生に対する評価の方法	①課題レポート (70%) ②グループワークにおける授業の参画状況 (30%) から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 看護情報学とは 第02回 看護・医療におけるICTの活用 第03回 看護・医療における情報システム：介護ロボット (GW) 第04回 看護・医療における情報システム：病院情報システム 第05回 看護・医療における情報システム：電子カルテ 第06回 看護・医療における情報システム：電子カルテの実際 第07回 情報と倫理 第08回 まとめ・レポート作成 授業全体の振り返り		
使用教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	事前学習として、次回の講義内容について検索し、自分の知りたいことは何かを明確にしておきましょう (週60分)。 事後学習は、講義内容を復習し、理解を深めましょう (週60分)。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護学実習1		
授業担当者名	出原 弥和、林 智子、平賀 元美、白鳥 さつき、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次前期（集中）
教員担当形態	複数・クラス分け （主担当：出原弥和）	ナンバリングコード	241-2FUN2-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	入院患者の病床での生活の実際を観察や言語的コミュニケーションをとおして理解し、環境の調整ができる。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎ 「知識・技能」○		
授業の概要	看護学生として初めて入院患者を受け持つ臨地での実習であり、①入院患者との言語的コミュニケーションがとれる。②入院患者の病床での生活の実際を理解し環境の調整を試みることを目標とする。初対面の患者との挨拶に始まり、環境の調整を通し、患者と会話をする。話を聴く、自分の思いを伝えることで言葉のキャッチボールができるようにする。患者の1日の療養生活の実際や特徴を知ること看護技術の学習に活かす機会とする。実習グループのカンファレンスでの意見交換、他者の意見を聴く、自分の意見の伝えることで、チームワークや協調性も学ぶ。次の実習の課題を見出す。		
学生に対する評価の方法	事前学習、事後の発表及びまとめ（20%）と実習における学びや学習姿勢、態度（80%）について、実習評価表に基づいて総合的に判断して評価する。 本科目は再評価を実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	〔グループの編成〕 原則1グループ5名程度とする。 〔実習計画〕 第1日目 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の選定と紹介 第2日目～3日目 受け持ち患者とのコミュニケーション、情報収集、療養環境や生活援助の実施、病棟カンファレンス 第4日目～5日目 療養環境・生活援助の振り返り、実習のまとめ、授業全体の振り返り		
使用教科書	実習要項 『看護学概論』（医学書院） 『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院） 『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院） 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス①』（インター・メディカ） その他、授業のテキスト及び参考資料		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前に行う実習オリエンテーションにはすべて参加すること。 オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、看護者としての自覚を持って実習に臨む。実習計画に示される次回の実習内容について確認する（週90分）、実習時に生じた疑問点等について調べ、まとめ、課題の解消を図る（週90分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	成人・老年看護学概論		
授業担当者名	穴井 美恵、宮本 恵子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	オムニバス(主担当:穴井美恵)	ナンバリングコード	241-1AGN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>[授業のテーマ] 成人看護学概論は、成人期にある人の特徴や健康課題をとらえ、看護の目的と役割・方法について学修し、知識を習得する。 老年看護学概論は、老年期にある人を理解し、高齢者を取り巻く社会情勢から、老年看護の目的と役割について学修し、知識を習得する。</p> <p>[到達目標] 1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について説明できる。 2. 健康状態(健康維持・急性期・回復期・慢性期・終末期)に応じた看護について説明できる。 3. 成人期にある人に有用な理論や概念について理解し、看護への応用について説明ができる。 4. 成人期にある人の発達課題や健康課題の特徴を踏まえて看護を提供する意義とその方法について説明できる。 5. 老年期にある人について説明できる。 6. 高齢者を取り巻く社会情勢が説明できる。 7. 高齢者の尊厳とアドボカシーについて説明できる。 8. 老年看護の対象について理解を深め、老年看護の目的と役割が説明できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>対象の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。</p> <p>(「知識・技能」◎、「意欲・態度」○)</p>		
授業の概要	<p>成人看護学概論を学ぶ目的は、成人看護学全般について看護の概要、社会的動向との関連、成人期にある人が家庭・地域・社会において果たす役割と特徴、健康上の課題について概観的に学ぶことにある。成人各期の特徴を心身の発達と生活の視点からとらえ、成人期にある人の健康課題・問題について成人看護に有用な理論・概念を概観しながら理解する。そして、成人期にある人の健康状態に応じた看護の基本について理解する。 老年看護学概論の目的は、老年看護学全般についてその看護の概要、社会的な動向との関連、高齢者の社会を概観し学ぶことにある。また、高齢社会と社会保障の概要、高齢者保健医療福祉の変遷と制度についても理解を深める。老年期の人々が健やかにその人らしく生きるためには、高齢者とその家族の生活を支え、Quality of Lifeを高めるための役割があることを理解する。さらに、高齢者を取り巻く社会の中での課題を提示しながら、老年看護における倫理的な課題について考える。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>成人・老年：①授業への参加および学習状況(10%)、②レポート課題(20%)、③理解度確認(70%)から総合的に評価する。 成人・老年の評価を総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 成人看護学の概要 成人各期(青年期・壮年期・向老期)にある人の特徴(担当:宮本) 第02回 成人期にある人の健康状態と健康課題(担当:宮本) 第03回 成人期にある人への看護(担当:宮本) 第04回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第05回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第06回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第07回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第08回 老年看護学の概要、老年期の理解(担当:穴井) 第09回 高齢社会と社会保障(担当:穴井) 第10回 高齢者を取り巻く社会情勢(担当:穴井) 第11回 高齢者における保健医療福祉の変遷と介護保険制度(担当:穴井) 第12回 様々な高齢者の生活の場、高齢者施設の特徴(担当:穴井) 第13回 高齢者の尊厳とアドボカシー(担当:穴井) 第14回 老年看護の目的と役割、老年看護を支える理論・概念(担当:穴井) 第15回 老年看護における退院支援(担当:穴井) 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 その他適宜紹介する。</p>		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください（毎回60分）。
--------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	老年学		
授業担当者名	穴井 美恵		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1AGN1-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>授業のテーマは、高齢者の加齢変化および特性を踏まえた看護を実践するための基盤となる知識を習得することである。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の老いるという現象について多角的に説明できる。 2. 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響について説明できる。 3. 高齢者の代表的な疾患や特徴的な症状とその予防について説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>この授業を履修することで、高齢者の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。</p> <p>(「知識・技能」◎、「意欲・態度」○)</p>		
授業の概要	<p>老年学の目的は、対象を生物学的、心理学的、社会的な観点から捉えたうえで、ヒトの加齢現象や社会の高齢化にかかわる諸問題の解決を探究することである。老化に関する学説についての知識を深め、加齢や老化にはどのような生理的、機能的、精神的な背景があるかを学修する。また、加齢に伴う心身の変化が日常生活にどのように影響するかを理解するとともに、高齢者の疾病をめぐる特徴を踏まえ、予防的観点から老年期の人々への看護の在り方について学修する。</p>		
学生に対する評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業への参画態度(20%) ②授業内容の理解度(80%) <p>以上から総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 老年学、老化、「老いる」ことの意味</p> <p>第02回 加齢に伴う心身の変化① 身体面</p> <p>第03回 加齢に伴う心身の変化② 心理・社会面</p> <p>第04回 老年病、老年症候群、加齢変化による日常生活への影響</p> <p>第05回 加齢による運動器、血管の変化</p> <p>第06回 加齢による口腔機能、認知機能の変化</p> <p>第07回 高齢者に特徴的な症候と疾患(脳・神経系)</p> <p>第08回 高齢者に特徴的な症候と疾患(泌尿器系)</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問点や意見等を明確にして授業に臨んでください(毎回60分)。復習は、各回で示される学習目標に沿って自分なりに学習内容やキーワード、授業で示された重要な点をまとめたノートを作成し、整理してください(毎回60分)。</p> <p>新聞、雑誌、書籍、テレビ番組などから関連するテーマについて、日ごろから注意しておきましょう。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	健康生活支援論																										
授業担当者名	工藤 紀子、世俵 智恵子																										
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期																								
教員担当形態	オムニバス (主担当教員 : 工藤紀子)	ナンバリングコード	241-1CON1-01																								
備考	実務経験のある教員担当科目																										
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 地域での人々の暮らしを知り、暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らすとはどういうことか考えを述べられる。 2. 地域で暮らしている人々の生活と地域の多様性を理解する。 3. 地域で暮らしている多様な人々が看護の対象であることを理解する。 4. 地域で暮らしている人々の暮らしと健康との関連を理解する。 5. 身近な事例から地域と暮らしと健康との関係を説明できる。 6. 看護の観点から地域とそこに住む人々の暮らしを理解する必要性を現代の社会的背景に基づき説明できる。 																										
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP2思考力・判断力・創造力○																										
授業の概要	地域で生活する人々の暮らしと健康を支援するためには、入院患者中心ではなく、地域で暮らす人々すべてが看護の対象であることを認識する。そのために、地域で暮らす人々とその暮らしの実際を知り、暮らしや生活環境が健康に与える影響について理解することが重要である。授業は、事例や身近な人々の暮らし方を知るインタビュー等を題材として、地域・暮らし・人間・健康についてディスカッションを通して理解を深められるように進める。																										
学生に対する評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 (30%) 2. レポート (40%) 3. 授業へ参画態度 (30%) 以上の3点から総合的に評価する																										
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>ガイダンス、暮らしとは何か</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>地域とそこに暮らす人々とは</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>そこに住む人々のおもい、力、支えあい</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>身近な地域を看護の視点で観察する</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>身近な地域とそこでの暮らし</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>事例をもとに暮らしと人々の思いについて考える</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>事例をもとに暮らしと健康について考える</td> <td>世俵</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>地域と暮らしと健康との関連 (まとめ)</td> <td>工藤</td> </tr> </table> 授業全体の振り返り			第01回	ガイダンス、暮らしとは何か	工藤	第02回	地域とそこに暮らす人々とは	工藤	第03回	そこに住む人々のおもい、力、支えあい	工藤	第04回	身近な地域を看護の視点で観察する	工藤	第05回	身近な地域とそこでの暮らし	工藤	第06回	事例をもとに暮らしと人々の思いについて考える	工藤	第07回	事例をもとに暮らしと健康について考える	世俵	第08回	地域と暮らしと健康との関連 (まとめ)	工藤
第01回	ガイダンス、暮らしとは何か	工藤																									
第02回	地域とそこに暮らす人々とは	工藤																									
第03回	そこに住む人々のおもい、力、支えあい	工藤																									
第04回	身近な地域を看護の視点で観察する	工藤																									
第05回	身近な地域とそこでの暮らし	工藤																									
第06回	事例をもとに暮らしと人々の思いについて考える	工藤																									
第07回	事例をもとに暮らしと健康について考える	世俵																									
第08回	地域と暮らしと健康との関連 (まとめ)	工藤																									
使用教科書	河原加代子著者代表：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版, 医学書院, 2022.																										
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>〔事前学習〕 (週45分)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各講義に該当する教科書の内容を読み、受講してください。 ②日常生活における出来事全般やニュースなどの暮らしと健康に関する情報に関心を寄せてください。 ③提示する事前学習課題に取り組み、受講してください。 <p>〔事後学習〕 (週45分)</p> 各講義で学習した内容を整理して、復習し、課題レポートに反映してください。																										

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護早期体験実習		
授業担当者名	本多 利枝、出原 弥和、宮本 恵子、藤澤 浩美、鯉淵 乙登女、小幡 さつき		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次前期（集中）
教員担当形態	複数・クラス分け （主担当：本多 利枝）	ナンバリングコード	241-1CON3-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 医療施設における患者の療養の場を理解し、患者の看護場面の見学を通して看護師の役割を知る。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院、外来、病棟について知ることができる。 2. 外来において看護場面を見学し、外来患者への看護活動を知ることができる。 3. 病棟における入院患者への看護活動の実際を知ることができる。 4. 病院の機能や看護師の役割が理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>看護早期体験実習の目的は、1年前期の早期の段階で、医療現場である病院での看護場面の見学を通して、患者、患者の療養の場、看護師の役割を理解し、今後の学修への動機づけとすることである。</p> <p>健康障害をもつ外来患者および入院患者の療養の場を理解し、看護の実際を見学することで、看護を学修することへの動機づけとする。看護師と共に行動し、実際の看護場面において、患者に対する看護師の関わり方、提供される看護実践を見学し、看護の役割を理解する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>実習内容、実習態度、実習記録から総合的に評価する。</p> <p>本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>実習場所は名古屋医療センターである。</p> <p>グループ編成は、原則1グループ7名程度とする。</p> <p>実習 1日目：学内実習；実習オリエンテーション、実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の一員となる看護学生としての責務、倫理的な行動を学ぶ。 ・医療現場で実習を行う看護学生に必要な衛生行動と感染予防行動を実践する。 <p>実習 2日目：病院実習；病院内オリエンテーション、実習グループに分かれて病院（病棟・外来など）見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師に同行し、看護援助場面を見学する。見学と病棟の看護師との交流を通して看護師の役割と責務、患者の尊厳を擁護する姿勢を学ぶ。 ・病院実習の場で患者や医療従事者に対して誠実で倫理的な行動をとることを実践する。 ・医療現場で実習を行う看護学生に必要な衛生行動と感染予防行動を実践する。 <p>実習 3日目：同上</p> <p>実習 4日目：学内実習；グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院における診療環境、患者の療養環境について見学したこと、観察したこと、気になったことについてグループワークを行う。 ・看護師の役割、看護学生としての責務と倫理的な行動についてグループワークを行う。 <p>実習 5日目：学内実習；まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、目指す看護師像についてイメージしたことをまとめる。 <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	実習要項、実習記録、授業で使用したテキスト及び参考資料		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前の実習オリエンテーションを受け、事前学習を行う。 事後学習は、毎日の実習内容を丁寧に振り返り、実習記録を整理する。 健康に留意し、体調を整える。生活リズムを整え、時間管理も行う。 看護学生としての自覚をもち、主体的に学修する姿勢で臨む。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	地域の暮らしを理解する実習		
授業担当者名	工藤 紀子、森 京子、神谷 智子、世俵 智恵子、白砂 恭子、鈴木 里美		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	1年次前期 (集中)
教員担当形態	複数・クラス分け (主担当：工藤紀子)	ナンバリングコード	241-2CON3-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 人々の生活の基盤である地域・環境を理解し、看護の対象への理解を深める。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学周辺地域の生活環境の特徴について把握し、述べることができる。 2. 地域に暮らす人々の暮らしや思いについて把握し、述べるができる。 3. 地域で行われている健康づくりや暮らしを支える活動を把握し、述べるができる。 4. 実習を通して学んだことをメンバーと協力してまとめることができる。 5. 実習を通して学んだことから今後の自分の課題を述べるができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP 2. 思考力・判断力・想像力◎ DP 4. 意欲・態度○		
授業の概要	人々の暮らしと健康を支えるためには、人々が暮らす地域環境を理解することが重要である。大学周辺の地理的状況や街並みを観察し、地域の雰囲気や生活様式を体感し、地域の特性やそこで暮らす人々を理解する。そして、暮らしと健康を支える活動の見学や体験、参加者との交流を通して、住み慣れた地域で暮らす人々の自分らしい生活と健康を守る看護につ視野を広げる。		
学生に対する評価の方法	実習課題、実習記録、実習中の発言内容、実習への参画態度 以上の4点から総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>〔グループ編成〕 学生100名は、16～17人で6グループ編成する。 各グループは、原則1名の実習指導教員及び助教以上の教員が担当する。</p> <p>〔事前〕 学内オリエンテーションに参加し、実習の目的・目標及び実習の進め方について説明を受ける。</p> <p>〔実習中〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学周辺の地域を探索する。医療・教育・交通・経済・文化・自然環境など生活環境の実際に触れる。地域特性や暮らし方が人々の健康に与える影響を考える。 2. 地域で働く看護職から、大学周辺地域とそこに暮らす人々の特徴と健康支援について講義を受ける。 3. 名古屋市人権啓発センター(ソレイユプラザなごや)では、人権問題について体験学習する。 <p>〔事後〕 参加・体験実習を通して、住み慣れた地域で暮らす人々の自分らしい生活と健康を守る支援の必要性について看護の視点をもって考える。</p> <p>〔実習計画〕 第1日目午前 学内オリエンテーション 第1日目午後～4日目※ 大学周辺の地域探索、地域の暮らしと健康を支援する施設の見学と体験、地域包括支援センターによる講義 第5日目 学内での実習まとめ ※第1日目午後から4日目の実習内容は6グループでローテーションする。</p>		
使用教科書	河原加代子著者代表：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版, 医学書院, 2022.		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	〔予習〕 1. 実習オリエンテーションへ参加、実習要項を熟読し、実習目的と各自の実習スケジュールを把握してください。 2. 日々の実習スケジュールに基づいて、実習の個人目標を立てて実習に臨んでください。 3. 実習目標を達成できるよう、実習要項に沿って事前学習に取り組んでください。 4. 「健康生活支援論」の学習内容を復習し、実習に臨んでください。 〔復習〕 毎日、実習での学び、気付きを実習記録用紙に記録してください。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	臨床心理学		
授業担当者名	飯田 大輔		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1TOM1-03
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 臨床心理学を学ぶことで、さまざまな心の健康レベルを認識でき、それに応じた看護を実践できる。</p> <p>2. 臨床心理学を学ぶことを通して、看護における普遍的な対人支援の知識を獲得する。</p> <p>3. 人間味あふれる看護を実践できるよう、看護における臨床心理学的支援の重要性に気づく。</p> <p>4. 真の人間力につながる、人の心を考え寄り添うことを学び、グローバル社会で活躍できるようになる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	<p>臨床心理学を学ぶ目的は、看護において患者の心に寄り添うことがとても重要であるからです。人は病気になると身体だけではなく、心も弱くなってしまうことが多くあります。皆さんには、身体の疾病に向かうだけでなく、疾病についての心配や不安から生じる心理的な問題についても目を向けられるようになってほしいと思います。そのために、こうした心理的な問題への理解を深め、また、その支援方法を身につけられるように授業をすすめていきたいと思っています。同時に、人の発達や行動・状態についての心理学的な見方についても理解を深めてもらえたらと考えています。看護師として必要な臨床心理学の見立てとアプローチを学び、看護に応用できる授業を行う予定です。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への参加および学習状況(20%) レポート課題(80%) 以上2点から総合的に判断する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 臨床心理学とは何か～臨床心理学概論～ 第02回 心理アセスメントと見立て①～人格に対するアセスメント～ 第03回 心理アセスメントと見立て②～発達・知能に対するアセスメント～ 第04回 医療現場における心理臨床 第05回 精神分析的アプローチ・人間性中心療法的アプローチ 第06回 認知行動療法的アプローチ 第07回 家族療法・解決志向アプローチ 第08回 ナラティブ・オープンダイアログ、受講結果アンケートの実施</p>		
使用教科書	なし。適宜資料を配布する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>復習として、講義の内容に関する資料や動画(各授業で紹介)に目を通し、自主的に学習を進めてもらう。また、各講義後には小テストに回答してもらう。復習は、1時間程度である。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	診断治療学概論		
授業担当者名	五十里 明、近藤 隆久		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	複数(主担当:五十里明)	ナンバリングコード	241-1DTS1-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 生体に現れる反応の指標を基に診断する過程を理解するとともに、治療の概要を理解する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の診断に必要な各種検査の原理、方法、意義について説明できる。 2. 疾病の各種治療法の原理、方法、意義について説明できる。 3. 看護の対象の安全と苦痛を考慮した行動ができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>診断治療学の目的は、基礎と、治療法について学ぶことである。診断の基本となる各種検査法として①一般検査②血液検査③生化学検査④内分泌検査⑤感染症検査⑥腫瘍マーカー⑦生理学的検査⑧画像診断⑨病理検査等、について学ぶ。治療法としては、①薬物療法②食事療法③運動療法④リハビリテーション療法⑤放射線療法⑥内視鏡的治療⑦手術療法、について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)から総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 はじめに、一般検査、血液検査、生化学検査 第02回 免疫・血清検査、ホルモン検査 第03回 微生物検査、病理検査 第04回 生理学的検査他 第05回 薬物療法、放射線療法 第06回 食事療法、運動療法、リハビリテーション療法 第07回 手術療法、内視鏡的治療他 第08回 診断治療学概論のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>医学書院「系統看護学講座・別巻 臨床検査」、メヂカルフレンド社「新体系 看護学全書(別巻)治療法概説」、医学書院「系統看護学講座・別巻 シリーズ関連部分」</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>テキストとノートを基に当日の復習(90分)、次回の診断治療学の内容を事前に予習(90分)し、講義に臨むこと。 普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職者としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	病態治療学1		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	ナンバリングコード	241-1DTS1-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 小児・感染症系、循環器系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児・感染症系、循環器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>小児系・感染症系では、免疫・アレルギー・先天性疾患・小児腫瘍・小児感染症・エイズ等を学ぶ。循環器疾患では、心不全、狭心症、心筋梗塞、心奇形、動脈硬化、心臓弁膜症、高血圧等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p><前半>小児系・感染症系 第01回 オリエンテーション、免疫の仕組みとアレルギー、検査と治療 第02回 症状と疾患の理解1(アレルギー疾患) 第03回 疾患の理解2(先天性疾患) 第04回 疾患の理解3(小児腫瘍) 第05回 疾患の理解4(小児感染症) 第06回 エイズを通じた感染症、検査・診断、治療 第07回 疾患の理解5(エイズを通じた感染症)〔他分野で扱う疾患を除く〕 第08回 小児系・感染症系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 <後半>循環器系 第09回 オリエンテーション、症状とその病態生理、検査と治療 第10回 疾患の理解1(虚血性心疾患、心不全、血圧異常) 第11回 疾患の理解2(不整脈、弁膜症、心膜炎) 第12回 疾患の理解3(心筋疾患、肺性心、先天性心疾患) 第13回 疾患の理解4(動脈系・静脈系血管の疾患) 第14回 外科治療各論1(心臓の疾患) 第15回 外科治療各論2(血管・リンパ系の疾患) 第16回 循環器系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>医学書院「系統看護講座・専門分野Ⅱ小児看護学(1)小児看護学概論・小児臨床看護総論」、医学書院「系統看護講座・専門分野Ⅱ小児看護学(2)小児臨床看護各論」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(3)循環器」、メディカ出版「イメージできる病態生理学」</p>		

<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学1の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。 普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する情報が多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職者としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>
---------------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	病態治療学2		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	ナンバリングコード	241-1DTS1-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 呼吸器系、造血器系・精神系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系疾患、造血器系・精神系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>「呼吸器系」「造血器系・精神系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。呼吸器系、造血器系・精神系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。呼吸器系疾患では、肺炎、気管支喘息、肺塞栓症、肺がん、胸膜炎、気胸等を学ぶ。造血器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。造血器系疾患では、白血病、貧血、悪性リンパ腫等を学ぶ。精神系では、統合失調症、気分障害、神経症性障害、発達障害等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。</p>		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p><前半>呼吸器系</p> <p>第01回 オリエンテーション、症状とその病態生理、検査と治療・処置</p> <p>第02回 疾患の理解1(感染症)</p> <p>第03回 疾患の理解2(間質性肺疾患)</p> <p>第04回 疾患の理解3(気道疾患、肺血栓塞栓症)</p> <p>第05回 疾患の理解4(呼吸不全、呼吸調節に関する疾患、肺腫瘍)</p> <p>第06回 疾患の理解5(肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷)</p> <p>第07回 外科治療各論(肺および気管支の疾患、胸膜・縦隔の疾患、胸部外傷)</p> <p>第08回 呼吸器系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認</p> <p><後半>造血器系・精神系</p> <p>第09回 オリエンテーション、血液の生理と造血の仕組み</p> <p>第10回 検査・診断と症候・病態生理</p> <p>第11回 疾患と治療の理解1(赤血球系の異常)</p> <p>第12回 疾患と治療の理解2(白血球系の異常、造血器腫瘍Ⅰ、造血器腫瘍Ⅱ)</p> <p>第13回 疾患と治療の理解3(造血器腫瘍Ⅲ、造血器腫瘍Ⅳ、出血性疾患)</p> <p>第14回 精神疾患と治療の理解1(統合失調症、気分障害)</p> <p>第15回 精神疾患と治療の理解2(神経症性障害、発達障害等)</p> <p>第16回 造血器系・精神系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器」、医学書院「系統看護学講座・別巻 臨床外科看護各論」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(4)血液造血器」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ 精神看護学(1)精神看護の基礎」、メディカ出版「イメージできる病態生理学」</p>		

<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学2の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。 普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する情報が多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>
---------------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	病態治療学3		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	ナンバリングコード	241-1DTS1-06
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 消化器系、感覚器系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。</p> <p>〔到達目標〕 1. 消化器系、感覚器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)		
授業の概要	「消化器系」「感覚器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。消化器系、感覚器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。 消化器系疾患では、胃がん、胃十二指腸潰瘍、食道がん、イレウス、大腸がん、肝炎、肝硬変症、肝がん、胆石症、膵炎、膵臓がん等を学ぶ。感覚器系疾患では、緑内障、白内障、網膜剥離、中耳炎、鼻炎、慢性扁桃炎、上顎がん、喉頭がん、湿疹、蕁麻疹、扁平上皮がん、メラノーマ等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<前半>消化器系 第01回 オリエンテーション、症状とその病態生理、検査と治療 第02回 疾患の理解1(食道の疾患、胃・十二指腸疾患) 第03回 疾患の理解2(腸および腹膜疾患) 第04回 疾患の理解3(肝臓・胆嚢の疾患) 第05回 疾患の理解4(膵臓の疾患) 第06回 外科治療各論1(食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、腸・腹膜の疾患) 第07回 外科治療各論2(肝臓・肝外胆道系の疾患、脾臓・門脈・膵臓等の疾患) 第08回 消化器系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 <後半>感覚器系 第09回 オリエンテーション、耳鼻咽喉科の症状とその病態生理、検査と治療、耳鼻咽喉科疾患の理解1(耳疾患) 第10回 耳鼻咽喉科疾患の理解2(鼻疾患) 第11回 耳鼻咽喉科疾患の理解3(口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害) 第12回 眼科疾患の理解1(症状とその病態生理、検査と治療・処置、機能の障害) 第13回 眼科疾患の理解2(部位別の疾患、外傷、全身疾患との関係) 第14回 皮膚疾患の理解1(症状とその病態生理、検査と治療・処置、表在性・真皮等疾患) 第15回 皮膚疾患の理解2(腫瘍および色素異常症、感染症、全身性疾患に伴う皮膚病変) 第16回 感覚器系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 授業全体の振り返り		
使用教科書	医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(5)消化器」、医学書院「系統看護学講座・別巻 臨床外科看護各論」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(12)皮膚」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(13)眼」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(14)耳鼻咽喉」、メディカ出版「イメージできる病態生理学」		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学3の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。</p> <p>普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する情報が多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職者としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>
--------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	病態治療学4		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	ナンバリングコード	241-1DTS1-07
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 運動器系・膠原病系、内分泌系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系・膠原病系、内分泌系の疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>「運動器系・膠原病系」「内分泌系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。運動器系・膠原病系、内分泌器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。運動器系疾患では、関節リウマチ、変形性関節症、骨折、椎間板ヘルニア、骨肉腫等を学ぶ。膠原病系疾患では、自己免疫疾患、膠原病等を学ぶ。内分泌系では、糖尿病、パセドウ病、橋本病、甲状腺がん、下垂体線種、アジソン病等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p><前半>運動器系・膠原病系</p> <p>第01回 オリエンテーション、症状とその病態生理、診断・検査と治療・処置</p> <p>第02回 疾患の理解1(骨折、脱臼、捻挫および打撲、神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷)</p> <p>第03回 疾患の理解2(先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍および軟部腫瘍)</p> <p>第04回 疾患の理解3(代謝性骨疾患、腱の疾患、神経・筋疾患、上肢および上肢帯の疾患)</p> <p>第05回 疾患の理解4(脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患、ロコモティブシンドローム・廃用症候群)</p> <p>第06回 自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査と治療</p> <p>第07回 疾患の理解5(膠原病)</p> <p>第08回 運動器系・膠原病系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認</p> <p><後半>内分泌系</p> <p>第09回 オリエンテーション、症状とその病態生理、検査</p> <p>第10回 疾患の理解1(内分泌疾患Ⅰ[視床下部-下垂体前葉・後葉])</p> <p>第11回 疾患の理解2(内分泌疾患Ⅱ[甲状腺・副甲状腺・副腎疾患])</p> <p>第12回 疾患の理解3(内分泌疾患Ⅲ[性腺疾患等]、代謝疾患Ⅰ[糖尿病Ⅰ])</p> <p>第13回 疾患の理解4(代謝疾患Ⅱ[糖尿病Ⅱ])</p> <p>第14回 疾患の理解5(代謝疾患Ⅲ[脂質異常症、肥満とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常])</p> <p>第15回 外科治療各論(乳腺の疾患)</p> <p>第16回 内分泌系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(10)運動器」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(6)内分泌・代謝」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(9)女性生殖器」、医学書院「系統看護学講座・別巻 臨床外科看護各論」、メディカ出版「イメージできる病態生理学」</p>		

<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学4の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。 普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する情報が多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>
---------------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	病態治療学5		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	ナンバリングコード	241-1DTS1-08
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 脳脊髄神経系、腎・泌尿器・生殖器系の主な疾患の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳脊髄神経系疾患、腎・泌尿器・生殖器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>「脳脊髄神経系」「腎・泌尿器・生殖器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。脳神経・筋肉系、腎・泌尿器・生殖器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。脳脊髄神経疾患では、脳梗塞、脳出血、髄膜炎、脳腫瘍、パーキンソン病、ALS、MS、ギランバレー症候群、筋ジストロフィー等を学ぶ。腎・泌尿器・生殖器系では、糸球体腎炎、腎不全、腎がん、尿路結石等、生殖器系では、前立腺肥大、前立腺がん等、子宮筋腫、子宮がん、卵巣腫瘍等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。</p>		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p><前半>脳脊髄神経系</p> <p>第01回 オリエンテーション、症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置</p> <p>第02回 疾患の理解1(脳疾患)</p> <p>第03回 疾患の理解2(脊髄疾患、末梢神経疾患)</p> <p>第04回 疾患の理解3(筋疾患・神経筋接合疾患、脱髄・変性疾患)</p> <p>第05回 疾患の理解4(脳・神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症等)</p> <p>第06回 外科治療各論1(脳・脊髄疾患)</p> <p>第07回 外科治療各論2(頭頸部疾患)</p> <p>第08回 脳脊髄神経系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認</p> <p><後半>腎・泌尿器・生殖器系</p> <p>第09回 オリエンテーション、症状とその病態生理</p> <p>第10回 検査と治療・処置</p> <p>第11回 疾患の理解1(腎不全と慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、全身性疾患による腎障害)</p> <p>第12回 疾患の理解2(腎血管性病変～尿路の通過障害と機能障害)</p> <p>第13回 疾患の理解3(尿路損傷および異物～発生・発育の異常)</p> <p>第14回 疾患の理解4(男性不妊症、男性生機能障害、その他男性生殖器疾患)</p> <p>第15回 症状とその病態生理、診察・検査と治療・処置、疾患の理解5(臓器別疾患、機能的疾患、不妊症)</p> <p>第16回 腎・泌尿器・生殖器系のまとめ(発展的課題紹介を含む)と理解度の確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(7)脳・神経」、医学書院「系統看護学講座・別巻臨床外科看護各論」医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(8)腎・泌尿器」、医学書院「系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(9)女性生殖器」、メディカ出版「イメージできる病態生理学」</p>		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学5の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。</p> <p>普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する情報が多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職者としての合理的判断形成に役立つため、このような姿勢に心がけてほしい。</p>
--------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	薬理学		
授業担当者名	石井 健一郎		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1DTS1-09
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 薬物が生体に及ぼす生化学的・生理学的作用を治療効果や副作用の発現として理解する。 〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物治療における看護師の役割を理解する。 2. 薬物と生体との間で起こる相互作用を説明できる。 3. ポリファーマシーを解消する方法を説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1「知識・技能」◎、DP2「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	<p>薬物は疾病の原因を取り除くだけでなく、症状を和らげることにより生命を守る一方で、副作用や有害事象を引き起こし、人体を苦しめることがある。看護師は患者に直接、与薬し、その治療効果や副作用の発現等を最も眼前で観察する存在である。そのため、薬理学の知識は誤薬の防止、治療効果の判定、有害事象の早期発見と予防、服薬アドヒアランスの向上、残薬を減らすための取り組みなど、服薬や治療に関する患者・家族への指導・説明において重要となる。</p> <p>解剖生理学・生化学では人体の正常構造と機能、生体物質の代謝を学んだ。さらに、病理学では病気の理屈、つまり病気とは何か、その原因、転帰を学んだ。人体が正常(健康)から逸脱した異常(病気)となり、医療介入により回復へと向かう過程を学ぶことは、看護実践の場で患者の状態を正しく観察・把握するために必要不可欠な知識となる。</p>		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度(90%)とレポート課題(10%)から総合的に評価する。 なお、理解度確認については別日程で実施する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 第1章：薬理学を学ぶにあたって (p. 3-14)</p> <p>第02回 第2章：薬理学の基礎知識 (A) (p. 16-23)</p> <p>第03回 第2章：薬理学の基礎知識 (B) (p. 24-40)</p> <p>第04回 第2章：薬理学の基礎知識 (C, D) (p. 40-48)</p> <p>第05回 第2章：薬理学の基礎知識 (E) (p. 48-54)</p> <p>第06回 第2章：薬理学の基礎知識 (F, G) (p. 54-63)</p> <p>第07回 第3章：抗感染症薬 (p. 67-102)</p> <p>第08回 第4章：抗がん薬 (p. 103-116)</p> <p>第09回 第5章：免疫治療薬 (p. 117-128)</p> <p>第10回 第6章：抗アレルギー薬・抗炎症薬 (p. 129-144)</p> <p>第11回 第7章：末梢での神経活動に作用する薬物 (p. 145-164)</p> <p>第12回 第8章：中枢神経系に作用する薬物 (p. 165-195)</p> <p>第13回 第9章：循環器系に作用する薬物 (p. 197-237)</p> <p>第14回 第10章：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 (p. 239-258)</p> <p>第11章：物質代謝に作用する薬物 (p. 259-274)</p> <p>第12章：皮膚科用薬・眼科用薬 (p. 275-285)</p> <p>第15回 第13章：救急の際に使用される薬物 (p. 287-296)</p> <p>第14章：漢方薬 (p. 297-304)</p> <p>第15章：消毒薬 (p. 305-312)</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	『系統看護学講座 薬理学』(医学書院) (参考書)『系統看護学講座 解剖生理学』『系統看護学講座 生化学』『系統看護学講座 栄養学』『系統看護学講座 微生物学』『系統看護学講座 病理学』『系統看護学講座 病態生理学』(医学書院)		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>予習：授業計画に記載された学習項目について、教科書の該当部分を読んで不明な点を明らかにしておく。(週90分)</p> <p>復習：授業担当者が各章の最後に提示する「ポイント」に対して、教科書や講義資料(スライド)を使って、サマリー(まとめ)を作成し、知識を整理する。(週90分)</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	医療概論		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1HSS2-01
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 現代社会における医療分野の課題について、その原因や背景を正しく理解するとともに、看護専門職者としての役割を認識し、どのように実践していくかを考察する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療を学び理解し、看護専門職者として自ら実践できる。 2. 健康について学び理解し、看護専門職者として自ら実践できる。 3. 我が国における医療の歴史を学び理解し、看護専門職者として説明できる。 4. 我が国における医療システムを学び理解し、看護専門職者として説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・技能◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 思考力・判断力・創造力○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している) 看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>看護学を学ぶ者にとって、「医療」そのものに対する知識を得て、医療における看護の位置する意義を理解することは必須事項である。さらに医療者の一員として、他職種の業務の理解はチーム医療を行う上で最重要項目といえよう。本科目では、わが国における医療についてチーム医療、保健医療制度、政策医療、健康福祉、歴史、生命倫理、最新医療と未来への展望等医療を幅広く学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>アクティブラーニングを活用し、質疑応答時等における参画度(20%)、授業内容の理解度(80%)から総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション、第1章「医療は誰のものか」(1) 第02回 第1章「医療は誰のものか」(2) 第03回 第2章「健康とは何だろう」(1) 第04回 第2章「健康とは何だろう」(2) 第05回 第3章「医療がたどってきた道と未来への展望」(1) 第06回 第3章「医療がたどってきた道と未来への展望」(2) 第07回 第4章「医療システムを理解しよう」(1) 第08回 第4章「医療システムを理解しよう」(2)と理解度の確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>学生のための医療概論 第4版 増補版(医学書院) 系統看護学講座 別巻 医療概論(医学書院)</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>使用教科書について、授業計画に示された内容から、各自で授業前にどのような課題があり、その原因や背景について事前に調べ、講義において質問や確認したいことを準備しておく(週90分)。また、講義後には配布された資料や、自ら記入して作成したワークシートに基づき、新たな気づきや問題解決に結びつくような発見等があれば、それらのことについてコメントを付しながらノート等にまとめる(週90分)。 講義は、教科書の各項目のポイントとなる事項について述べるにとどまることから、普段から新聞やテレビニュースなどを活用し、世界や日本における社会情勢や保健・医療・福祉に関する情報に関心を寄せておくこと。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	社会保障制度		
授業担当者名	石田 路子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2HSS2-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>社会保障とは、病気や貧困など個人のリスクを国が保障して、生活上の問題の発生を予防するとともに、問題が発生した場合でもそれを救済し、安定した生活をもたらすための手立てを講じる社会システムである。その守備範囲は、疾病、傷害のみならず、出産、老化による生活の質の低下、さらには失業した場合の保障まで含まれている。</p> <p>看護専門職は、確かな知識と豊かな感性を養い、看護の対象に合わせた看護実践ができる人材が求められているが、わが国の社会保障制度を正しく理解し、人権意識をもって社会のあらゆる局面の問題点を見出し、解決の方法を考える力を養うことは、看護実践に対して研究・探究心をもって取り組み、看護の発展に寄与できる人材を育成することにも深く結びついている。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>(「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」○)</p>		
授業の概要	<p>現代社会に生きている人たちは、社会や国家が様々な形の保障制度によって支援することで、安全で安寧な日常生活を確保することができる。人間の生涯を通して、社会保障制度がどのように関わり、どのように支援しているかを検討する。人の「誕生」、「成長」、「老化」、「死亡」の全ての過程において、「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「保健医療・公衆衛生」という我が国の社会保障制度の全貌を探り、とくに「医療保険」と「介護保険」についてはより詳しく学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への参加度(20%)、授業内容の理解度(80%)によって総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 社会保障とは(1)理念と機能 第02回 社会保険とは(2)歴史と現状 第03回 社会保険の内容 第04回 医療保険について 第05回 介護保険について 第06回 児童福祉について 第07回 障害者福祉について 第08回 生活保護ほか、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>パワーポイントデータを使用する。</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>社会保障の具体的な内容について、あらかじめ学習しておくことが望まれる。(週90分) 授業時に、問いかけた現代社会の諸問題について、社会保障の側面から解決していく方法を探る姿勢を身に着ける。(週90分)授業中にヒントが出ている部分について、自分なりの問題解決方法を見出すように努めてほしい。また、学習のヒントは、日常生活のあらゆる分野にまたがって豊富にあるので、新聞、雑誌、TVその他の情報について、アンテナを張り、学習の助けとする心構えを持つこと。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護学技術論3		
授業担当者名	白鳥 さつき、林 智子、平賀 元美、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	複数 (主担当: 白鳥さつき)	ナンバリングコード	241-2FUN2-06
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 診療治療の援助実践に必要な基礎看護技術を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う援助の理論と方法を学び、基本技術を習得できる。 2. 診療に伴う援助技術をうける対象の安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 安全安楽な筋肉内注射が実施できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「思考力・判断力・創造力」◎		
授業の概要	<p>診療に伴う援助の目的は、診療に伴う理論とその方法を修得することにある。身体の兆候、反応に基づき、①診察・検査（検査時の介助、検体の採取、静脈血採血）技術 ②薬物療法の意義と適用（内服薬、座薬、パップ、口内錠）③注射の援助（皮下、筋肉注射）④一時的導尿について学ぶ。診療に伴う技術は、臨床の場での実施する頻度が高く、正確な知識と正しい手技が求められる。本授業は他の看護学領域で学ぶ看護の基本となる。そのため、シミュレーター等を活用し、正確な技術を学ぶ機会とする。危険性や医療過誤が発生しやすい行為であることを強調し、安全で正確な看護技術の修得をはかる。</p>		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート（10%）、実技試験（20%）、理解度確認（70%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 講義 ガイダンス、検査の種類と介助時の看護（白鳥）</p> <p>第02回 講義 検査の種類と介助方法、検査の介助（X-P・CT・MRI・内視鏡・超音波・肺機能・穿刺）（白鳥）</p> <p>第03回 演習 グループワーク 各種検査方法と看護について 穿刺、血管造影、MRIなど（白鳥、本多、出原）</p> <p>第04回 演習 グループワーク 各種検査方法と看護について //</p> <p>第05回 演習 プレゼンテーション 学習成果の発表 デモンストレーションを含む</p> <p>第06回 演習 プレゼンテーション 学習成果の発表</p> <p>第07回 講義 無菌操作と滅菌物の取り扱い（本多）</p> <p>第08回 講義 各種消毒法（本多）</p> <p>第09回 演習 無菌操作、滅菌手袋の着脱法（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第10回 講義 排尿障害、一時的導尿（本多）</p> <p>第11回 演習 無菌操作、滅菌手袋着脱の振り返り（本多）</p> <p>第12回 演習 一時的導尿（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第13回 演習 一時的導尿 反復練習（本多、白鳥、平賀、林、出原）</p> <p>第14回 演習 一時的導尿 反復練習（本多、白鳥、平賀、林、出原）</p> <p>第15回 講義 薬物療法と看護 各種与薬方法 注射法（白鳥）</p> <p>第16回 講義 注射器の扱い、具体的注射の方法と事故防止方法、バイオハザード（本多）</p> <p>第17回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第18回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第19回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第20回 演習 注射器の準備、アンプル、バイアルからの薬液の吸い上げ方（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第21回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第22回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第23回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多）</p> <p>第24回 講義 静脈血採血（出原）</p> <p>第25回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多）</p> <p>第26回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多）</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>第27回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多） 第28回 演習 無金操作まとめと復習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第29回 演習 無金操作まとめと復習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第30回 演習 学習目標到達度の確認（白鳥、林、出原、本多） 授業全体の振り返り</p>
<p>使用教科書</p>	<p>①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ②写真でわかる臨床看護技術アドバンス①、②（インターメディカ）</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（毎週90分）。疑問があれば質問したいことや確認したいことをまとめて講義に参加する。講義終了後には講義のポイントや生じた疑問について自分で調べ、ノートにまとめる（毎週90分）。実技試験は決定次第通知する。 看護技術の実技については、看護学実習室で、根拠・手順・留意点をふまえ練習する（技術ごとに90分）。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護技術演習		
授業担当者名	出原 弥和、林 智子、平賀 元美、白鳥 さつき、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	複数(主担当:出原弥和)	ナンバリングコード	241-2FUN2-07
備考			
授業のテーマ及び到達目標	看護者として患者の健康課題を解決するために必要な問題解決思考の展開プロセスを理解し、事例をとおして活用する方法を身につける。また、事例を使用したシミュレーションを通して、安全・安楽で倫理的な看護を実践するための基本的な能力を養う。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」○		
授業の概要	看護の展開の目的は、対象の健康課題を解決するために、情報収集から看護問題の抽出、看護の実施・評価までの一連のプロセスを学ぶことにある。問題解決的思考を用いたクリティカルな思考は、対象となる人の健康上の問題を解決するための効果的な方略を導き出すのに有効であると共に、状況に応じて考えて判断することや学生に情意的な素地をも作る。日常生活での諸問題の対処から考え、臨床での典型事例へと進み、問題解決思考の技能方法を深める。さらに、看護展開を行った事例を使用したシミュレーション体験を通して、コミュニケーションとフィジカルアセスメント、対象に必要な基礎看護技術を活用した安全・安楽で倫理的な看護援助を実践できる能力を養う。		
学生に対する評価の方法	事前・事後学習への取り組み(20%)、グループワークへの参画態度(20%)、授業内容の理解度(60%)から総合的に評価する。 記述試験は、第14回の授業を終えた時期に行う。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス(授業内容と目的の説明) 看護過程とは(出原)</p> <p>第02回 看護過程を展開する際の基盤となる考え方(出原)</p> <p>第03回 看護場面での情報収集 事例①提示(講義・グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第04回 情報の分析的なアセスメント 事例展開(講義・グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第05、06回 事例展開 《アセスメント》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第07、08回 アセスメントについて発表、事例展開《アセスメント》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第09回 事例展開 《全体像の把握と描写》(出原)</p> <p>第10回 問題の明確化、計画立案《看護の目標と期待される結果、計画立案》(出原)</p> <p>第11、12回 事例展開 《計画立案》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第13、14回 看護目標・援助計画について発表、事例展開《計画立案》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第15回 後半授業のガイダンス、事例②提示(出原)</p> <p>第16、17回 事例展開 《アセスメント》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第18回 事例展開 《アセスメント》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第19回 事例展開 情報収集準備(演習)(出原・本多)</p> <p>第20、21回 事例展開 《アセスメント》(模擬患者演習)(出原・平賀・白鳥・林・本多)</p> <p>第22、23回 事例展開 《アセスメント、問題の明確化、計画立案》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第24、25回 事例展開 《計画立案》(グループワーク)(出原・本多)</p> <p>第26回 事例展開 援助の実施準備(演習)(出原・本多)</p> <p>第27、28回 事例展開 援助の実施(模擬患者演習)(出原・平賀・白鳥・林・本多)</p> <p>第29回 看護実施記録、評価(出原)</p> <p>第30回 授業全体の振り返り、事後課題(出原)</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>基礎看護技術 I (医学書院) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)</p>
<p>自己学習 (予習・復習 等の内容・時間)</p>	<p>看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) は、1年次に学習したテキストですので、ニードの捉え方について復習をして臨むこと。シラバスに基づいて、講義内容をテキストで自己学習し授業に臨むこと (毎週90分)。 事例展開のグループワークでは、授業時間内で話し合いがまとまるように事前及び事後の個人学習を進めておくこと (毎週90分)。基本的なコミュニケーション、フィジカルアセスメント、日常生活援助技術は原理・原則を復習して技術練習を行い、模擬患者に実施できるようにしておくこと。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	ヘルスアセスメント		
授業担当者名	白鳥 さつき、平賀 元美、林 智子、出原 弥和、本多 利枝、神谷 智子、金城 やす子、八田 早恵子、鯉淵 乙登女、三輪 桂子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス (白鳥さつき・八田早恵子・神谷智子)	ナンバリングコード	241-2FUN2-08
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 健康状態を身体的な視点から査定する知識と、問診、視診・聴診・触診・打診などの技術を用いた観察技術を身につける</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系 (胸部)、循環器系 (心臓)、乳房・腋窩、腹部、筋・骨格系、神経系、頭頸部・感覚器系のアセスメントをフィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診) により観察することができる。 2. 高齢者のヘルスアセスメントでは、高齢者に生じやすい事例を診査するロールプレイをとおして、現在の状態がその人にとって望ましい状態か、今後どのような変化が予測されるかを総合的に査定する方法を探求する。 3. 小児のヘルスアセスメントでは、成長発達段階や日常生活動作の獲得を加味した上でアセスメントできる力を培う。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎ 「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	<p>フィジカルアセスメントの目的は、人々の健康状態を身体的な視点から査定することである。身体の査定を行うための情報収集の方法＝フィジカルアセスメントとして、問診、視診・聴診・触診・打診などの技術を用いた観察方法を学ぶ。アセスメントを基に、系統別フィジカルアセスメント (呼吸器系、循環器系、乳房・腋窩、腹部、筋・骨格系、神経系、頭頸部と感覚器) の実際を学ぶ。</p> <p>フィジカルアセスメントの技法を基盤とし、看護の対象の健康状態をアセスメントする方法を、より広範囲に実践的に学ぶ。特に症状をもつ小児および高齢者患者へのアセスメント方法について理解し、実践できるようになる。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>基礎領域第1回から11回まで：テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート (30%)、理解度確認 (70%)</p> <p>演習への取り組み姿勢・事例のヘルスアセスメント記録から評価する。(老年)</p> <p>講義への参画、事例の課題内容から評価する。(小児)</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 一般状態、皮膚、爪、頭皮 講義 (白鳥)</p> <p>第02回 一般状態 皮膚、爪、頭皮のアセスメントの演習 (白鳥、平賀、林、出原、本多)</p> <p>第03回 呼吸器系のアセスメント 講義 (白鳥)</p> <p>第04回 呼吸器のアセスメント演習 (1クラス、2クラス2回に分ける) (白鳥、平賀、林、出原、本多)</p> <p>第05回 循環器のアセスメント 講義 (白鳥)</p> <p>第06回 筋骨格系のアセスメント/感覚器のアセスメント 講義 (本多)</p> <p>第07回 循環器のアセスメント演習 (1クラス、2クラス2回に分ける) (白鳥、平賀、林、出原、本多)</p> <p>第08回 腹部・リンパ・乳房のアセスメント/神経系のアセスメント 講義 (本多、白鳥)</p> <p>第09回 筋・骨格 乳房・腹部のアセスメント 演習 (1クラス、2クラス2回に分ける) (白鳥、平賀、林、出原、本多)</p> <p>第10回 問診、意識、呼吸、血圧、脈拍、体温、Spo2の測定とアセスメント 講義 (林)</p> <p>第11回 問診、意識、呼吸、血圧、脈拍、体温、Spo2の測定とアセスメント 演習 (白鳥、平賀、林、出原、本多)</p> <p>第12回 学習目標到達度の確認、まとめ (白鳥、林、本多)</p> <p>第13回 高齢者のヘルスアセスメント 講義 (神谷)</p> <p>第14回 事例に沿った診査技術の活用：誤嚥性肺炎 演習 (神谷)</p> <p>第15回 小児のヘルスアセスメントの方法 講義 (八田)</p> <p>第16回 事例 小児のヘルスアセスメント 課題あり 講義小児のヘルスアセスメント方法 まとめ、授業全体の振り返り (八田)</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>①系統看護学講座 基礎看護技術 I、医学書院 ②写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する（毎週90分）。フィジカルアセスメントは自他の身体を使って学習するため形態機能学の復習をしておくこと（毎週60分）。シミュレーター等を活用し反復練習をすること。講義の資料だけでなくビデオやDVD教材を活用して復習し、技術を習得すること（技術ごとに90分）。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	人間関係論		
授業担当者名	水野 友美		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2FUN2-09
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>良好な人間関係を構築するために必要となる知識と実際のコミュニケーション技術の習得を図る。</p> <p>【授業科目の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己洞察を行い、コミュニケーションにおける自己課題が理解できている。 2. 他者を理解するために必要な知識や視点を理解できている。 3. 実際のコミュニケーションに必要な技術の習得ができている。 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	医療に携わる人間にとって、良好な人間関係を構築するための知識と技術は必須と言える。そのため、本講義では、人間関係に関する様々な知見について心理学とその周辺領域から学ぶ。また、グループワークを中心に、体験的な学修を積極的に行い、他者理解を図ると共に実際のコミュニケーション技術の習得を目指す。		
学生に対する評価の方法	小テスト2回(30%)、体験レポート1回(40%)、ロールプレイ課題(30%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション：人間関係とは ※グループワーク</p> <p>第02回 アートセラピー ※グループワーク</p> <p>第03回 質問紙・描画検査を用いた自己分析 ※体験レポートの取り組み</p> <p>第04回 アサーティブ・トレーニング ※グループワーク</p> <p>第05回 認知・行動心理学と服薬アドヒアランス ※小テスト①</p> <p>第06回 メンタルヘルス ※小テスト②</p> <p>第07回 カウンセリングスキル手法 ※ロールプレイ、ロールプレイ課題の取り組み</p> <p>第08回 スティグマの心理学(ハンセン病を中心に) ※グループディスカッション</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	特定の教科書は使用しない。毎回、スライド資料はタブレット上で視聴可能とするため、タブレットの持ち込みを可とする。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	シラバスに示されているテーマ、もしくはキーワードについて事前に検討する(週30分)。毎授業後に、授業内容の振り返りをし、レポート課題としてまとめる(週60分)。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	基礎看護学実習2		
授業担当者名	平賀 元美、林 智子、白鳥 さつき、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次後期 (集中)
教員担当形態	複数 (主担当: 平賀 元美)	ナンバリングコード	241-2FUN2-10
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 対象の基本的欲求の実際をとらえ、対象にあった生活の援助を実践できる。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の基本的欲求が理解できる。 2. 対象の日常生活援助の必要性が理解でき、日常生活が実施できる。 3. 実施した援助の評価ができる。 4. 看護援助の記録・報告の重要性が理解できる。 5. 看護者としての基本的態度を身につけることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP1. 知識・技能○</p> <p>DP2. 思考力・判断力・創造力◎</p>		
授業の概要	<p>入院患者を受け持ち、対象の基本的欲求に基づく生活援助を、問題解決思考に基づき実施できる能力を養うことを目的とする。対象の基本的欲求の把握 (情報収集の手段を用い枠組みに沿う)、情報の整理と欲求充足の査定、問題解決の優先度の決定、生活援助の内容と方法の決定、援助の実施、実施の評価及び修正といった一連のプロセスを看護過程を展開して援助をすることで学ぶ。また、プロセスを記録し、他者に報告する看護の基本的役割も学ぶ。援助を通し、ニーズ充足のための看護方法を考え、安全で安楽な看護技術について考察する。対象との人間関係の成立についても考える。これらにより今後の学習への課題を見出す。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>事前学習 (15%)、実習後のまとめ (25%)、実習での目標達成状況 (75%) を踏まえ、実習における学習姿勢や態度など総合的に判断して評価する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>〔実習の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 週目: 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の選定と情報収集および看護の方向性の決定、病棟カンファレンス (中間) 2 週目: 受け持ち患者の看護実践および評価 病棟カンファレンス (最終) <p>〔事前学習計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目的・目標、実習内容、展開、方法を理解し、施設や病棟の特徴を事前学習する 2. 基本的な援助の内容や方法、治療及び検査データなどを事前学習する 3. バイタルサイン測定や日常生活援助技術を自己学習する。 4. グループで日常生活援助やカンファレンスなど実施する課題を提示する。 <p>〔実習中の学習計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院、病棟の概要についてオリエンテーションを受けて患者の療養環境を理解する 2. 安全 (情報管理含む) や災害時に関する注意点についての説明を受け、実際に行動できるようにする。 3. 患者が入院生活をどのように過ごしているのか、患者の許可のもと一緒に行動することで患者の基本的ニーズを把握する。 4. 患者の基本的ニーズをから未充足のニーズを抽出し、援助の必要性を考える。 5. 対象に合わせた基本的ニーズの充足に必要な援助計画を立案し、実施する。 6. 対象に実施した看護援助を振り返り援助の評価をする。 7. 日々のリフレクションにおいて、学生が課題を明確にできるようにする。 8. カンファレンスでは、学生の学びを共有するとともに、新たな気づきを促す。 <p>〔事後の学習計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象にあった日常生活援助の必要性について、グループ討議し、個別にレポートにまとめる。 2. 今後の実習に向けて自己の課題を見出す。 授業全体の振り返り 		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>実習要項、実習記録、授業のテキストおよび参考資料、タブレット端末</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>感染予防行動を身につけ、実習前から体調を整えて臨む。 事前オリエンテーションに基づいて自己学習を行い、準備を整えて実習に臨む。 既習の内容を振り返り、看護者としての自覚を持って主体的に学習して実習に臨む。 実習中も睡眠、食事などの体調管理を行い、欠席、遅刻、早退がないように実習に臨むことを心がける。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	地域看護学概論																																															
授業担当者名	西出 りつ子、工藤 紀子																																															
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期																																													
教員担当形態	オムニバス（主担当：西出 りつ子）	ナンバリングコード	241-1CCN1-01																																													
備考	実務経験のある教員担当科目																																															
授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 地域に暮らす人々の健康レベルの維持・向上に向けた組織的な健康支援活動とそれに関わる看護職の役割について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の理念と目的について説明できる。 2. 地域看護4分野それぞれの活動の場と対象の特徴について説明できる。 3. 公衆衛生看護の方法について説明できる。 4. 地域の生活者である対象を支える看護職の役割について説明できる。 																																															
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能 ◎ DP2 思考力・判断力・創造力 ○																																															
授業の概要	地域に暮らす個人と家族、集団、組織、そして地域、これら全てを対象にライフステージと健康レベルに応じて展開される健康支援活動（健康増進や健康課題の発生予防と回復に向けた組織的活動）と、生活や健康への影響要因を考えて生活者である対象と環境の両方に働きかける地域看護の4分野（公衆衛生看護、在宅看護、産業看護、学校看護）の特徴、特に公衆衛生看護の基礎的な知識について学修する。																																															
学生に対する評価の方法	理解度確認（80%）および小テスト・課題（20%）により、総合的に評価する。理解度確認については、別日に設定する。																																															
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>公衆衛生と地域看護学</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>戦後の地域看護活動と看護職</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>日本の保健医療福祉、プライマリヘルスケア</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>ヘルスプロモーション、日本の健康増進対策</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>小テスト、地域看護の特性と対象、地域看護活動の方法</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>対象別保健活動（1）：母子保健</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>疾病対策（1）：障害者対策</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>疾病対策（2）：精神保健</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>疾病対策（3）：感染症対策</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>疾病対策（4）：歯科口腔保健</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>対象別保健活動（3）：学校保健</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>対象別保健活動（4）：産業保健</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>海外における地域保健、多文化共生と地域看護</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>地域包括ケアシステム、地域における連携</td> <td>西出</td> </tr> </table> <p>授業全体の振り返り</p>			第01回	公衆衛生と地域看護学	西出	第02回	戦後の地域看護活動と看護職	西出	第03回	日本の保健医療福祉、プライマリヘルスケア	西出	第04回	ヘルスプロモーション、日本の健康増進対策	西出	第05回	小テスト、地域看護の特性と対象、地域看護活動の方法	西出	第06回	対象別保健活動（1）：母子保健	西出	第07回	疾病対策（1）：障害者対策	西出	第08回	疾病対策（2）：精神保健	西出	第09回	対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健	工藤	第10回	疾病対策（3）：感染症対策	西出	第11回	疾病対策（4）：歯科口腔保健	西出	第12回	対象別保健活動（3）：学校保健	西出	第13回	対象別保健活動（4）：産業保健	工藤	第14回	海外における地域保健、多文化共生と地域看護	西出	第15回	地域包括ケアシステム、地域における連携	西出
第01回	公衆衛生と地域看護学	西出																																														
第02回	戦後の地域看護活動と看護職	西出																																														
第03回	日本の保健医療福祉、プライマリヘルスケア	西出																																														
第04回	ヘルスプロモーション、日本の健康増進対策	西出																																														
第05回	小テスト、地域看護の特性と対象、地域看護活動の方法	西出																																														
第06回	対象別保健活動（1）：母子保健	西出																																														
第07回	疾病対策（1）：障害者対策	西出																																														
第08回	疾病対策（2）：精神保健	西出																																														
第09回	対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健	工藤																																														
第10回	疾病対策（3）：感染症対策	西出																																														
第11回	疾病対策（4）：歯科口腔保健	西出																																														
第12回	対象別保健活動（3）：学校保健	西出																																														
第13回	対象別保健活動（4）：産業保健	工藤																																														
第14回	海外における地域保健、多文化共生と地域看護	西出																																														
第15回	地域包括ケアシステム、地域における連携	西出																																														
使用教科書	木下由美子編集代表：エッセンシャル地域看護学第2版、第2版第13刷、医歯薬出版株式会社、2022.																																															
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>1回の講義（90分）に対して、事前学習90分、事後学習90分を基本とする。事前学習として、授業計画の内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省やWHOのホームページなど、確かな情報を利用して進め、講義に臨む。Moodleに事前学習を提示する場合もある。事後学習として、講義の最後に提示する事後課題と講義の内容・資料を参考に学習内容を深める。</p> <p>なお、普段から看護学生として、社会の動きに敏感になり、それらに伴う人々の生活や健康への影響について考える習慣をもつよう努める。</p>																																															

授業概要(シラバス)

授業科目名	在宅看護学概論		
授業担当者名	西出 りつ子、工藤 紀子、世俵 智恵子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	オムニバス(主担当:西出 りつ子)	ナンバリングコード	241-1CCN1-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 地域に暮らす療養者とその家族が自らの健康を保ちつつ、自分らしい生活の継続を目指すことを支える在宅看護の目的と役割を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が求められる社会的背景を説明できる。 2. 地域において療養する人たちとその家族の特徴を説明できる。 3. 在宅看護を取り巻くケアシステムと目指すべき社会のあり方について説明できる。 4. 病院と在宅療養の場を結ぶ移行期における看護の重要性を説明できる。 5. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を述べるができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・機能 ◎ DP2 思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	地域に暮らす療養者とその家族の健康を支援するための在宅看護の歴史的背景、訪問看護や介護保険などの関連する施策・制度を踏まえ、社会の現状に影響される在宅療養者の生活の実態とそれを支える地域包括ケアシステムの目指す姿、在宅看護の役割とあり方について学修する。		
学生に対する評価の方法	理解度確認(80%)および小テスト・課題(20%)により、総合的に評価する。理解度確認については、別日に設定する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 在宅看護とは、在宅看護の歴史</p> <p>第02回 在宅看護の特徴と基本理念</p> <p>第03回 地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」</p> <p>第04回 在宅看護の対象(1):在宅療養者の理解と支援</p> <p>第05回 在宅看護の対象(2):在宅療養者の家族の理解と支援</p> <p>第06回 在宅看護に関わる法令・制度</p> <p>第07回 介護保険制度のしくみ</p> <p>第08回 ケアマネジメントと社会資源の活用</p> <p>第09回 ケアマネジメントの実際</p> <p>第10回 在宅看護における権利保障</p> <p>第11回 在宅療養者支援:入退院時の連携と退院支援, 継続看護, 外来看護</p> <p>第12回 在宅療養者支援:施設における看護, 通所サービスの看護</p> <p>第13回 在宅療養者支援:訪問看護ステーション(1)</p> <p>第14回 在宅療養者支援:訪問看護ステーション(2)</p> <p>第15回 在宅療養者支援:訪問看護ステーション(3)</p> <p>授業全体の振り返り</p>	<p>西出</p> <p>西出</p> <p>西出</p> <p>西出</p> <p>西出</p> <p>西出</p> <p>西出</p> <p>工藤</p> <p>工藤</p> <p>工藤</p> <p>西出</p> <p>世俵</p> <p>世俵</p> <p>工藤</p> <p>工藤</p> <p>西出</p>	
使用教科書	<p>河原加代子著者代表:系統看護学講座 地域在宅看護論(1)地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2022.</p> <p>河原加代子著者代表:系統看護学講座 地域在宅看護論(2)地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2022.</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>1回の講義(90分)に対して、事前学習90分、事後学習90分を基本とする。事前学習として、授業計画の内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省やWHOのホームページなど、確かな情報を利用して進め、履修した「健康生活支援論」と「地域の暮らしを理解する実習」の学びを復習して講義に臨む。事後学習として、講義の最後に提示する事後課題と講義の内容・資料を参考に学習内容を深める。</p> <p>なお、普段から看護学生として、社会の動きに敏感になり、それらに伴う在宅療養者と家族の生活や健康への影響について考える習慣をもつよう努める。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	保健行動論		
授業担当者名	穴井 美恵、宮本 恵子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス(主担当:穴井美恵)	ナンバリングコード	241-1AGN1-03
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 わが国では人々の健康の保持・増進、QOLの向上を目指し、様々な健康づくり施策が行われている。成人・老年期のあらゆる健康レベルにある人々のwell-beingを目指した看護援助の考え方について学修し、知識を習得することを目指す。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の健康状態と健康を脅かす要因について説明できる。 2. 主な成人保健事業について説明できる。 3. 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチの方法について説明できる。 4. ヘルスプロモーションの観点から成人の健康づくりについて自己の考えを述べることができる。 5. 高齢者にとっての健康維持・増進の意義を説明できる。 6. 高齢者の生活機能の評価指標が説明できる。 7. 高齢者の健康づくりに関する制度・法律について説明できる。 8. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性を説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>対象の健康レベルおよび療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。</p> <p>(「知識・技能:◎」「意欲・態度:○」)</p>		
授業の概要	<p>保健行動論を学ぶ目的は成人・老年期の人々の健康を育む支援のあり方を学ぶことにある。</p> <p>成人の健康は加齢、家庭・職業・地域における役割、環境要因に深く関連しており、健康行動に必ずしもつながらないという特徴がある。よりよい老年期を迎えることができるよう、成人期にある人の健康の保持・増進・疾病予防に向けた支援の方法について考える。また、老年期を生き生きと生きるための健康行動を支え、社会活動・社会参加の有用性について、ヘルスケアシステムの活用と看護実践について学ぶ。特に高齢者のヘルスプロモーションの必要性や高齢者の特徴を踏まえた生活習慣病予防の必要性と介護予防について学ぶ。さらに、高齢者の生活機能の評価する指標および高齢者の健康づくりに関する制度・法律について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>成人・老年:①授業への参画態度(10%)、②レポート課題(20%)、③理解度確認(70%)から総合的に評価する。</p> <p>成人・老年の評価を総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 成人の健康観と健康行動の特徴</p> <p>第02回 成人保健の動向からみた成人各期の健康状態と健康を脅かす要因</p> <p>第03回 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチ</p> <p>第04回 成人期・老年期にある人々の健康課題と保健医療福祉施策</p> <p>第05回 老年期の健康行動、高齢者の社会活動・社会生活</p> <p>第06回 高齢者の生活機能の評価指標</p> <p>第07回 高齢者のヘルスケアシステムとヘルスプロモーション</p> <p>第08回 理解度確認とまとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論、医学書院</p> <p>②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください(毎回60分)。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください(毎回60分)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	急性期看護		
授業担当者名	伊藤 美智子、八田 早恵子、佐藤 由佳		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	複数 (主担当: 伊藤美智子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-04
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 急激な侵襲を受け健康破綻をきたした対象とその家族を理解し、援助を実践するために必要な基礎知識とアセスメント能力を身に着けることができる</p> <p>〔授業科目の到達目標〕 1. 周手術期にある患者・家族の身体的・社会的・心理的特徴を捉える方法を述べるができる 2. 手術侵襲とその生体反応の特徴、生命維持・早期回復を促進する看護について説明できる 3. 周手術期における身体面への看護を説明できる 4. 周手術期における患者・家族の心理・社会面への看護を説明できる 5. クリティカルケアにおける患者・家族の特徴を説明できる 6. クリティカルケアにおける看護の特徴と役割を説明できる</p>		
ディプロマポリシーとの関連	急性期看護の講義を通して、急性期にある患者とその家族への看護に必要な知識や技術、アセスメント能力を修得することができる。(「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○)		
授業の概要	急性期看護の目的は、急激な健康状態の変化や、手術侵襲による人間の反応(生体反応を含む)を踏まえ看護を実践するための基礎的な臨床判断能力を習得することにある。急性期にある人の生命維持、全身状態の改善、合併症・二次的障害予防を視野に入れ、QOL向上のための看護とチーム医療について学ぶ。さらに急性期にある人の家族の心理的特徴を理解し、ケア提供の場の調整や個別的な対応と、周手術期、クリティカルケアにある人の理解と順調な回復を促すための看護を学ぶ。看護過程ではゴードンの看護過程を学び、それをういた周術期のアセスメントを展開する。		
学生に対する評価の方法	学習状況：演習及びレポート(20%)、理解度の確認(80%)から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 周手術期・クリティカルケア概論(講義)</p> <p>第02回 クリティカルケア看護の対象と看護の展開(講義)</p> <p>第03～08回 術前・術中・術後の看護(講義)</p> <p>第09・10回 急性期看護各論：運動器・女性器(講義)</p> <p>第11・12回 急性期看護各論：消化器(講義)</p> <p>第13・14回 急性期看護各論：循環器・脳神経(講義)</p> <p>第15～24回 ゴードンの看護過程を用いた周術期の看護展開(講義)</p> <p>第25回～27回 周術期の看護展開(演習)</p> <p>第28～30回 小児における急性期看護(講義・演習)</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 医学書院</p> <p>②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 臨床外科総論、臨床外科各論 医学書院</p> <p>③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 救急看護学 医学書院</p> <p>④系統看護学講座 専門分野Ⅱ クリティカル看護学 医学書院</p> <p>⑤臨床看護技術2 インターメディカ</p> <p>⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>事前学修(各講義に対して60分程度)：各講義に該当する教科書の内容を熟読し、理解できていない点を明確にした上で受講してください。レポートを課すことがあります。</p> <p>事後学修(各講義に対して60分程度)：各講義で学習した内容を整理し、理解ができているか復習をしてください。レポート課題を課す場合があります。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	小児看護学概論		
授業担当者名	金城 やす子、八田 早恵子、鯉淵 乙登女		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 金城 やす子)	ナンバリングコード	241-1CHN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 子どもが社会の中でどのように存在するのか、子どもの人権擁護がどのようになされているのかを考える。その上で子どもの特徴を捉え、小児期における看護の目的と役割が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとは何か、社会における子どもの存在について理解することができる。 2. 子どもに関連する政策や保健・福祉制度について理解する。 3. 子どもの人権、権利擁護、倫理的配慮について説明することができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1:知識・技能 ◎ DP2:思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	小児看護学概論の目的は、小児看護学全般について小児看護の概念と理論 (成長、発達、家族、母子関係) を学ぶことにある。小児看護の対象である子どもの理解をうながすために、子どもとは何か、子どもの存在について考える。子どもが社会の中でどのように存在してきたのか、医療や看護、社会情勢との関連において子ども観の変遷を学ぶ。そのうえで、子どもの人権と看護について学ぶ。さらに、子どもを取り巻く社会や経済状況、保健・福祉制度について理解することで、子どもの倫理面に関する理解を深める。		
学生に対する評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①講義への参画度 (ポートフォリオ含む) 20% ②授業内容理解度チェック 70% ③ミニレポート (授業課題) 10% ①～③を総合的に判断し、100点満点として評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	第01回 小児看護の特徴、小児看護の変遷 (金城) 第02回 小児看護と倫理: 子どもの権利と人権、児童憲章、児童の権利条約 小児看護に関連した諸統計 (金城) 第03回 子どもを取り巻く社会: 児童福祉、母子保健 (金城) 第04回 子どもを取り巻く社会: 母子保健、予防接種、学校保健 (金城) 第05回 障害のある子どもと家族の看護: 障害のある子どもと家族への具体的支援 発達障害、災害看護、虐待と看護 (八田) 第06回 さまざまな状況にある子どもの看護: 急性期看護 (金城) 第07回 子どもの事故・外傷 (金城) 第08回 子どもを看護するとは/まとめ (理解度確認) (金城・八田・鯉淵) 授業全体の振り返り		
使用教科書	医学書院 『系統看護学講座 小児看護学①』 参考資料等は講義時に配布、説明します。		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> ①次回講義範囲を示すので、テキスト、資料を読んで、不明な点は自己学習 (事前学習) し、ポートフォリオにファイルすること。テキストは小児看護学①を使用する ②講義終了後、講義内容を確認し、不明な点は各自で調べること <p>* 事前学習には60分～90分使用、事後学習は40～60分使用 学修した内容はポートフォリオに綴じてください。提出していただく場合があります。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	生涯発達論		
授業担当者名	八田 早恵子、金城 やす子、鯉淵 乙登女、穴井 美恵、伊藤 美智子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 八田早恵子)	ナンバリングコード	241-2CHN2-02
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] 人間の一生涯を発達のプロセスととらえ、生を受けてから生涯を終えるまでの間の身体・心理・社会的発達について理解する。</p> <p>[授業科目の到達目標] 1. 人間が身体・心理・社会的側面の統合体であり、一生涯発達し続ける存在であることを理解する。 2. 人間の誕生から終期に至るまでの各発達段階の特徴と課題を理解する。 3. 発達に関する諸理論を学び、各発達段階における健康上の課題がある対象者の看護を考える。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP1: 知識・技能 ◎ DP2: 思考力・判断力・創造力 ○</p>		
授業の概要	<p>人間の一生涯という全行程を発達のプロセスとしてとらえ、生を受けてから生涯を終えるまでの間の身体・心理・社会的発達について理解する。また看護の対象者の発達の側面を重視して関わるための方法を理解する。 具体的には、発達の定義、人生周期と身体・心理・社会的発達、また発達に関する諸理論を学び、各発達段階の特徴、現代における人間の発達課題と危機などについて学習する。さらに、誕生からさまざまな身体的・機能的発達を理解し、看護実践に活用する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>① 講義への参画度 10% ② 授業内容の理解度 80% ③ 課題 (成長発達ノート等) 10% ①～③を総合的に判断する。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 講義オリエンテーション、「生涯発達論」とは 発達理論についての概要 (金城) 第02回 子どもが発達するという事 (八田) 第03回 胎児期、新生児期の特徴と看護 (八田) 第04回 乳児期の特徴 (金城) 第05回 乳児期の看護 (金城) 第06回 幼児期の特徴 (鯉淵) 第07回 幼児期の看護 (鯉淵) 第08回 学童期の特徴と看護 (鯉淵) 第09回 思春期の特徴と看護 (八田) 第10回 青年期の特徴と看護 (八田) 第11回 成長・発達の評価 (八田) 第12回 成人期の特徴 (伊藤) 第13回 成人期の看護 (伊藤) 第14回 老年期の特徴 (穴井) 第15回 老年期の看護 (穴井) 第16回 理解度確認と解説 授業全体の振り返り (学生受講結果アンケートの実施) (全員) * 成長発達ノート提出</p>		
使用教科書	<p>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>・毎回講義範囲を提示するので、必ず自己学習を行うこと。 ・新生児期～青年期までの特徴と看護をまとめた成長発達ノートを作成する。3年次の小児看護学実習で使用するため、使いやすい工夫をすること。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	障害と看護		
授業担当者名	金城 やす子、八田 早恵子、土井 智子、石田 路子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 金城 やす子)	ナンバリングコード	241-1CHN2-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 障害とは何か、障害の種類や程度によって、その障害を持つ子ども、大人の健康状態や日常生活、家族や世話をする人の生活や身体・精神的健康状態には大きな違いがあることを理解する。 〔授業科目の到達目標〕 1. 障害とは何か、障害の種類や程度を知る。 2. 障害を持って生活していくことのニーズと看護の方法、障害者支援について考えることができる。 3. 障害児・者また家族や世話をする人の身体・精神的健康状態について考えることができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP2 思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	障害とは何か、また障害の種類や程度を知り、障害を持って生活していくことにどんなニーズがあるのか、具体的な看護の方法について学ぶ。先天的な障害児・者、また中途障害児・者について概要を知り、家族や世話をする人の生活や身体・精神的健康状態について考え、学びを深める。障害者支援と障害者福祉について考える。		
学生に対する評価の方法	① 講義への参画度 10% ② 課題およびミニレポート (毎回講義時記載) 40% ③ 授業内容の理解度およびレポート 50% ①～③を総合的に判断する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	第01回 ガイダンス 障害とは 障害の概念 (金城) 第02回 障害と障害受容 (金城) 第03回 障害児 (者) 支援と福祉 障害児 (者) が社会で生きるということ (石田) 第04回 障害を持つ人の事例展開 重症心身障害児・医療的ケア児の看護 GW (八田) 第05回 障害を持つ人の事例展開 中途障害者の看護 GW (土井) 第06回 障害を持つ人の事例展開 障害を持つ人の生活 災害対策 GW (土井) 第07回 障害を持つ人の事例展開 発達障害児の看護 GW 授業の振り返り (八田) 第08回 当事者の語り 「障害のありか 何をしようか」 (外部講師・八田) 授業全体の振り返り		
使用教科書	参考資料等は講義時に配布、説明します。		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後講義資料を確認し、不明な点は各自で調べておくこと。 ・ 障害についての新聞記事やメディアのニュースに興味を持って情報収集をしましょう。 ・ 障害児 (者) の社会参加について、さらに社会参加を促すためには何が必要か、看護の視点で考えましょう。 		

授業概要(シラバス)

授業科目名	母性看護学概論		
授業担当者名	清水 嘉子、鈴木 孝、小幡 さつき		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次前期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 清水 嘉子)	ナンバリングコード	241-1MAN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の特徴について学び、母性機能を有した女性を理解し、健康のあり方と健康問題について理解を深めると共に、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知ることができる。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念や理論について説明できる。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷について学ぶことができる。 3. ヒトの性分化、形態、機能の変化を知ることができる。 4. 女性のライフステージ各期の健康問題および看護について説明できる。 5. 母子保健の統計指標について説明でき、母子保健の動向を把握できる。 6. 母性看護における倫理的課題・諸問題について考察できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の概念や理論を理解し、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。また、人間の性と生殖の側面から看護の目的、機能、役割について理解する。さらに、女性のライフサイクルの特徴をふまえ、女性のライフステージ各期における健康および看護について学び、生殖補助医療や出生前診断、産科医療の現状と課題など母性看護における倫理的課題・諸問題について学びを深める。		
学生に対する評価の方法	レポート (100%)		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 母性に対する考え方と母性看護の基盤となる概念や理論 ・・・・・・・・・・清水</p> <p>第02回 母性看護の基盤となる概念/母性看護学・助産学の違い/産科医療の現状 ・・・・・・・・・・清水</p> <p>第03回 子育て・児童虐待防止 ・・・・・・・・・・清水</p> <p>第04回 母子保健統計からみた動向/母性看護に関する法律・制度・施策/世界の母子保健 ・・・・・・・・・・清水</p> <p>第05回 思春期・成熟期の健康問題と看護 ・・・・・・・・・・小幡</p> <p>第06回 更年期・老年期の健康問題と看護 ・・・・・・・・・・鈴木</p> <p>第07回 不妊症の看護 ・・・・・・・・・・清水</p> <p>第08回 母性看護における倫理的課題 授業全体の振り返り ・・・・・・・・・・清水</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 国民衛生の動向 参考図書： 母子保健の主なる統計 財団法人母子衛生研究会 新体系看護学全書 母性看護学1 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護, メヂカル フレンド社, 第6版, 2019. 母性の心理社会的側面と看護ケア, 医学書院, 1990. 病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA, 第4版, 2018.</p>
<p>自己学習 (予習・復習 等の内容・時間)</p>	<p>母性看護学を学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること(90分)。 母性看護に関連する法律や制度、母子保健統計のデータなどは社会の変化に連動して変化することが多くある。また、産科医療にかかわるトピックなど授業以外の場でも鋭敏になり学んでほしい。特に、生命倫理、女性の健康への理解を深めるための性と生殖、健康をより促進する看護の考え方、女性を取り巻く社会状況など考察する姿勢が大切になる。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	母性看護方法論1		
授業担当者名	清水 嘉子、小幡 さつき		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	複数 (主担当: 清水 嘉子)	ナンバリングコード	241-2MAN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 周産期(妊娠・分娩・産褥)にある女性の身体的・心理社会的な変化について理解し、より正常に経過し、セルフケア能力を高めるウェルネスの看護について理解を深めると共に、新しい家族を迎える女性とその家族に対する援助について学ぶ。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な経過をたどる妊産褥婦と新生児, その家族の特性について説明できる。 2. 正常な経過をたどる妊産褥婦と新生児, その家族の健康状態のアセスメントができ必要な看護について説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	正常な経過をたどるマタニティサイクルにおける女性と新生児、その家族への看護実践のうえで必要とされる知識と技術を学習し、妊娠期・分娩期・産褥期における基本的な看護援助について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度(90%) 課題レポート(10%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01～05回 妊娠期の看護 周産期の看護について、妊娠の成立、妊娠経過の情報とアセスメント、妊婦健診と保健指導(課題) 授業内容の理解度(妊娠期)清水</p> <p>第06～09回 分娩期の看護 出産準備教育、分娩の3要素と分娩経過の情報とアセスメント、分娩期の看護 授業内容の理解度(分娩期)清水</p> <p>第10～13回 産褥期の看護 産褥の経過と看護 母乳育児支援 退院に向けた支援 授業内容の理解度(産褥期)清水</p> <p>第14～16回 新生児期の看護 新生児の特徴、胎外生活への適応過程、全身状態の観察 新生児期の看護過程のポイント 授業内容の理解度(新生児期) 授業全体の振り返り小幡</p>		
使用教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 第14版 2021.</p> <p>病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA, 第4版, 2018.</p> <p>参考図書:</p> <p>母性看護学1. 妊娠・分娩, 医歯薬出版, 第2版, 2006.</p> <p>母性看護学2. 産褥・新生児, 医歯薬出版, 第2版, 2006.</p> <p>新生児学入門, 医学書院, 第5版, 2018.</p> <p>母乳育児支援スタンダード, 第2版, 医学書院, 2015.</p> <p>WHOの59カ条 お産のケア実践ガイド 戸田律子訳, 農文協, 1997.</p>		

授業概要(シラバス)

<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>授業前に各講義内容のキーワードについて調べ、質問や確認事項をまとめ受講する（90分）。授業後は講義のポイントや新たな関心事について自ら調べたことをノートにまとめ、看護学実習や国家試験対策などに反映させる（90分）。 キーワード：妊娠、胎児、妊婦健康診査、マイナートラブル、親になる過程、分娩、分娩の3要素、産痛、分娩の機序、産褥、子宮復古、愛着、母親役割、マタニティブルーズ、新生児、生理的体重減少、生理的黄疸 マタニティサイクルにおける正常な経過をたどる女性と新生児の看護の特徴は、ウェルネス志向、母児一体でみること、妊娠・分娩・産褥を一連の流れで捉えることである。正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥期の看護を学び、母子の看護を実践するための知識に基づいた特有の看護技術を習得するためにモデルを活用した自己学習に努めてほしい。親になる過程および家族適応を促す援助について学びを深めるために、日頃より対象への関心や対象を取り巻く社会の問題に関心を深めることが大切になる。</p>
---------------------------	--

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護学概論		
授業担当者名	永井 邦芳		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1PMN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 精神看護学とは何であるのか、何をすることが精神看護なのかということに対する解答を得るための基盤となる知識、考えを修得する</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>①精神の健康とは何かについて説明できる ②精神看護に関連のある理論や概念について説明できる ③生物的、心理的、社会的側面から精神（こころ）を説明できる ④こころの成長発達について説明できる</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	精神看護学概論では、精神看護学とは何であるのか、何をするものなのかという問いに対して、その中心概念となる「こころ」について生物的、心理的、社会的側面から理解できるように学修を進める。その中で脳の構造や機能と精神活動、ライフサイクルと心理発達、社会とメンタルヘルス、精神保健福祉の歴史的背景などについて理解を深め「心の健康」また「精神障害」とは何かと言う問いに対する答えを見出してながら、精神医療保健福祉における看護師の果たすべき役割と機能について理解することにある		
学生に対する評価の方法	ミニットペーパー（20%）、理解確認(80%)		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 精神の健康と精神障害 【講義】</p> <p>第02回 精神（こころ）のとらえ方（人間のこころの諸活動について） 【講義】</p> <p>第03回 こころの仕組みと人格の発達1（フロイトの精神力動論から考えるこころ） 【講義】</p> <p>第04回 こころの仕組みと人格の発達2（クライン対象関係論 ボウルビー愛着理論から考えるこころ） 【講義】</p> <p>第05回 脳機能と精神活動（情動、認知、記憶） 【講義】</p> <p>第06回 心の危機とストレス（危機理論、ストレス反応、ストレスコーピングについて） 【講義】</p> <p>第07回 生活の場と精神（こころ）の健康 【講義】</p> <p>第08回 理解度確認、精神医療保健福祉の歴史 【講義】 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	精神看護の基礎：医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修として教科書で予習（45分）をしておいてください。また復習（45分）をしっかりとすることで講義での内容が知識として定着しますので、講義の振り返り学修を丁寧にしてほしいと思います。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護方法論1		
授業担当者名	永井 邦芳、藤澤 浩美、木野 有美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：永井 邦芳）	ナンバリングコード	241-1PMN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>授業科目のテーマ] 精神疾患の病態・症状・検査・治療を踏まえ、援助を実践するために必要な知識・技術を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神症状とその対応について理解できる。 2. 精神疾患（障害）の種類と特徴、治療について看護の視点から理解ができる。 3. 精神科リハビリテーションの具体的方法及び関連する職種の役割、機能について理解できる。 4. 精神障害者の地域移行上の問題と対策、看護の役割について理解できる 		
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	精神看護方法論1の目的は、精神障害（精神的問題）により様々な生きにくさを抱えながら生活している当事者への具体的支援方法を学修する。精神疾患を含む精神障害の特徴を踏まえ、行われている治療やリハビリテーション（薬物療法、精神療法、心理社会療法等）を理解し、看護師としての専門的な支援の在り方について学ぶ。さらにこれからの精神保健福祉医療の在り方として地域生活という視点を重視し、精神障害者自身が自身の生活を主体的に営んでいくための支援について学修する。		
学生に対する評価の方法	提出を義務づけるリアクションペーパー及びミニットペーパー（20%）講義理解度確認（80%）により総合的に判断する。講義理解度確認は15回の講義とは別に設定する日時で行う。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 精神看護で用いられる看護理論とその応用 （セルフケア理論 人間関係論リカバリー論）</p> <p>第02回 精神障害と法制度（精神保健福祉法 障害者総合支援法 医療観察法）</p> <p>第03回 精神症状についての理解① 意識、知覚、思考、感情の看護アセスメント</p> <p>第04回 精神症状についての理解② 精神現症と状態像の看護アセスメント</p> <p>第05回 精神科治療と看護の役割（薬物療法）</p> <p>第06回 精神科治療と看護の役割（心理社会療法、認知行動療法その他）</p> <p>第07回 精神科における入院治療と看護</p> <p>第08回 精神障害の病態と看護 急性期に起こることと看護： （統合失調症圏：急性混乱、精神運動興奮時の対応とリスクマネジメント）</p> <p>第09回 精神障害の病態と看護 慢性経過の患者への看護（残遺症状と陰性症状）</p> <p>第10回 精神障害の病態と看護 気分（感情に問題を抱える人）への看護： （抑うつ、昏迷、自殺自傷リスクへの対応）</p> <p>第11回 精神障害の病態と看護 アディクションと看護 （離脱症状 共依存 ピアグループ）</p> <p>第12回 精神障害の病態と看護 社会で生きにくさを抱える人への看護 パーソナリティ障害</p> <p>第13回 心的外傷（PTSD）とトラウマケア</p> <p>第14回 精神リエゾン看護</p> <p>第15回 精神医療と倫理的問題（人権擁護に対する看護師の責任と役割について） 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院 精神看護の展開		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	使用する教科書を確認したうえで授業に参加する（45分）、授業の復習については、授業終了後できるだけ早い段階で理解しづらかった部分を解決しておくようにしてください（45分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	家族看護学		
授業担当者名	木野 有美、金城 やす子、穴井 美恵、鯉淵 乙登女		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	2年次後期
教員担当形態	オムニバス(主担当:木野有美)	ナンバリングコード	241-1CON3-06
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>さまざまな状況にある対象者を取り巻く家族に対し、家族セルフケア機能を高めるために家族を支援することの意味や方法を学びます。実践編としては「在宅療養を行っている家族」「精神障害者とその家族」「高齢者介護を行っている家族」「乳児(子ども)のいる家族」とその応用について学びを深めます。そのうえで健康的な生活を支援するための家族看護の役割について学びます。</p> <p>授業を通して、①地域の中で生活する家族、看護の対象としての家族について、家族の持つ役割や機能について理解できる。②家族看護の概念および家族と家族関係について理解し、健康的な生活を支援するための看護の役割について理解できることを目標にしています。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP2 思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	<p>少子・高齢化が進む中で家族の形態、機能が大きく変化してきています。人間生活の基礎としての家族および家族関係に関する理解を深めることが、臨床看護、在宅看護をすすめるうえで重要になっています。</p> <p>家族とは、家族看護とは等の家族看護の基本を学び、さらにさまざまな状況にある家族と家族構成員に看護者としての役割、支援の内容や方法等、事例をもとに考え、家族看護の理解を深めます。そのことが健康的な生活を支援するための看護につながります。</p>		
学生に対する評価の方法	① 講義への参画度 10点 ② ミニレポート 20点 ③ 理解度確認 70点 合計 100点満点 ①～③を総合的に評価する		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 家族とは、家族看護学とは 家族看護学の概念 家族を理解するために必要な理論 第02回 家族と社会 家族と地域 家族の病気体験の理解 第03回 家族看護のアプローチの方法 ジェノグラム、エコマップの利用 第04回 家族看護における看護介入① 精神障がい者とその家族への支援 第05回 家族看護における看護介入② 終末期を在宅で療養する患者と家族への支援 (看取りの看護) 第06回 家族看護における看護介入③ 高齢者と生活する家族への支援 第07回 家族看護における看護介入④ 子ども(乳幼児)のいる家族への支援 第08回 理解度の確認とまとめ 授業全体の振り返り		
使用教科書	<p>使用テキストは医学書院『家族論・家族関係論』</p> <p>資料等は必要時配布します。</p> <p>参考テキストは以下に示します。</p> ① 岡堂哲雄編集『家族論・家族関係論』医学書院 2016年 ② 鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子：『家族看護学』日本看護協会出版会 2019年 ③ 中野絢美・瓜生浩子『家族看護学』MCメディカ出版 2022年		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>課題を提示するので、各自で学習すること</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	セーフティネット実習		
授業担当者名	伊藤 美智子、八田 早恵子、佐藤 由佳、土井 智子、木野 有美、鈴木 孝、三輪 桂子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次前期 (集中)
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当: 伊藤美智子)	ナンバリングコード	241-2CON304
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] セーフティネット医療 (重症心身障害・筋ジストロフィー・神経難病等) および看護の実際を学ぶ。特に、セーフティネット医療の対象者、また障害児・者の日常生活や社会生活の実際を知り、必要な看護を考える。</p> <p>[授業科目の到達目標] 1. セーフティネット医療 (看護を含めて) の概要とその役割について知る。 2. セーフティネット医療、特に障害児・者、筋・神経疾患を持つ対象者の支援を行うための多職種役割、チーム医療の実際を知る。 3. 障害児・者また神経・筋疾患を持つ対象者に対し、生活上の配慮および対象者に尊厳を持った関わりができる。 4. 実習を通して学んだことをチームメンバーと共有し、主体的に学びを深めることができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP2: 思考力・判断力・創造力 ◎ DP3: 協働力 ○</p>		
授業の概要	<p>この科目の目的は、セーフティネット医療を知り、神経難病を持つ対象者や障害のある児・者が、疾患・障害と共に生きる、生活するという事の実践を学ぶことにある。障害児・者の生活の場において、どのようなニーズがあるのかを知る。そのニーズに対する看護や多職種による支援を理解する。具体的には、食事援助、清潔援助、環境整備、リハビリテーション、レクリエーション等を通して、対象者に尊厳を持った関わりができ、生活そのものを考える実習である。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>① 実習態度・実習の取り組み (40%) ② 実習記録 (40%) ③ 実習総合評価 (事前事後学習、グループ学習等) (20%) ①～③を総合的に判断する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>[グループ編成] ・1グループ5～6名で22グループ編成する。 ・前半2日: 11G、後半2日: 11G 各施設1～2名の実習指導教員が担当する。</p> <p>[事前指導計画] ・学内オリエンテーションで実習の目的・目標、進め方について説明する。 ・事前学習 (重症心身障害・筋ジストロフィー・神経難病等についての疾患と看護について) を行う。</p> <p>[実習中の指導計画] 第1～2日目 前半11G: 各施設にてオリエンテーションを受けた後、病棟にて実習を行う。 後半11G: 学内にて重症心身障害、疾患看護についての自己学習と学びの整理を行う。 第3～4日目 後半11G: 各施設にてオリエンテーションを受けた後、病棟にて実習を行う。 前半11G: 学内にて重症心身障害、疾患看護についての自己学習と学びの整理を行う。 第5日目 学内にて学びの共有、記録まとめ、レポート作成、記録提出 ※病院実習では、看護援助 (食事介助、清潔、環境整備、リハビリテーション、レクリエーション等) の見学、また指導者や教員の見守りのもと看護援助を行う。</p> <p>[事後の指導計画] ・実習の振り返りを記録を通して丁寧に行う。 ・実習を通しての学びを整理し、自己の課題を明確にする。 ・授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	配布資料		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none">・事前学習として、日頃から新聞記事やメディアのニュース等で、障害に対する理解を深めてほしい。また実習施設について、施設概要や理念等を理解しておく。・事後課題は記録の整理を毎日丁寧に行う。・選択科目「障害と看護」を受講した人は、学びの振り返りをしておく。・実習は臨地での経験が大切である。個人の健康状態を維持し、実習に臨めるよう配慮する。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	国際看護学		
授業担当者名	宮本 恵子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1CON3-07
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[授業のテーマ] 世界の健康問題と保健医療の現状や国際社会での看護活動の実際を理解できる</p> <p>[到達目標] 1. 世界の健康問題と保健医療の現状について述べるができる 2. 対象となる人々の健康に及ぼす要因を挙げることができる 3. 国際社会での看護活動の実際を学び、看護の役割について説明できる</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP1 : 知識・技能 ◎ DP2 : 思考力・判断力・創造力 ○</p>		
授業の概要	<p>国際看護学を学ぶ目的は、国や地域、民族を越え、多様な文化や価値観と共存している人々の健康上の問題と世界共通の看護課題について学ぶことにある。人や物、情報が行き交うグローバル社会において、看護もボーダレス時代になってきている。ここでは、世界の健康問題の現状を疫学的・統計学的に学ぶ。世界共通の看護課題は、各国の医療の実態の影響を受けつつ、看護のマンパワーや質、経済性や民族性にも由来している。レイニガーを代表とした文化を考慮した看護理論についても学び、文化や社会的差異を理解し、国民性や文化に適した看護を思考する。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業内容の理解度 (80%)、リアクションペーパー (20%) から総合的に評価する。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第1回 国際看護学とは 第2回 グローバルヘルスと世界の健康問題の現状 第3回 国際協力のしくみ 第4回 文化を考慮した看護 第5回 開発協力と看護① 第6回 開発協力と看護② 第7回 国際救援と看護 第8回 理解度確認・授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>系統看護学講座 統合分野 「災害看護学・国際看護学」 医学書院 配布資料</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>授業計画に即して提示する資料や参考図書について自己学習を行い、授業において疑問が解決できるように主体的に受講する。授業後は、講義資料や参考図書を用いて復習し、看護の役割について自分自身の考えをまとめる。 国際看護や開発途上国の健康に興味がない場合でも、国内の病院等で価値観の異なる対象を看護する場合がある。 多様な対象を理解する際に役立つような授業である。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	海外の医療と文化(海外研修)		
授業担当者名	五十里 明、石井 健一郎、藤澤 浩美		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	2~4年次前期
教員担当形態	複数(主担当:五十里 明)	ナンバリングコード	241-4CON3-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>オーストラリアの生活、文化、医療等の現状と課題について、演習及び現地ホームステイを通して学び、現状と課題について、わが国と比較検討することにより、看護師が社会で担う役割や、課題の解決方を考える。</p> <p>[授業科目の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーストラリアの生活、保健・医療・福祉について説明できる。 2. オーストラリアと日本における健康問題・医療・看護に関する現状と課題について説明できる。 3. オーストラリアにおける医療人材の実際、病院・施設の概要について説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	意欲・態度◎(看護DP6:国内外の看護事情に関心を持つ姿勢を有している)		
授業の概要	<p>本科目は、英語圏における言語の修得の機会とするとともに、オーストラリアにおける医療の実際を学び、文化的・宗教的・人種的な差異を受け入れ、実情に応じた医療の実態を見学により学ぶ。オーストラリアの看護師の看護に対する考え方や専門性についても学び、知見を深める。将来、国際的に看護活動できるキャリア開発の動機づけにつなげる。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>授業への参画度(20%)、事前学習課題学修課題及び現地担当課題のレポート(各々40%の計80%)から総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>学内:第01回~第06回、第31回 現地大学等:第07回~第30回</p> <p>第01回 オリエンテーション (授業の趣旨と進め方の説明、海外研修の内容紹介、事前学習、グループ分けについて)</p> <p>第02回 イングリッシュラウンジ① 第03回 イングリッシュラウンジ② 第04回 イングリッシュラウンジ③ 第05回 事前学習:(1)日本における保健医療制度・看護師制度・高齢者福祉施設の特徴と課題 (2)オーストラリアにおける保健医療制度・看護師制度・高齢者福祉施設の特徴と課題 グループ課題の調査・まとめ</p> <p>第06回 事前学習:グループ課題の発表 第07回 英語レッスン① 第08回 英語レッスン② 第09回 英語レッスン③ 第10回 英語レッスン④ 第11回 グリフィス大学の学生と交流 第12回 英語レッスン⑤ 第13回 英語レッスン⑥ 第14回 オーストラリアで働く日本人看護師による特別講義 第15回 英語レッスン⑦ 第16回 英語レッスン⑧ 第17回 グリフィス大学看護学生によるスピーチ 第18回 英語レッスン⑨ 第19回 英語レッスン⑩ 第20回 ネイサンキャンパスの看護研究所訪問 第21回 英語レッスン⑪ 第22回 英語レッスン⑫ 第23回 オーストラリア看護師による講義 第24回 ゴールドコースト病院訪問 第25回 ゴールドコーストキャンパスの学生と交流 第26回 英語レッスン⑬</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>第27回 英語レッスン⑭</p> <p>第28回 レスパイトセンター訪問①</p> <p>第29回 レスパイトセンター訪問②</p> <p>第30回 ワイルドライフワークショップ</p> <p>第31回 事後学習：研修体験発表とまとめ 授業全体の振り返り</p>
使用教科書	毎回配布される資料
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>教養科目における「英語」を積極的に履修・勉学し、現地大学における学修、ホームステイに備えること。この授業に関するテーマを各グループで設定・情報収集し、それに関する疑問点や考察に努めること。</p> <p>受講前と研修参加後にTOEFLを受験することが望ましい。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	在宅看護方法論																																															
授業担当者名	工藤 紀子、西出 りつ子、世俵 智恵子、鈴木 里美																																															
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次前期																																													
教員担当形態	オムニバス (主担当: 工藤 紀子)	ナンバリングコード	241-2CCN2-03																																													
備考																																																
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 療養者と家族の望む生活を支える在宅看護の基礎的な知識および実践方法について理解する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の看護技術を応用し、在宅看護の特徴を踏まえ、個別の状況に応じた援助方法が工夫できる。 2. 地域での療養生活を支えるための多職種連携・協働における看護師の役割を説明できる。 3. 療養者と家族の状況を考え、信頼関係を築くための方法を説明できる。 4. 在宅のリスクマネジメントの特徴と対応を説明できる。 																																															
ディプロマポリシーとの関連	DP 2. 思考力・判断力・創造力◎ DP 3. 協働力○																																															
授業の概要	地域で自分らしい生活の継続をめざす療養者と家族に対する在宅看護の基盤的な知識および実践方法について学修する。具体的には、訪問看護のイメージ化を図り、対象の状況に応じた生活援助の工夫、在宅の場におけるコミュニケーション技術、対象者の健康を含む生活全般を多面的に支援するための多職種連携・協働および看護師の役割について学修する。																																															
学生に対する評価の方法	理解度確認(60%)、個人の提出課題(20%)、グループの発表・提出課題と授業における発言内容・参画態度 (20%)により総合的に評価する。理解度確認は別日に行う。																																															
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>ガイダンス、訪問看護ステーションの活動、在宅看護の情報収集の特徴</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>訪問時のマナーと信頼関係</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>在宅療養環境調整と在宅介護用品の工夫</td> <td>世俵</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>家族介護者の心身の状況と看護</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>在宅療養移行期・安定期の看護 (1)リスク管理、他</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>在宅療養移行期・安定期の看護 (2)浣腸・排便、他</td> <td>世俵</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td>在宅療養移行期・安定期の看護 (3)安全な外出、他</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>在宅療養移行期・安定期の看護 (4)在宅酸素療法、他</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>療養者が暮らす地域の理解 (1)</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>療養者が暮らす地域の理解 (2)</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>療養者が暮らす地域の理解 (3)</td> <td>西出</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>在宅看護におけるセルフケア支援 (1)</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>在宅看護におけるセルフケア支援 (2)</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>終末期の療養者と家族の看護</td> <td>工藤</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>訪問看護ステーションの管理</td> <td>工藤</td> </tr> </table> <p>授業全体の振り返り</p>			第01回	ガイダンス、訪問看護ステーションの活動、在宅看護の情報収集の特徴	工藤	第02回	訪問時のマナーと信頼関係	工藤	第03回	在宅療養環境調整と在宅介護用品の工夫	世俵	第04回	家族介護者の心身の状況と看護	工藤	第05回	在宅療養移行期・安定期の看護 (1)リスク管理、他	工藤	第06回	在宅療養移行期・安定期の看護 (2)浣腸・排便、他	世俵	第07回	在宅療養移行期・安定期の看護 (3)安全な外出、他	工藤	第08回	在宅療養移行期・安定期の看護 (4)在宅酸素療法、他	工藤	第09回	療養者が暮らす地域の理解 (1)	西出	第10回	療養者が暮らす地域の理解 (2)	西出	第11回	療養者が暮らす地域の理解 (3)	西出	第12回	在宅看護におけるセルフケア支援 (1)	工藤	第13回	在宅看護におけるセルフケア支援 (2)	工藤	第14回	終末期の療養者と家族の看護	工藤	第15回	訪問看護ステーションの管理	工藤
第01回	ガイダンス、訪問看護ステーションの活動、在宅看護の情報収集の特徴	工藤																																														
第02回	訪問時のマナーと信頼関係	工藤																																														
第03回	在宅療養環境調整と在宅介護用品の工夫	世俵																																														
第04回	家族介護者の心身の状況と看護	工藤																																														
第05回	在宅療養移行期・安定期の看護 (1)リスク管理、他	工藤																																														
第06回	在宅療養移行期・安定期の看護 (2)浣腸・排便、他	世俵																																														
第07回	在宅療養移行期・安定期の看護 (3)安全な外出、他	工藤																																														
第08回	在宅療養移行期・安定期の看護 (4)在宅酸素療法、他	工藤																																														
第09回	療養者が暮らす地域の理解 (1)	西出																																														
第10回	療養者が暮らす地域の理解 (2)	西出																																														
第11回	療養者が暮らす地域の理解 (3)	西出																																														
第12回	在宅看護におけるセルフケア支援 (1)	工藤																																														
第13回	在宅看護におけるセルフケア支援 (2)	工藤																																														
第14回	終末期の療養者と家族の看護	工藤																																														
第15回	訪問看護ステーションの管理	工藤																																														
使用教科書	河原佳代子著者代表：系統看護学講座専門分野(地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2023. 佐伯和子編著：地域保健福祉のための地域看護アセスメントガイド第2版, 医歯薬出版株式会社, 2020.																																															
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	事前学習として、「在宅看護学概論」の既習内容について復習しておく。本科目と同時進行する在宅看護学演習と連動させて学びを深める。 授業の前は、事前に配布される資料に目を通し、対応する教科書の箇所を目を通し、知識不足の内容については下調べをして講義に臨む。(週90分) 授業の後には、授業時の疑問点を自ら調べ、事後課題に取り組む。(週90分)																																															

授業概要(シラバス)

授業科目名	在宅看護学演習		
授業担当者名	工藤 紀子、西出 りつ子、世俵 智恵子、鈴木 里美		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	複数(主担当:工藤紀子)とクラス分け	ナンバリングコード	241-2CCN2-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 在宅看護の事例を通し、療養者及び家族を理解し、在宅で必要とされる援助に繋がる看護過程の展開を理解・習得する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護における信頼関係構築、情報収集の視点を述べられる。 2. 在宅看護における情報収集、アセスメントの視点を述べられる。 3. グループメンバーと協力し、事例について根拠に基づく検討ができる。 4. 生活の場で行われる看護技術を演習し、療養者と家族への配慮、安全、経済性を考慮した看護を説明できる。 5. グループメンバーとの意見交換を通し、連携・協働に必要な態度について考え、説明できる。 6. 在宅療養者と家族への個別的な看護を計画し記録できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP2. 思考力・判断力・創造力◎ DP3. 協働力○		
授業の概要	退院後、複数の疾患と障害をかかえながら地域で自分らしく生活する療養者と家族を支える看護について、グループディスカッションを通して考えを深め、在宅看護過程の展開方法を習得する。介護保険による訪問看護を利用する高齢者の事例をとりあげ、訪問看護導入期、回復・維持期、急性増悪期の各ステージにおける看護展開を通して、ICFの視点に基づくアセスメント、地域の社会資源の活用を含めた個別的な看護の提供方法等、在宅看護の特徴的な展開方法を学習する。また、生活の場で提供される看護技術の実践方法について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	個人の提出課題・レポート(70%)、グループの提出課題(15%)、授業における発表・発言内容・参画態度(15%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス、在宅看護過程の展開方法 事例紹介と情報収集</p> <p>第02回 初回訪問計画、訪問準備、訪問マナー、情報収集(演習)</p> <p>第03回 在宅看護過程(1) 在宅移行期・回復期の療養者の理解(身体・心理・環境・社会面)</p> <p>第04回 在宅看護過程(2) 課題分析、目標設定</p> <p>第05回 在宅看護過程(3) 計画立案</p> <p>第06回 生活の場で行われる看護技術演習(浣腸・排便)</p> <p>第07回 生活の場で行われる看護技術演習(屋外散歩の介助)</p> <p>第08回 急性増悪期の在宅看護過程(課題分析、看護問題の明確化)</p> <p>第09回 急性増悪期の在宅看護過程(目標設定、看護計画)</p> <p>第10回 在宅療養者の個別的な看護方法の計画(1)</p> <p>第11回 在宅療養者の個別的な看護方法の計画(2)</p> <p>第12回 セルフケア支援のための媒体作成</p> <p>第13回 媒体を使ったセルフケア支援(グループごとの演習)</p> <p>第14回 看護計画と「媒体を用いた模擬実践からの学び」(1)(各グループの発表による全体共有)</p> <p>第15回 看護計画と「媒体を用いた模擬実践からの学び」(2)(各グループの発表による全体共有)</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	河原佳代子著者代表:系統看護学講座専門分野(地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2023. 押川真喜子監修:写真で分かる訪問看護アドバンス 新訂第2版, インターメディカ, 2023.		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>〔事前学習〕週45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提示された事例を検討するために必要な知識(制度、疾患、基礎看護技術等)について、事前に調べる。 2. 自分なりに検討し、ディスカッションに参加する準備をする。 <p>〔事後学習〕週45分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義やグループディスカッションで得た新たな考え方、知識を整理し、自分の看護過程の展開用紙に取り入れて修正する。 2. 技術演習を振り返り、事後レポートにまとめ、不足知識・技術の習得に努める。 		

授業概要(シラバス)

授業科目名	在宅看護学実習		
授業担当者名	西出 りつ子、工藤 紀子、世俵 智恵子、鈴木 里美		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	クラス分け (主担当: 工藤 紀子)	ナンバリングコード	241-2CCN2-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 地域において生活する療養者とその家族が望む生活を継続するための在宅看護の基礎的な知識及び技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の思い・ニーズ・希望、療養環境の多様性を説明できる。 2. 在宅療養者の健康状態を包括的にアセスメントできる。 3. アセスメントに基づいて個別性に応じた看護を生活者の視点から計画して実践することができる。 4. 在宅療養に必要な社会資源と在宅ケアチームの連携について説明できる。 5. 在宅療養者の権利を尊重する姿勢と訪問看護師の果たす役割・責任について説明できる。 6. 実習の学びの共有から、在宅看護の目指すべき方向性について語るすることができる。 7. 自らの在宅看護実践を省察し、成長内容と今後の課題について述べるすることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP2 思考力・判断力・創造力 ◎ DP4 意欲・態度 ○		
授業の概要	<p>住み慣れた地域に生活する療養者とその家族が、自分らしい暮らしを人生の最期まで安心して継続するために必要な看護の実際から、在宅看護のあり方を学ぶ。</p> <p>具体的には、様々な療養者の自宅を訪問看護師に同行して訪問し、療養者とその家族の多様性や個別性に応じた在宅看護の実際、在宅ケアにおける多職種連携、看護師の役割を理解する。療養者1名を受け持ち、療養者と家族の健康状態を包括的にアセスメントして、望む生活を支援する方法を生活者の視点から計画し、看護展開する。さらに、サービス担当者会議や訪問看護ステーション内での打ち合わせ、学内における全体カンファレンスを通して、在宅看護の目指すべき方向性について考える。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>実習内容 (中間カンファレンスと最終カンファレンスを含む) 及び実習記録による学習達成度、学内の全体カンファレンスと全体報告会における発表内容・質疑応答から、総合的に評価する。</p> <p>本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>【事前オリエンテーション】 学内オリエンテーション (7月) において、実習の目的・目標及び実習の進め方について説明を受ける。</p> <p>【実習計画】</p> <p>第01日目 学内オリエンテーションと準備 (AM)、受け持ち療養者の情報収集 (PM実習施設)</p> <p>第02日目 施設オリエンテーション、同行訪問、受け持ちの情報収集</p> <p>第03日目 同行訪問、受け持ちのアセスメント、看護上の問題の検討</p> <p>第04日目 受け持ちの看護上の問題の明確化と看護の方向性、中間カンファレンス</p> <p>第05日目 学内実習 (全体カンファレンス、看護実践の準備)</p> <p>第06日目 受け持ちの看護実践の検討、同行訪問</p> <p>第07日目 受け持ちの看護実践、同行訪問</p> <p>第08日目 受け持ちの看護実践、同行訪問</p> <p>第09日目 受け持ちの看護実践・評価、最終カンファレンス</p> <p>第10日目 学内実習 (全体報告会、実習の振り返り面談)</p>		
使用教科書	<p>河原加代子著者代表：系統看護学講座 地域在宅看護論 (1) 地域・在宅看護の基盤，医学書院，2022.</p> <p>河原加代子著者代表：系統看護学講座 地域在宅看護論 (2) 地域・在宅看護の実践，医学書院，2022.</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>事前学習として、在宅看護学概論、在宅看護方法論、在宅看護学演習、地域看護学概論の学びと、これまでに学んだ疾患に関する知識、各看護学の学習内容を復習して実習に臨む。事後学習として、自らの実習経験を振り返り、疑問点や確認事項を調べて実習記録の記述内容を深めたものにする。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	慢性期看護		
授業担当者名	森 京子、伊藤 美智子、金城 やす子、鯉淵 乙登女、八田 早恵子、藤澤 浩美、白砂 恭子、土井 智子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	複数(主担当：森京子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 慢性の病とともに生きる人とその家族に焦点をあてて学ぶ科目である。疾病構造の変化により、生涯にわたりセルフケアを必要とする疾患が増えた現在、慢性期看護の基本的・共通した見方や考え方を養い、対象となる人の病気の進行や合併症を予防し、地域で主体的に生活を営むための援助について学ぶ。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の特徴と慢性の病とともに生きる人の特徴について説明することができる。 慢性の病とともに生きる人とその家族のアセスメントをすることができる。 慢性の病とともに生きる人の事例展開を通して、病気の悪化予防、セルフケア、仕事・家庭生活との両立をめざす看護の方法を説明することができる。 慢性の病とともに生きる高齢者とその家族のアセスメントをし、適切な看護援助の方法を説明することができる。 病気や障害を抱える小児と家族の援助について考えることができる。 精神障害をもちながら主体的に生きるための当事者および家族支援の在り方と実際を説明することができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP2思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	<p>慢性期看護を学ぶ目的は、慢性疾患の特徴や進行に応じて、病とともに生きる人と家族の特徴を理解し援助を学ぶことにある。成人期および老年期における代表的な慢性疾患の進行と加齢変化から重複して生じるリスク、もてる力を活かした生活の質の維持・向上の両面から、看護のあり方を考える。また、慢性の病とともに生きる高齢者と家族の長期にわたるセルフケア能力と加齢に伴う変化をアセスメントし、適切な看護援助を考える。そして、慢性の病とともに生きる成人の事例展開を通して、病気の悪化予防、セルフケア、仕事・家庭生活との両立をめざす看護方法を学ぶ。</p> <p>小児看護領域では成長発達段階にある小児期の特徴を踏まえ、病気や障害を抱える子どもと家族への援助について学ぶ。</p> <p>また事例を通して子ども自身の病気の理解や、家庭や学校生活等環境への支援について考える。</p> <p>精神看護領域では、精神障害をもちながら生活する人への具体的支援について、リハビリを主要概念に置きながら、精神科リハビリテーション、地域移行支援、地域生活継続支援の実際について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	授業への参画態度 (10%)、看護過程の成果物 (40%)、授業内容の理解度 (50%) 以上3点から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第01回 慢性期看護とは 慢性疾患の特徴 病みの軌跡、保健行動理論、変化ステージモデル(講義)</p> <p>第02回 生活習慣と慢性疾患(糖尿病・高血圧) (講義)</p> <p>第03回 成人・老年期を代表する疾患と看護 呼吸器系疾患 (講義)</p> <p>第04回 成人・老年期を代表する疾患と看護 循環器系疾患 (講義)</p> <p>第05回 成人・老年期を代表する疾患と看護 腎・泌尿器系疾患 (講義)</p> <p>第06回 成人・老年期を代表する疾患と看護 脳神経疾患(脳血管障害) (講義)</p> <p>第07回 成人・老年期を代表する疾患と看護 膠原病 (講義)</p> <p>第08回 成人・老年期を代表する疾患と看護 消化器疾患(講義)</p> <p>第09回 全人的苦痛と緩和ケア (講義)</p> <p>第10回 がん治療における看護①固形がんで治療を受ける患者の看護:手術療法・放射線療法 (講義)</p> <p>第11回 がん治療における看護②血液がんで治療を受ける患者の看護:化学療法 (講義)</p> <p>第12回 看護診断を活用した看護過程の展開 (講義)</p> <p>第13回 慢性期の看護事例の検討① 事例紹介 (講義・演習)</p> <p>第14回 慢性期の看護事例の検討② 病態関連図 (講義・演習)</p> <p>第15～18回 慢性期の看護事例の検討③ 情報アセスメント(講義・演習)</p> <p>第19回 慢性期の看護事例の検討④ 看護問題の明確化,全体像 (講義・演習)</p> <p>第20回 慢性期の看護事例の検討⑤ 看護計画立案 (講義・演習)</p> <p>第21～22回 慢性期の看護事例の検討⑥ 看護の実施 (演習)</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>第23回 慢性期の看護事例の検討⑦ 実施・評価 (講義・演習) 第24回 慢性期の看護事例の検討⑧ 指導計画の立案 (講義・演習) 第25回 慢性期の看護事例の検討⑨ 指導パンフレットの作成 (演習) 第26回 慢性期の看護事例の検討⑩ 指導の実施評価 (講義・演習) 第27回 小児期を代表する疾患と看護 (講義) 第28回 小児慢性疾患事例の検討 (講義・演習) 第29回 精神障害者の地域移行と地域生活継続とリハビリ支援(講義・演習) 第30回 精神障害者家族への支援 (講義・演習) 授業全体の振り返り</p>
<p>使用教科書</p>	<p>系看 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 系看 専門分野Ⅱ 成人看護学②呼吸器 成人看護学③循環器 成人看護学④血液・造血器 成人看護学⑤消化器 成人看護学⑥代謝・内分泌 成人看護学⑦脳・神経 成人看護学⑧腎・泌尿器 成人看護学⑨女性生殖器 成人看護学⑩運動器 成人看護学⑪アレルギー-膠原病感染症 医学書院 系看 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系看 別巻 がん看護学 医学書院 系看 別巻 緩和ケア NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 医学書院 看護診断のための中範囲理論 学研 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能から見た老年看護過程 第4版 医学書院 系看 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 系看 小児看護〔2〕小児臨床看護各論 系看 精神看護〔1〕精神看護の基礎 系看 精神看護〔2〕精神看護の展開</p>
<p>自己学習(予習・復習等の内容・時間)</p>	<p>事前学習：各講義に該当する教科書の内容を読み、受講して下さい。 事後学習：各講義で学習した内容を整理し、復習して下さい。 紙上事例で看護過程を展開し、課題を提出してもらいます。計画的に学習して下さい。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	終末期看護		
授業担当者名	森 京子、神谷 智子、八田 早恵子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	オムニバス(主担当:森京子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-06
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>専門教育科目「終末期看護」では、終末期の概念、医療体制について理解するとともに、小児期・成人期・老年期の特徴をふまえ、人生の最終段階にある患者と家族のQOLの維持向上を図る看護実践の基盤となる考え方・知識を習得する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期の概念、医療体制について説明できる。 2. 小児期・成人期・老年期の特徴をふまえた終末期看護について説明できる。 3. 人生の最終段階にある意思決定プロセスにおける看護師の役割について説明できる。 4. 人生の最終段階を支える医療における多職種連携と看護師の役割について説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	人生の最終段階にある患者と家族に対する看護実践に必要な専門的知識を習得する。「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	終末期看護を学ぶ目的は、終末期の概念、医療体制について理解するとともに、小児期・成人期・老年期の特徴をふまえ、人生の最終段階にある患者と家族のQOLの維持向上を図る看護実践の基盤となる考え方・知識を習得することにある。終末期、ターミナルケア、エンドオブライフケアなどの概念とわが国の終末期の医療体制やその動向について理解する。そして、人生の最終段階にある患者と家族に対する看護、看取りのケアについて理解する。		
学生に対する評価の方法	レポート課題(20%)、授業内容の理解度(80%)により総合的に評価する。 ※試験は第9回目に相当する時間に行う。詳細は別途連絡する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 終末期の概念および終末期医療の現状と動向、発達段階からみた死(講義)<森></p> <p>第02回 看取りに関する倫理的課題・人生の最終段階における意思決定支援(講義・グループワーク)<森></p> <p>第03回 終末期にある患者の症状マネジメント(講義)<森></p> <p>第04回 臨死期の患者に対する看護(講義)<森></p> <p>第05回 看取る家族に対する看護(講義)<森></p> <p>第06回 老年期における終末期看護(講義)<神谷></p> <p>第07回 小児期における終末期看護(講義)<金城, 八田, 鯉淵></p> <p>第08回 人生の最終段階を支える医療における多職種連携と看護師の役割(講義・グループワーク)<森></p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>①系統看護学講座 専門分野 成人看護学①成人看護学総論 医学書院</p> <p>②系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</p> <p>③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>事前学修(週60分):各講義に該当するテキストの内容を熟読し、分からない語句は調べた上で受講してください。事前課題を課す場合があります。</p> <p>事後学修(週60分):各講義で示される目標に沿って、学習した内容を整理し、復習してください。レポート課題を課す場合があります。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	急性期実習		
授業担当者名	伊藤 美智子、佐藤 由佳		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数(主担当：伊藤美智子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-08
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 これまで学んできた知識と技術を統合し、超急性期から回復期にある対象を看護の視点でとらえ、生命を維持、順調な回復のための観察と介入に必要な基礎的な看護実践能力を身につける</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある患者と家族(重要他者)を身体・心理・社会的側面から総合的に理解する。 急性期にある患者の看護計画を立案し、行った援助の評価ができる。 急性期にある患者の回復過程および予測される問題のリスクを踏まえ、回復の促進に向けた安全・安楽な援助を実施する。 生命の危機状態にある患者と家族への看護を理解する。 看護学生として必要な倫理的行動の基礎及び学習者としての姿勢を身につける。 		
ディプロマポリシーとの関連	急性期実習の履修により、急性期から回復期にある患者とその家族の看護を実践することができるようになる。 (「知識・理解」○、「思考・判断」◎)		
授業の概要	急性期実習の目的は、急性期病棟、救命救急センター及び手術室での実習を通して、成人・老年期にある対象の超急性期から回復期の看護を学ぶことにある。急性期から回復期にある対象を看護の視点でとらえ、生命を維持、順調な回復するための観察と判断、全身管理について理解を深め、合併症や二次障害への予防対策を計画し実践する能力を身につける。		
学生に対する評価の方法	事前学習、まとめ、実習評価表を踏まえ、実習課題への取り組み、実習内容および実習記録による実習目標の達成度などから総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<ol style="list-style-type: none"> グループの編成 学生100名に対して、原則、1グループ5名程度で編成し、各グループは原則1名の助教以上の教員が担当する。 事前指導計画 事前に受け持ちが予想される患者について、病態生理、症状、検査、治療・術式、侵襲と生体への影響、看護について学習する。また、フィジカルアセスメントや合併症・二次障害の予防と看護、苦痛緩和の援助、退院支援などの学習内容と演習を統合しておく。 実習中の指導計画 ※詳細は実習要項参照のこと <ol style="list-style-type: none"> 病棟実習(7日) <ol style="list-style-type: none"> 急性期から回復期にある患者を原則学生1人で1人受け持ち、看護を実践する。 実習中は、ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いて看護過程を展開する。 救命救急センター(0.5日) <ol style="list-style-type: none"> 生命の危機状態にある患者の看護について見学し、救急・集中治療とその看護について学ぶ 手術室(0.5日) <ol style="list-style-type: none"> 麻酔導入及び術中術後の看護、手術室における医療安全について学ぶ 実習後の指導計画 <ol style="list-style-type: none"> 実習中の出来事についての自己の振り返りや、教員との面談を通して、自己の課題を明らかにする。 授業全体の振り返り 		
使用教科書	成人・老年看護学分野 急性期看護で使用した教科書、および関連する解剖生理学や病態治療学で使用した教科書、基礎看護技術に関する教科書等		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前オリエンテーションに基づいて自己学習を行う。受け持ちが予想される患者の疾患について、病態生理、症状、検査や治療処置、侵襲と生体への影響、看護について学修し、まとめておく。日々の看護実践を振り返り、実習記録に整理しまとめる。健康状態を整えて実習に臨む。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	慢性期実習		
授業担当者名	森 京子、土井 智子、白砂 恭子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期(集中)
教員担当形態	複数、グループ分け(担当 当: 森京子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-09
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 これまで学んできた知識と技術を統合し、慢性期にある人々の健康課題に対する反応をとらえ、発達段階に応じた個別のかつ多様な看護を実践するための基礎的な看護実践能力を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある患者の身体・心理・社会的側面を統合して理解できる。 2. 長期にわたる療養生活において、患者のセルフケアを支え、生活の質を高める看護を実施できる。 3. 患者の生活体験を活かして、療養の継続やライフスタイルの変更から適応に向けた援助ができる。 4. 患者のセルフケアに応じた安全・安楽な援助ができる。 5. 保健・医療・福祉チームの連携の重要性や看護の役割機能を理解する。 6. 看護学生として必要な倫理的行動の基礎および学習者の姿勢を身につける。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP3 協働力○		
授業の概要	慢性期実習の目的は、成人期・老年期にある慢性の病と共に生きる人と家族を理解し、看護の実際を臨地実習で学ぶことにある。慢性の病と共に生きる受持ち患者をゴードンの機能的健康パターンを使いアセスメントし、全体像をとらえ、健康課題を明確化し看護診断を行い、看護計画を立案し、看護実践を行い、評価・修正する一連の看護過程展開について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	事前学習への取り組み、実習内容、実習態度、実習目標の到達状況について実習評価項目に沿って総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<ol style="list-style-type: none"> 1) グループ編成 学生100名に対して、原則1グループ4-5名で編成する。各グループは原則、1名の助教以上の教員が担当する。 2) 病棟実習 2週間(10日間) 第1日目: 学内オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受持ち患者の決定、情報収集 第2~4日目: 受持ち患者の情報収集・アセスメント、援助の見学・実施 第5日目: 受持ち患者への援助の実施、情報収集・アセスメント、全体像、看護の方向性と看護診断(中間カンファレンス) 第6~9日目: 看護計画立案(6日目)、看護計画に沿った援助の実施・評価、実習目標の達成状況と課題(最終カンファレンス) 第10日目: 実習の自己評価および教員との面談、記録の整理、学びの共有とまとめ 授業全体の振り返り 		
使用教科書	成人・老年看護学分野で使用した教科書および関連する解剖生理学、病態治療学、基礎看護技術に関する教科書等 NANDA-1 看護診断 定義と分類 2021-2023 医学書院 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	事前オリエンテーションに基づいて自己学習を行う。受持ちが予想される患者の疾患について病態生理、症状、検査や治療・処置、看護について学修し、まとめておく。日々の看護実践を振り返り、実習記録に整理しまとめる。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	がん看護実習		
授業担当者名	森 京子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当：森京子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-10
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>専門教育科目「がん看護実習」では急性期病院の外来部門および一般病棟、緩和ケア病棟におけるがんサバイバーと家族に対する看護実践場面への参加を通して、がんサバイバーと家族に対する看護を実践するための専門的知識の獲得と全人的苦痛の緩和を図るための看護への理解を目指す。また、外来を含む急性期病院および緩和ケア病棟におけるがんサバイバーと家族に対する看護の特徴と看護師の役割について理解することを目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの治療期および終末期にある患者の身体・心理・社会的側面を統合して理解する。 2. 急性期病院の一般病棟および外来におけるがんサバイバーに対する看護の特徴と看護師の役割について理解する。 3. 緩和ケア病棟における看護の特徴と看護師の役割について理解する。 4. がんの治療期および終末期における保健医療福祉チームの協働・連携の重要性と看護師の役割を理解する。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>がんサバイバーと家族に対する看護を実践するための専門的知識の獲得と全人的苦痛の緩和を図るための看護への理解を目指す。 「知識・技能」◎、「意欲・態度」○</p>		
授業の概要	<p>本科目では、急性期病院の外来部門および一般病棟、緩和ケア病棟での実習を通して、がんサバイバーと家族に対する看護について学ぶ。がん治療を受ける患者および家族に対する看護の実際および看護師の役割や、疼痛や浮腫、倦怠感などがんに伴う諸症状がある患者の日常生活援助や症状緩和を図るためのケアの実際について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>事前学修や実習課題への取り組み、実習での学びに関する発表内容を踏まえ、実習態度、実習内容、実習目標の到達状況などについて実習評価項目に沿って評価する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ編成 学生100名に対して、原則1グループ18名で編成し、各グループは原則、助教以上の教員1名が担当する。 2. 実習計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来部門実習 (1日) 緩和ケア外来、外来化学療法室、外来放射線療法室での患者、家族に対する看護の実際について見学し、既習の知識と統合し、各部門における看護師の役割について学ぶ。 2) 一般病棟実習 (2日) 1人の患者を受けもち、急性期病院の一般病棟におけるがん看護の実際・看護師の役割について学ぶ。 3) 緩和ケア病棟実習 (1日) 緩和ケア病棟における看護の実際について見学し、人生の最終段階にある患者と家族に対する看護および看護師の役割について学ぶ。 4) 学びの発表会 (1日) 授業全体の振り返り 		
使用教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 ②系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 <p>その他、適宜紹介する。</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>事前オリエンテーションに基づき事前学修を行う。 日々の看護実践および、見学した内容を振り返り、実習記録にまとめる。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	療養生活支援論		
授業担当者名	神谷 智子、穴井 美恵、白砂 恭子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	複数 (主担当: 神谷智子)	ナンバリングコード	241-1AGN2-07
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 高齢者に特有の健康障害や生活障害を理解し、その人らしく過ごすための看護実践に必要な知識・技術・思考を習得する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に生じやすい健康障害や生活障害について理解できる。 2. 高齢者の現在のようすが、なぜそうなっているのか理由を説明できる。 3. 高齢者の様々な状況に応じた、その人らしさを尊重した看護を立案し説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	療養生活支援論の目的は、老年期を生きる対象の健康上の特徴および加齢による身体機能の変化と生活行動への影響について学び、健康やその人らしい生活を維持するための看護について理解することにある。また、様々な視点から高齢者の状況がなぜそうなっているのか理由をアセスメントすることができ、高齢者の望む生活の実現にむけた安全・安楽で個別的な看護を行うための看護実践方法について、講義と演習を通して学ぶ。演習では、アクティブラーニングを活用し、個々に事前学習した内容を実践し、その結果をグループディスカッションによってフィードバックすることで、対象にとってよりよい看護を探求する。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度 (10%) ②各演習における課題レポート (30%) ③授業内容の理解度 (60%) 以上の3点から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 身体可動性障害のある高齢者の看護① (神谷)</p> <p>第02回 身体可動性障害のある高齢者の看護②援助の実際 演習GW (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第03回 排泄障害のある高齢者の看護① (白砂)</p> <p>第04回 排泄障害のある高齢者の看護②援助の実際 演習GW (白砂・穴井・神谷)</p> <p>第05回 嚥下障害のある高齢者の看護① (神谷)</p> <p>第06回 嚥下障害のある高齢者の看護②嚥下のしくみ 演習GW (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第07回 嚥下障害のある高齢者の看護③援助の実際 演習GW (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第08回 コミュニケーション障害のある高齢者の看護 (白砂)</p> <p>第09回 認知機能障害のある高齢者の看護①病態と看護 (神谷)</p> <p>第10回 認知機能障害のある高齢者の看護②認知症サポーター (神谷)</p> <p>第11回 高齢者の生活リズムを整える看護①活動と休息 (神谷)</p> <p>第12回 高齢者の生活リズムを整える看護②レクリエーションの企画GW (神谷)</p> <p>第13回 高齢者の生活リズムを整える看護③レクリエーションの準備・媒体作成GW (神谷)</p> <p>第14回 高齢者の生活リズムを整える看護④レクリエーションの準備・媒体作成GW (神谷)</p> <p>第15回 高齢者の生活リズムを整える看護⑤レクリエーションの準備・媒体作成GW (神谷)</p> <p>第16回 高齢者の生活リズムを整える看護⑥レクリエーションの実施GW (神谷)</p> <p>第17回 高齢者の生活リズムを整える看護⑦レクリエーションの実施GW (神谷)</p> <p>第18回 高齢者の生活リズムを整える看護⑧レクリエーションの実施GW (神谷)</p> <p>第19回 高齢者の生活リズムを整える看護⑨レクリエーションの評価GW (神谷)</p> <p>第20回 高齢者のその人らしさを尊重した看護①老年看護の考え方 (神谷)</p> <p>第21回 高齢者のその人らしさを尊重した看護②生活史・病態 (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第22回 高齢者のその人らしさを尊重した看護③望む生活 (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第23回 高齢者のその人らしさを尊重した看護④睡眠・休息のアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第24回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑤覚醒・活動のアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第25回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑥食事のアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>第26回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑦排泄のアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第27回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑧身じたくのアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第28回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑨コミュニケーションのアセスメント (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第29回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑩看護の方向性・目標設定 (神谷・穴井・白砂)</p> <p>第30回 高齢者のその人らしさを尊重した看護⑪看護計画 授業全体の振り返り (神谷・穴井・白砂)</p> <p>※第21回～30回は、事例展開の演習を行い個人レポートを提出、フードバックを行う。</p>
<p>使用教科書</p>	<p>1) 北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>2) 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護・病態・疾患論 医学書院</p> <p>3) 山田律子ほか：生活機能から見た老年看護過程 医学書院</p>
<p>自己学習 (予習・復習等の内容・時間)</p>	<p>事前学習は、各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問点や意見等を明確にして授業に臨んでください(週60分)。事後学習は、各回で示される学習目標に沿って自分なりに学習内容やキーワード、授業で示された重要な点をまとめたノートを作成し、整理してください(週60分)。また、演習に関しては事前・事後課題をしっかりと行い、学びを深めてください。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	高齢者療養生活支援実習		
授業担当者名	神谷 智子、穴井 美恵、白砂 恭子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数・クラス分け (主担当: 神谷智子)	ナンバリングコード	241-2AGN2-11
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 高齢者の特徴と健康障害を理解し、施設で生活する高齢者のその人らしさを尊重した看護を実践する基礎的な能力を身につける。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を尊重した円滑なコミュニケーションを図り、生活史の情報を得ることができる。 2. 一般的な高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、受け持ち高齢者の現在のようすが何故そうになっているのか説明できる。 3. 施設で生活する高齢者の望む生活を実現するための看護を計画し実践できる。 4. 高齢者の生活を支える制度や高齢者施設の特徴について記録に整理することができる。 5. 高齢者施設における多職種連携の実際を知り、看護師の役割を述べるができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>高齢者療養生活支援実習の目的は、入院加療の急性期を脱したが後遺症や社会的要因により支援の継続が必要な高齢者を対象に、健康障害および加齢による身体機能の変化と生活行動への影響について理解したうえで、生活機能を整え、望む生活を実現するための看護実践能力を身につけることにある。また、チーム医療や社会福祉資源の活用、家族への支援などを具体的な実践を通して理解し、老年看護における看護師の役割について学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>実習内容・実習姿勢・実習記録から総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>老人保健施設において5日間の実習を行う。 上記以外に、事前に学内外においてオリエンテーションを受ける。</p> <p>〔実習内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人の高齢者を受け持ち、コミュニケーションなどのかかわりを通して、生活史を聴取しその人らしさを考察する。 ・受け持ち高齢者の望む生活を実現するための看護を導き出し、根拠を明確にした方法で看護を実践する。 <p>〔実習計画〕</p> <p>実習1日目 受け持ち高齢者の紹介・スタッフと共に看護援助を実施しながら情報収集を行う。</p> <p>実習2日目 スタッフと共に看護援助を実施。受け持ち高齢者に必要な看護を立案する。</p> <p>実習3日目 受け持ち高齢者への看護援助の実施。高齢者の反応から評価・修正を行う。</p> <p>実習4日目 修正した看護援助の実施。得られた反応から援助の評価を行う。</p> <p>実習5日目 受け持ち高齢者の特性を考慮し、集団または個人レクリエーションを企画し実践する。</p> <p>授業全体の振り返り。</p>		
使用教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2) 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護・病態・疾患論 医学書院 3) 山田律子ほか：生活機能から見た老年看護過程 医学書院 		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>事前学習として、実習施設の概要・特徴、高齢者の身体的、精神的、社会的特徴についてまとめる。また、高齢者を尊重したコミュニケーションの工夫や日常生活維持に必要なとされる看護について調べまとめる。さらに、高齢者医療・保健・福祉対策 (介護保険法など) や高齢者医療における保健活動、社会資源、多職種連携について学習しまとめる。事後課題は記録の整理を毎日丁寧に行う。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	小児看護方法論		
授業担当者名	鯉淵 乙登女、金城 やす子、八田 早恵子		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	複数 (主担当: 鯉淵乙登女)	ナンバリングコード	241-1CHN2-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 健康障害のある子どもの看護を実践するために、小児期に発症する特徴的な疾患を理解し援助に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕 1. 小児特有の疾患について、病態や発症メカニズム、治療方法、看護について理解することができる 2. 健康問題を持つ小児の看護を実践するために必要な知識・技術を習得することができる 3. グループ学習 (課題学習法) を用いて、学生自らが指示された疾患の病態や治療について学習し、指導することができる</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	小児看護方法論の目的は、小児看護を実践する上で必要な各疾患の病態、発症メカニズム・症状・診断・治療について理解し、看護を考え、実践するための方法を学ぶことにある。また、看護、診断、治療に欠かせない検査、処置の目的と具体的な支援の方法について、演習を併用して学ぶ。小児の健康障害の経過における看護の特性、親との関係についても理解を深め、小児の基本的特性と健康レベルをふまえた看護実践について演習を通じて学ぶ。		
学生に対する評価の方法	① アクティブラーニングを活用し、GWにおける講義への参画度 30% ② 授業内容理解度の確認 50% ③ ポートフォリオ 20% ①～③を総合的に判断する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	第01・02回 授業ガイダンス、症状のある子どもと看護 小児に特徴的な疾患と看護 (ハイリスク新生児、低出生体重児の疾患と看護) (講義・演習: 保育器の目的と使用方法) 第03・04回 先天異常と看護 (常・性染色体異常と看護) (講義・演習) 第05・06回 代謝性疾患と看護 (1型糖尿病と疾患をもつ子どもの看護) (講義・演習) 第07・08回 小児感染症と看護 (講義・演習) 第09・10回 呼吸器疾患と看護 (上気道疾患、細気管支炎、肺炎とその看護) (講義・演習) 第11・12回 循環器疾患と看護①: 先天性心疾患 (講義・演習) 第13・14回 循環器疾患と看護②: その他の心疾患 (川崎病及び後天性心疾患とその看護) (講義・演習) 第15・16回 消化器疾患と看護①: 上部消化管疾患と看護 (講義・演習) 第17・18回 消化器疾患と看護②: 下部消化管疾患と看護 (講義・演習) 第19・20回 血液・造血器疾患と看護 (貧血および出血性疾患とその看護) (講義・演習) 第21・22回 悪性新生物と治療①: 疾患と看護 (白血病、脳腫瘍、神経芽腫、網膜芽腫) (講義・演習) 第23・24回 悪性新生物と治療②: 治療 (化学療法、手術療法、放射線療法、移植療法) (講義・演習: 骨髄移植、腰椎穿刺の実際) 第25・26回 神経系疾患と看護 (二分脊椎、けいれん、筋疾患とその看護) (講義・演習) 第27・28回 腎疾患と看護 (急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、尿路奇形) (講義・演習: In Out バランスの計算) 第29・30回 運動機能障害 (骨折、股関節脱臼とその看護) 小児リハビリテーション、理解度の確認 授業全体の振り返り (講義・演習) ※ 疾患の理解と看護はグループ学習 (課題学習法) を基本とする。		

授業概要(シラバス)

使用教科書	医学書院 『系統看護学講座 小児看護学②』
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	グループ学習では、多くのテキストを参考に、わかりやすい病態図を作成し、指導案としてまとめること。 グループメンバー間の関係を維持し、学習効果を上げるように取り組むこと

授業概要(シラバス)

授業科目名	小児看護学実習		
授業担当者名	八田 早恵子、金城 やす子、鯉淵 乙登女		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数 (主担当: 八田早恵子)	ナンバリングコード	241-2CHN2-05
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] 小児各期の特徴と成長・発達を促す援助を理解する。その上で健康上の諸問題を持つ小児とその家族に応じた看護を実践する能力を養う。</p> <p>[授業科目の到達目標] 1. 各成長発達段階にある小児を理解し、成長発達を促すための生活援助ができる。 2. 小児及び家族の健康上の問題と必要としている援助内容を明らかにし、実践できる。 3. 小児及び家族へ尊厳をもった関わりができる。 4. グループメンバーの個々の学びを最大限にするため、カンファレンスを有効に活用することができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	DP2: 思考力・判断力・創造力 ◎P3: 協働力 ○		
授業の概要	小児看護学実習の目的は、小児の健康、成長発達を促進し、健康障害をもつ小児と家族に対する基礎的な看護実践力を身につけることにある。小児の健康障害が子どもと親に及ぼす影響を理解する。また、小児看護の特性、成長発達、愛着形成、家族のつながりに対する理解を深め、健やかな育ちを支える小児の療養環境について考える。小児の体験する痛みや苦痛、不快などの症状緩和や、治療に伴う苦痛について、小児や家族の気持ちに即した看護を考え、実践するための基礎的な看護実践力を身につける。		
学生に対する評価の方法	<p>① 実習態度・実習の取り組み (50%) ② 実習記録 (援助技術の展開) (30%) ③ 実習総合評価 (対人関係、グループ学習等) (20%) ①～③を総合的に判断する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>第1週 (第1日～第5日) 第1日目 学内にて保育園実習オリエンテーション 第2日目～第4日目 保育園実習 第5日目 学内実習 (保育園実習まとめ、病院実習オリエンテーション、事前学習)</p> <p>第2週 (第6日目～第10日目) 第6日目～第9日目 病院実習、カンファレンス (病態図チャートの作成、問題点の明確化に向けた指導) 第10日目 AM 病院実習 PM 実習反省会 記録まとめ、レポート作成、記録提出 授業全体の振り返り</p> <p>※病院実習では、患者1名を受け持ち看護実践を行う。必要な看護・処置等を通して情報収集、アセスメントを行い、看護上の問題を考え、受け持ち患児に合わせた個別の看護を計画、実践する。</p> <p>※保育園実習では、3日間クラスを担当し、子どもの成長発達を促すための生活援助を実施する。</p>		
使用教科書	<p>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院</p>		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	<p>・実習教育は臨地での経験が大切である。個人の健康状態を維持し、実習に臨めるよう配慮する。 ・小児看護の講義内容を再学習しておくこと。実習には講義時に作成した成長発達ノート、病態図チャートを持参し、活用する。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	母性看護方法論2		
授業担当者名	鈴木 孝、小幡 さつき、岡本 知士		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 鈴木孝)	ナンバリングコード	241-2MAN2-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 母性看護方法論1で学んだ周産期における正常の看護をふまえて、ハイリスクな妊娠・分娩・産褥・新生児に対する看護を学ぶとともに、周産期の看護技術を習得する。さらに、母性看護実習に向けて、母性看護方法論1で学んだ知識を統合し、産後母子の看護過程の展開について学ぶ。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常を逸脱した妊産褥婦と新生児の病態生理について理解できる。 2. 正常を逸脱した妊産褥婦と新生児とその家族の健康状態のアセスメントができ必要な看護について説明できる。 3. 新生児期にある対象およびその家族に必要な看護技術を習得できる。 4. 事例を用いて産後母子の看護過程が展開できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能◎ 思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	正常を逸脱した経過をたどるマタニティサイクルにおける母子とその家族への看護実践で必要とされる知識と技術を学習する。また、新生児期における基本的な看護援助技術を身につける。正常を逸脱した妊産褥婦の心理について理解を深め、対象の疾患の診断や治療について学び、様々な課題を抱えた対象への看護へと統合させていく。紙上事例を通し、産後母子とその家族についてアセスメントし看護計画を立案し評価する看護過程の展開をグループワークを通して学ぶ。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度(70%)、看護過程提出物(30%)		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01～03回 妊娠・分娩・産褥/新生児の異常・・・岡本</p> <p>第04～08回 第01～03回までの授業内容の理解度確認 正常を逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護・・・鈴木</p> <p>第09回 正常を逸脱した新生児の看護・・・小幡</p> <p>第10回 第04～09回までの授業内容の理解度確認と解説</p> <p>第11回 産褥期にある母子の看護過程の展開・・・鈴木</p> <p>第12～20回 産褥期にある母子の看護過程・・・鈴木・小幡 グループワーク</p> <p>第21～24回 新生児に必要な看護技術(クラス別)・・・鈴木 小幡 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA, 第4版, 2018.</p> <p>参考図書: ウエルネスからみた母性看護過程, 医学書院, 第4版, 2022. ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程, 医歯薬出版, 第3版, 2018. 母性看護(パーフェクト臨地実習ガイド), 照林社, 第2版, 2017. 根拠がわかる母性看護過程, 南江堂, 2020.</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>授業前に各講義内容のキーワードについて調べ、質問や確認事項をまとめ受講する(90分)。授業後は講義のポイントや新たな関心事について自ら調べたことをノートにまとめ、今後の実習や国家試験対策などに反映させる(90分)。</p> <p>キーワード: ハイリスク妊娠、妊娠期感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠、多胎妊娠、流産、早産・切迫早産、子宮外妊娠、分娩の異常、帝王切開術、新生児仮死、低出生体重児、高ビリルビン血症、産褥の異常、沐浴、授乳、子宮復古、ウエルネス 事例を用いた看護過程の展開では、問題志向ではないウエルネス志向の看護の特徴を理解すること。新生児への看護技術では、対象の特長を理解し安全に留意した技術の習得に向けて自己学習に努めてほしい。特に、周産期におけるハイリスク事例が増えてきている今日において、異常を予防する看護や、ハイリスクを避けるための保健指導の大切さについて考えてほしい。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	母性看護学実習		
授業担当者名	清水 嘉子、鈴木 孝、小幡 さつき		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当: 清水 嘉子)	ナンバリングコード	241-2MAN2-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 子どもを産み育てようとする女性及び家族のニーズに対応した看護の場とサービスの在り方に対する認識を深め、看護過程展開のための基礎的看護能力及び対象への援助技術を修得する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦及び胎児の健康状態をアセスメントできる。 2. 妊娠に伴う心理・社会的特徴について理解できる。 3. 妊娠期の保健指導の見学を通して、セルフケア能力を高めるための看護を理解できる。 4. 分娩期にある産婦の日常生活への支援ができる。 5. 妊娠・分娩が褥婦の健康状態に与える影響を理解できる。 6. 褥婦の健康状態が向上するためのセルフケアについて理解できる。 7. 順調な母子関係が確立するために必要なサポートが理解できる。 8. 分娩の振り返りから褥婦の出産体験に影響を及ぼす要因について考えることができる。 9. 新生児の特徴について理解し、母体外生活に適応できるかどうかを観察し、アセスメントできる。 10. 子育て期にある母親を理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子とその家族に対する理解を深め、正常なマタニティサイクルを支えるための基礎的な看護実践能力を身につける。特にマタニティサイクルにおける女性と新生児、その家族を多面的・総合的にアセスメントし、計画的な看護ケアを実践する。また、マタニティサイクルにおける母子とその家族に対する基礎的な母性看護実践能力を身につける。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>実習に対する目標及び実習課題への取り組み、実習内容及び実習記録による実習目標の達成度などから総合的に評価する。 本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>〔グループの編成〕 原則、外来・病棟・産院は4～5名で編成する。 各グループは原則、1名の助教以上の教員が担当する。 ※詳細は実習要項を参照のこと</p> <p>〔実習中の指導計画〕 毎日カンファレンス、最終カンファレンスを行う。</p> <p>〔実習計画〕</p> <p><病棟> 第1日目 オリエンテーション、受け持ち決定 (情報収集) 受け持ち母児の看護計画を立案する。 第2日目 指導者、教員の指導を受けながら受け持ち母児の看護計画を実践する。 第3日目～5日目 引き続き受け持ち母児の看護計画を実践する。</p> <p><外来> 第1日目～2日目 妊婦健診の見学・実施、妊娠期保健指導の見学、NST装着・判読を実施する。</p> <p><子育て支援> 第1日目～2日目 子育て支援事業に参画し子育て期にある母親の心理や健康状態を理解する。</p> <p><学内実習> 1日 看護技術の振り返り、妊婦体験、子育て期DVD 実習のまとめ 授業全体の振り返り</p> <p>(実習場所) 名古屋医療センター 東4病棟・外来、岩田病院・外来、中京病院産科・外来、キャッスルベルクリニック、名古屋学芸大学子どもケアセンター、ひまわり助産院、みか助産院、こころと、クレヨン</p>		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 第14版 2021. 病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA, 第4版, 2018. 参考図書: 根拠がわかる母性看護過程, 南江堂, 2018 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版, 第3版, 2018 帝王切開バイブル, メディカ出版, 2018 マタニティアセスメントガイド新訂第5版, 真興交易(株)医書出版部, 2019</p>
<p>自己学習(予習・復習等の内容・時間)</p>	<p>妊娠・分娩・産褥、新生児期の看護について自己学習する。 学内では学ぶことができない貴重な学びの機会である。母性看護学実習は、褥婦を受け持つ機会が多く、在院日数の短縮に伴い実習展開が早いことから事前課題を通して基礎的な知識の確認が重要となる。また、母性看護の特徴として母児一体でみること、妊娠・分娩・産褥を一連の流れで捉えること、ウエルネス志向で看護を実践することを念頭におき実習に臨む。 さらに、子育て期にある母親の心理・健康状態や支援について理解を深めておく。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護方法論2		
授業担当者名	藤澤 浩美、永井 邦芳、木野 有美		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	クラス分け(主担当:藤澤浩美)	ナンバリングコード	241-2PMN2-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 精神看護の専門性についての理解を深め、治療的かわりを含めた精神看護実践の基礎力を習得する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害(主に統合失調症)を持つ患者について紙上事例を用いて、情報収集、アセスメント、看護診断、看護計画の立案、評価についてそのプロセスを学び、実践知とすることができる。 2. 精神看護場面における対象への受容的、共感的態度のあらわし方について理解できる。 3. 精神看護における援助的コミュニケーションスキルの意味と意義について講義と演習を通して理解できる。 4. 精神看護における援助的コミュニケーションスキルの具体的実践について講義と演習を通して理解できる。 5. プロセスレコードの意義を理解し、自己洞察と看護への活用方法が理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「意欲・態度」○、「思考力・判断力・創造力」◎		
授業の概要	精神看護方法論2は、方法論1で学んだ疾病、障害、治療、看護についての知識を実践へと結びつけるための具体的方法について演習を通して学んでいく。演習での学びは、グループワークやロールプレイ、ライブスーパービジョンなどを活用していく。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用して、授業に対する参画度(10%) 課題への取り組み(90%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 看護過程の展開 情報収集とアセスメント(オレム-アンダーウッドモデルにおける普遍的セルフケア要件およびアセスメントの視点の理解、看護診断・立案・評価についての基本的理解:講義、演習)</p> <p>第02回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例1の情報収集とアセスメント1:講義・演習)</p> <p>第03回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例1の情報収集とアセスメント2:講義・演習)</p> <p>第04回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例1の看護診断と看護計画の作成:講義・演習)</p> <p>第05回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例2の情報収集とアセスメント1:講義・演習)</p> <p>第06回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例2の情報収集とアセスメント2:講義・演習)</p> <p>第07回 紙上事例を用いた看護過程の展開(統合失調症事例2の看護診断と看護計画の作成:講義・演習)</p> <p>第08回 精神看護におけるコミュニケーションの特徴(治療的関係に必要な基本的態度:講義・演習)</p> <p>第09回 精神看護において援助関係の基盤になるスキル(受容的共感的態度を伝えるスキル:講義・演習)</p> <p>第10回 精神看護において援助的関係を発展させ問題解決に向かうコミュニケーションスキル(行動変容を促すコミュニケーションスキル、連合弛緩等、思考がまとまらない等への対応スキル:講義・演習)</p> <p>第11回 コミュニケーションスキルを活用した相談場面(ロールプレイ演習1:抑うつ状態にある人との面談:講義・演習)</p> <p>第12回 回復を支援するためのプログラム(SSTの理論的根拠・目的・具体的方法:講義・演習)</p> <p>第13回 プロセスレコードの実際①(目的・記入のルール・振り返りの実際:講義、演習)</p> <p>第14回 プロセスレコードの実際②(ロールプレイ演習②幻聴がある人へのかわりと振り返り:講義・演習)</p> <p>第15回 紙上事例の振り返り(事例展開と援助的コミュニケーションを実習・臨床にどう生かすか:講義・演習)</p>		

授業概要(シラバス)

	<p>授業全体の振り返り</p> <p>3クラス展開していきます 1クラス担当：藤澤 2クラス担当：永井 3クラス担当：木野</p>
使用教科書	<p>(参考図書) 吉川隆博・木戸吉史 看護判断のための気づきとアセスメント：精神看護 中央法規出版 ISBN 9784805884300 田中美恵子 精神看護学 第2版 -学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 ISBN 9784263236734 (使用図書) NANDA-I 看護診断</p>
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>精神看護学概論及び精神看護方法論1について復習をし、基礎的な知識を持ったうえで演習に参加してください。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護学実習		
授業担当者名	永井 邦芳、藤澤 浩美、木野 有美		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	3年次後期 (集中)
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当: 木野有美)	ナンバリングコード	241-2PMN2-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ: 実習目的〕 精神的問題を持つ対象者に対し、深い関心を持ち、看護専門職者を目指すものとしてふさわしい態度で臨み、精神看護の概念及び特徴の理解とともに必要な知識・技術・態度を学び協働的な看護実践ができる能力を養う</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち対象者について、生物学的・心理的・社会的な側面から多面的に理解し、対象のリカバリーに向けた課題にとともに取り組む看護実践ができる。 2. 精神科医療における安全と人権擁護に対する看護師の役割について理解できる。 3. 精神科医療における多職種協働の支援、連携に関する看護師の役割について理解できる 4. 受け持ち対象者とのかかわりを通して患者-看護師関係構築の意味と意義を理解できる 5. 看護専門職者また実習生としてふさわしい人格・態度・行動を養うことができる 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	講義演習を通して学んだ精神看護学における知識技術について、実習という場を通して統合させる。 実習は基本一人の患者を受け持ち患者-看護師関係の構築のプロセスの中で看護上の問題(ケアニーズ)を見出し、実際にケアを実施評価する。		
学生に対する評価の方法	事前学習、実習中の学修姿勢、実習記録、ディスカッションへの参加状況などを評価表に具体的学修目標として提示し、到達度を総合的に評価する。本科目は再評価を実施しない。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>〔グループの編成〕 学生100名に対して、原則、1病棟につき4～6名で1グループ編成する。</p> <p>〔事前指導計画〕 設定した事前学修への取り組み。 実習場面で想定される場面での援助的コミュニケーションスキルの活用方法について理解する。</p> <p>〔実習中の指導計画〕 1週目 精神科病院の構造について安全と人権の視点から学修する 受け持ち患者との患者看護師関係を築きながら情報収集とアセスメントする。 2週目以降 1週目に引き続き情報収集およびアセスメント、看護診断を用いて看護上の問題を明らかにする。 患者看護師(看護学生)関係における場面をカンファレンスの中で振り返り、患者の言動の意味や自己の言動について多方面から評価してみることにより、患者看護師の関係構築における相互作用について学習する。</p> <p>〔事後の指導計画〕 実習での学びについての分かち合いを行うなかで、精神看護の本質について理解を深める。 授業全体の振り返り。</p>		
使用教科書	<p>(参考図書)</p> <p>精神看護学 第2版 学生患者のストーリーで綴る看護展開 田中美恵子 川野雅資 精神症状のアセスメントとケアプラン 32の症状とエビデンス集 メヂカルフレンド社 ISBN 4839214700 川野雅資 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規 ISBN 4805830891 NANDA-I 看護診断</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	精神科入院制度の種類と内容、関連する法制度について、実習で主に受け持つであろうと考えられる統合失調症、気分障害(双極性障害、うつ病性障害)不安障害等についての病態及び薬物療法に用いられる薬物の種類の薬理作用と副反応、心理社会療法について十分に復習しておくこと ストレングス・エンパワメント・リカバリー の概念 オレムアンダーウッドのセルフケア不足理論について復習しておくこと		

授業概要(シラバス)

授業科目名	セーフティネット医療論		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独(外部講師あり)	ナンバリングコード	241-1CON3-08
備考	看護学部		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 各病院の地域医療における役割・貢献を学び、併せて、重症心身障害(児)者や神経難病等のセーフティネット系医療に代表される政策医療を含む広義の「看護及び看護学」を学ぶことの意義と役割を知り、本学部の特徴を認識した上で、自身の将来の見通しや役割・使命に関する看護専門職者としての基本的な計画を描き、作り上げる基礎を形成できる。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕 1. さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。 2. 看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。 3. 寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	<p>「知識・技能」◎(看護DP3:専門的な知識と基本的な技術を有している) 「思考力・判断力・創造力」○(看護DP1:倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している看護DP4:主体的に課題解決を図る能力を有している)</p>		
授業の概要	<p>本科目は、国立病院機構及び実習を予定している国立病院機構の院長・看護部長を招聘し、各病院における①学びのフィールドの紹介②医療・看護全般について③セーフティネット系医療・看護について④国立病院機構の役割と使命について⑤看護の対象が求めているものについて⑥学生のために学修しておくこと等の講演をいただき、質疑応答の中からセーフティネットの必要性和意義の理解を深め、就業先としての専門科目や医療施設等の選択肢として考える契機とする。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>アクティブラーニングとして、質疑応答時における参画度(20%)、各施設ごとに提出するリアクションペーパー8回(40%)、講義終了後に提出する課題レポート(40%)から総合的に評価する。</p>		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 オリエンテーション、国立病院機構の変遷、国立病院機構の役割とセーフティネットの意義(五十里・ゲストスピーカー/国立病院機構看護専門職)</p> <p>第02回 天竜病院の役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第03回 東名古屋病院の役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第04回 豊橋医療センターの役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第05回 東尾張病院の役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第06回 名古屋医療センターの役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第07回 鈴鹿病院の役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>第08回 長良医療センターの役割と医療・看護(ゲストスピーカー/院長・看護部長)</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	<p>随時配付される資料等</p>		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>次回の医療施設の概要と役割を担う政策医療について、事前に調べて理解しておくこと。普段から、新聞やテレビニュースなどを活用し、世界や日本における社会情勢の変化や保健・医療・福祉に関する情報に関心を持ち、理解しておくこと。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	医療安全		
授業担当者名	伊藤 美智子、森 京子、土井 智子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1CON3-09
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 看護・医療の場面におけるリスクの予測と危険回避の基礎を理解できる</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の医療安全対策の背景と取り組みを理解する。 2. 事故の種類別に事例を通して背景・要因および事故後の対処、防止策を検討することができる 3. 医療安全対策の基本的な考え方を理解し、組織と個人の立場から対策を考えられる。 4. 国外の医療安全対策について述べるができる 5. 医療安全の重要性を自己の課題として理解できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	医療を行う上での危険な点に気づき、予防策について考えることができるようになる (「知識・技能」○、「思考力・判断力」◎)		
授業の概要	医療安全を学ぶ目的は、医療事故をできる限り防ぐための方策やその考え方を学ぶことで、看護師としての倫理観や安全のための思考を醸成することである。特に発生が多い診療の補助行為における医療事故(誤薬・チューブ類の取り扱い・院内感染)、療養上の世話に関する医療事故(転倒・転落・誤嚥)など、実際の事故事例を基に分析し考える。また、それぞれの事例に対し、事故の原因は何か、医療事故を防ぐための具体的対策を(指差し・声出し確認、多人数による確認等)考察する。医療の場における安全風土・文化の醸成の重要性を認識する。初歩的なケアレスミス・ヒヤリハットなどの事例分析からも事故を防止する方策について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	レポート(80%)、アクティブラーニングを活用して提出を義務づけるリアクションペーパー(20%)により総合的に判断する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 医療事故・看護事故の要因</p> <p>第02回 医療事故の予防策</p> <p>第03回 事故の種類別に見た事例分析と事故防止方法①与薬</p> <p>第04回 事故の種類別に見た事例分析と事故防止方法②チューブ類のトラブル</p> <p>第05回 事故の種類別に見た事例分析と事故防止方法③療養上の世話</p> <p>第06回 事故の種類別に見た事例分析と事故防止方法④医療者の労働安全衛生</p> <p>第07回 事故の種類別に見た事例分析と事故防止対策⑤在宅看護・医療安全のためのコミュニケーション</p> <p>第08回 国内外の医療安全対策・医療安全における分析 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>事前学修：各講義に該当する教科書のトピックスを事前に読み、不明な点を明らかにして講義に臨んでください。また、医療事故に関するニュースや報道に日頃より関心を持ち、内容に目を通しておくことが望ましいです。</p> <p>事後学修：講義内容を復習し、整理しておくことで、自身が理解できているかを確認してください。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護研究1		
授業担当者名	金城 やす子、石井 健一郎		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	3年前期
教員担当形態	オムニバス (主担当: 金城 やす子)	ナンバリングコード	241-2CON3-10
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業のテーマ〕 看護研究の目的、研究の意義と倫理課題を明らかにしつつ、看護研究を進めるにあたり必要な基礎的知識を習得する。また、論文の読み方、研究方法の概略を理解して、既履修科目での学修内容、臨床での実習を通して自らの課題とテーマを見出すための素地を培う。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは何か、研究の意義と倫理課題が説明できる。 2. 看護研究を進めるうえでの基本的ステップが説明できる。 3. 研究テーマに即した文献の収集と活用ができる。 4. 看護研究方法の種類と特徴が説明できる。 5. 研究論文の書き方が説明できる。 		
ディプロマポリシーとの関連	看護が必要とされる様々な事象に対して探究心をもち、科学的に思考し、主体的に課題解決を図る能力を身につけることができる。 (「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」○)		
授業の概要	看護研究1では、研究とは何か、研究の意義、目的、研究倫理、研究方法の概略を学び、看護研究を行うにあたって必要な基礎的知識を習得することを目的とする。看護研究の意義は、研究の成果を看護実践に活用し、さらなる研究課題を見出し、看護の科学性、看護実践のための基礎知識を創出し看護の質的向上へつなげることにある。看護の実践現場等で看護研究を進めるために必要な研究の基本的ステップ(研究テーマ、目的の設定、文献レビュー、クリティーク、研究計画書の作成、倫理申請、論文作成)の概要について理解し、量的、質的な研究方法について学ぶ。		
学生に対する評価の方法	授業態度及び学習状況 (20%)、ポートフォリオ (40%)、課題レポート (40%)により総合的に判断する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 ガイダンス 看護研究とは</p> <p>第02回 研究における倫理</p> <p>研究課題(テーマ)の選定</p> <p>第03回 文献検索の方法</p> <p>文献リストの作成、文献抄読</p> <p>第04回 質的研究の基礎1</p> <p>第05回 質的研究の基礎2</p> <p>第06回 量的研究の基礎(石井)</p> <p>第07回 研究計画書の作成(石井)</p> <p>論文の作成から発表まで</p> <p>第08回 レポート作成</p> <p>看護研究2(卒業研究)に向けて</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	系統看護学講座 別巻「看護研究」 医学書院 その他関連図書、参考図書等、適宜紹介する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>看護研究2は4年生で取り組む重要な科目です。看護研究1では、看護研究2を履修するために「研究とは何か」「どのように進めるのか」などの基礎的な内容を学びます。これまでの学修で興味のある内容を深めるために、受講前後に図書館を利用して文献や資料を収集してください。事前に教科書の該当箇所の予習を行い、文献や資料を精読して授業に臨み、授業後に内容を復習してください。できる限り多くの文献や資料に触れて、一つのテーマであっても多方面からの知見や意見があることを理解してください。受講ののち、自らの方向性やテーマをじっくり考えるための時間を取ってください。</p> <p>看護研究では、今までの学修で得た知識や経験をさらに発展させて、自らテーマを選び、主体的に、研究的に学んでいきます。将来看護の専門家としてどのようなキャリアを積もうと必ず必要となる重要な科目です。自らの興味や関心、得意分野を活かして、積極的に取り組んでください。</p> <p>* ポートフォリオは、事前での学修内容、講義ノート、事後の追加学修の内容を整理して作成してください。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	関係法規		
授業担当者名	高橋 昇		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1HSS2-03
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 医療や看護を始めとした関連法律を学び、看護職に必要な法律について理解する。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関する関連法規を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。 2. 看護の対象の療養生活における生きる希望と尊厳を支援することができる。 3. 看護実践に必要な関係法規から、コミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。 <p>DP1 人間の尊厳と生命を尊重する姿勢を持ち、倫理的な判断に基づいて行動できる能力を有している。 DP3 対象の健康レベルおよび療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識と基本的な技術を有している。 DP4 看護が必要とされるさまざまな事象に対して探究心を持ち科学的に思考し、主体的に課題解決を図る能力を有している。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	関係法規を学ぶ目的は、我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解することにある。看護に携わる者にとって最も縦横な法である①保健師助産師看護師法、②医事や保健衛生、③社会福祉などの関係法令を学ぶ。これからの少子高齢社会に向けて、看護の役割は増大する。労働安全衛生法や育児・介護休業等労働者の福祉に関する法律、看護師等の人材確保の推進に関する法律を学ぶ。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、リアクションペーパー(20%)、理解度確認(60%)から総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 はじめに、第1章：法概念</p> <p>第02回 第2章：看護法 A保健師助産師看護師法</p> <p>第03回 第2章：看護法 B看護師等の人材確保の促進に関する法律 第3章：医事法 B医療関係資格法</p> <p>第04回 第3章：医事法 A医療法</p> <p>第05回 第3章：医事法 A医療法 (政策医療・災害医療 災害対策基本法・災害救助法等)</p> <p>第06回 第7章：福祉法 A福祉の基盤 (生活保護法・社会福祉法等)</p> <p>第07回 第6章：社会保険法 A医療・介護の費用保障 (医療保険法)</p> <p>第08回 第6章：社会保険法 A医療・介護の費用保障 (介護保険法)</p> <p>第09回 第3章：医事法 C医療を支える法 (医療と介護の連携 医療介護総合確保推進法)</p> <p>第10回 第7章：福祉法 C高齢分野 (高齢者医療確保法等)</p> <p>第11回 第7章：福祉法 B児童分野 C高齢分野 (虐待防止関係法 DV法)</p> <p>第12回 第4章：保健衛生法 A共通保健法 B分野別保健法 (母子保健法 児童福祉法 母体保護法)</p> <p>第13回 第8章：労働法と社会基盤整備 (労働基準法 労働安全衛生法 労働者災害補償保険法)</p> <p>第14回 第9章：環境法 (大気汚染防止法 水質汚濁防止法 土壌汚染対策法 廃棄物処理法等)</p> <p>第15回 関係法規のまとめ (地域保健法等授業で取り上げられなかった他の法令含む)</p> <p>第16回 理解度確認 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令」		

授業概要(シラバス)

自己学習（予習・復習等の内容・時間）	テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の看護関係法規の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。 普段から、新聞やテレビニュースなどを活用し、世界や日本における社会情勢や関係法規、保健・医療・福祉に関する多岐にわたる情報に関心を持つこと。
--------------------	---

授業概要(シラバス)

授業科目名	公衆衛生学		
授業担当者名	青山 温子		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	4年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1HSS2-04
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 看護職に必要とされる公衆衛生学の基本的知識を得るとともに、人々の健康評価、疾病予防、健康維持・増進などの方法とそれを支える仕組みについて学ぶ</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念や健康と環境とのかかわり、および人口や疾病に関する統計調査を理解できる 2. 各種の公衆衛生活動ならびに社会保障制度等の現状を理解できる 3. 個人と集団の健康増進に貢献する方法と社会の仕組みについて理解できる。 <p>DP1: さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。 DP2: 看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。 DP3: 寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	公衆衛生とは、集団を対象として、疾病の予防、寿命の延長、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進を図る科学と実践活動である。本講義では、健康について幅広く探求する基礎知識を修得し、質の高い、より良い生活を修得するためにはどのような行動をすることが重要であるかを科学的に考える姿勢を身につけ、人々の健康を維持・増進するための方法と仕組みについて理解することを目的とする。		
学生に対する評価の方法	各回の講義終了後、小テストを実施する。小テストの合計点数(90%)と授業態度など(10%)を総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 公衆衛生学総論・公衆衛生の歴史・公衆衛生の仕組み</p> <p>第02回 健康指標・人口動態・衛生統計</p> <p>第03回 医療提供制度・医療施設・医療関係者</p> <p>第04回 医療保障制度・医療保険・国民医療費</p> <p>第05回 地域保健・保健医療行政の仕組み</p> <p>第06回 高齢者保健・介護保険・地域包括ケア</p> <p>第07回 成人保健・生活習慣病の危険因子・生活習慣病の予防対策</p> <p>第08回 母子保健の指標・母子保健の施策・小児保健の施策</p> <p>第09回 学校保健・学校給食・食事バランス・公衆栄養</p> <p>第10回 感染症・感染症対策・予防接種</p> <p>第11回 精神保健・障害者支援</p> <p>第12回 環境衛生・環境リスク管理</p> <p>第13回 食品衛生・産業保健</p> <p>第14回 被災者支援・健康危機管理</p> <p>第15回 国際保健医療・健康とジェンダー</p> <p>授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	医学書院「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生」		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	配布資料と教科書をもとに、当日の授業の復習(90分)、次回の授業の予習(60分)をする。 日頃から健康や保健に関わるニュースを新聞等でチェックし、保健・医療・福祉への関心を高める。 また、厚生労働省等のホームページから最新の情報をチェックする。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護管理		
授業担当者名	白鳥 さつき、出原 弥和		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	4年次前期
教員担当形態	複数（主担当：白鳥さつき）	ナンバリングコード	241-1CON3-11
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 組織とマネジメントについて理解し、時代の要請に応える質の高い組織的看護サービスを提供するための看護管理の重要性を学ぶ。</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院における看護部組織の特徴を理解する。 2. 看護の組織化、看護サービス提供体制の仕組みを理解する。 3. 医療チームの一員としてのマネジメントの基礎を理解する。 4. 業務遂行のためのマネジメントの基礎を理解する。 5. 看護職自身のマネジメント（健康管理とキャリア）を考えることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○ 「思考・判断力・創造力」◎		
授業の概要	看護管理を学ぶ目的は、対象にとって望ましい看護サービスが受けられるよう、組織が一貫性・継続性をもって合理的ヒト・モノ・カネを運用し看護活動の提供のあり方を学ぶことにある。看護管理には、広範な内容が含まれる。チーム医療や組織、看護単位の統括、多職種との連携と協働、看護ケアシステムの決定、人材の育成、施設・設備環境のマネジメント、モノのマネジメント、サービスの評価等である。いずれにしてもこういった内容は、患者への看護サービス向上を視野に入れてなされるものであることを学ぶ。		
学生に対する評価の方法	理解度確認（80％）、リアクションペーパー（20％）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<ol style="list-style-type: none"> 1回 講義 ガイダンス 看護管理の歴史 マネジメントとは（白鳥） 2回 講義 組織の成り立ちと構成員（白鳥） 3回 講義/演習 グループワーク 各看護方式について（白鳥、出原） 4回 講義/演習 プレゼンテーション 成果発表（白鳥、出原） 5回 講義 看護サービスとは 特徴と質の向上について（白鳥） 6回 講義/演習 リスクマネジメント 危険予知トレーニング（白鳥） 7回 講義/演習 グループワークとプレゼンテーション 危険予知トレーニング（白鳥、出原） 8回 講義 看護情報学（白鳥） 9回 総まとめ（白鳥） 授業全体の振り返り 		
使用教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①系統看護学講座 統合分野 「看護管理」：医学書院 ②医療安全：メディカ出版 		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスの内容を確認し、事前に必要な情報を病院のホームページなどを活用して整理しておく（各週90分）。参考図書を提示するので事前課題に役立てること。課題への取り組み（各週120分程度）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	災害看護		
授業担当者名	宮本 恵子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-2CON3-15
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔授業科目のテーマ〕 災害及び災害医療・看護についての概念や役割を踏まえ、災害時の看護活動の基礎的知識技術を習得する</p> <p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療の概念が説明できる。 2. 災害医療における看護の役割が説明できる。 3. 災害看護にかかわる技術を身につけることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP2 : 思考力・判断力・創造力 ◎ DP3 : 協働力 ○		
授業の概要	災害看護を学ぶ目的は、救急看護、トリアージ、状況に応じた医療活動の基礎について学ぶことにある。災害現場では、年齢、疾患、クラッシュ症候群、慢性疾患、妊産婦など、様々な要因、多様なレベルへの対応が求められる。トリアージの演習やDMAT活動の実際などを通し、チーム医療における災害支援体制も学ぶ。災害現場では、助かる生命もあるが帰らない命もある。人間の尊厳に対する医療者の態度も学び、災害に遭遇したら、温かな支援者、援助者の言葉と手を必要とする被害者に寄り添う災害看護のあり方を考える。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度 (80%)、リアクションペーパー (20%) から総合的に評価する。		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 災害看護の意義・災害看護の歩み・災害看護の定義と役割 第02回 災害医療の基礎知識 災害医療の特徴・災害の種類と健康障害 第03回 災害看護の基礎知識 災害時に必要な技術・トリアージ 第04回 被災者特性に応じた災害看護の展開 第05回 災害とこころのケア 第06回 災害サイクルに応じた看護の展開 発災直後から中長期における看護活動 第07回 大規模災害における救護活動 傷病者体験 第08回 理解度確認・授業全体の振り返り		
使用教科書	系統看護学講座 統合分野 「災害看護学・国際看護学」 医学書院		
自己学習 (予習・復習等の内容・時間)	日本各地で発生した災害について自己学習し、問題意識を持ったうえで授業に参加する。 (週60分) 大規模災害訓練への参加に際し、リアリティのある被災者を演じるための準備を行う。 (週60分) 災害は忘れたころにやってきますので、日ごろから防災対策を考えながら臨み、いつでも対応できるようにしておきましょう。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	統合看護技術論		
授業担当者名	宮本 恵子、佐藤 由佳、鈴木 里美、土井 智子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	4年次前期
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当：宮本恵子)	ナンバリングコード	241-1CON3-12
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<p>[テーマ] 専門職業人としての自覚を持ち、対象の状況に応じた看護を実践する知識・技術を習得する</p> <p>[到達目標] 1. 看護単位における看護チームの一員としての役割を理解できる。 2. 一人の患者における複数の看護問題について優先度の判断と看護の実践ができる。 3. 複数患者における多数の看護問題について優先度の判断と看護の実践ができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	DP1：知識・技能 ◎ DP2：思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	この科目の目的は、専門分野での各領域別の看護実習を踏まえ、実際の臨床の場面を想定し、①複数の患者を受け持ち、看護問題の優先度の判断 ②必要とされる幾つかの看護援助(多重課題)の状況判断、実施計画、方法の選択について学習する。模擬患者を設定し、臨床現場で使用されている看護用品、医療機器を使用し演習する。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用して演習への参画度(30%)、リアクションペーパー(30%)、課題(40%)により総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 ガイダンス(演習の進め方、記録用紙の使い方など)、チーム医療 第02回 チーム医療(グループワーク・プレゼンテーション資料作成) 第03回 チーム医療(プレゼンテーション) 第04回 一人患者への援助計画の立案～効率の良い情報収集とケア計画の立案～ 第05回 一人患者への援助計画の立案 グループワーク・演習 第06回 一人患者への援助 清拭・更衣介助(演習・記録) 第07回 一人患者への援助 陰部洗浄(演習) 第08回 侵襲を伴う看護技術と針刺事故防止対策：血糖測定(演習) 第09回 侵襲を伴う看護技術と感染対策：吸引・口腔ケア・輸液ポンプの管理(演習) 第10回 看護師のインシデントと発生要因 第11回 複数患者に対する1日の行動スケジュールの立案方法・予定変更とは 先を予測する力とその必要性、優先度の判断 第12回 複数患者への優先順位を考えた看護計画の立案(個人ワーク・グループワーク) 第13回 複数患者への優先順位を考えた看護援助の実施・評価(演習) 第14回 複数患者への優先順位を考えた看護援助の実施・評価(個人ワーク・グループワーク) 第15回 複数患者への優先順位を考えた看護援助のまとめ(演習)、授業全体の振り返り		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	これまでの講義、実習で習得した知識、技術を統合し、一人の対象への援助を実施し、次に複数患者への優先度を考えた援助の実施を行います。事前学習をして臨み、確かな技術を身に付けてください。 ペーパーペイシエントの事例展開は、事前に個人で事例の理解および計画の立案を行ってからグループワークに臨む。(週60分) 看護の実践にあたっては、事前に自己練習をしておく。(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	統合実習3		
授業担当者名	佐藤 由佳、宮本 恵子、鯉淵 乙登女、伊藤 美智子、小幡 さつき、神谷 智子、世俵 智恵子、土井 智子、白砂 恭子、鈴木 里美		
単位数	2単位	開講期 (年次学期)	4年次前期 (集中)
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当：佐藤由佳)	ナンバリングコード	241-3CON3-13
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 これまでに学んできた知識と技術を統合し、看護チームの一員として他職種と連携・協働しながら看護実践できる能力を養う。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護単位におけるチームワークをそれぞれの役割を通して理解できる。 2. チームの一員として複数患者を受け持ち、多重課題への対応ができる。 3. 24時間の患者の生活と援助、継続した看護を指導者とともに実践できる。 4. 患者を取り巻く保健医療福祉チームの役割を理解することができる。 5. 実習を通して専門職業人として必要な姿勢・態度を身に付ける。 		
ディプロマポリシーとの関連	<p>DP2：思考力・判断力・創造力 ○</p> <p>DP3：協働力 ◎</p>		
授業の概要	<p>この科目の目的は、チーム医療を学ぶことにある。看護は、チームで患者の看護に組織的に関わり、患者の疾病の回復の支援はもとより、精神面への支援にも常時専心している。常時患者の傍らにいる看護師は、医療チームの中心的役割を果たしている。看護師は、チームスタッフに情報提供をし、情報を共有し、看護師独自の計画や実施結果を報告し、意見を求める。時に患者や家族も加わり、合同のカンファレンスを持つことも、チーム医療には欠かせない。チームにおけるリーダーの役割やメンバーの役割、引き継ぎ、退院後の継続医療の方法等を学ぶ。課題に応じて臨機応変にチームリーダーやチームの働き方を変更させていくという新しいチーム医療についても学ぶ。</p>		
学生に対する評価の方法	<p>実習内容、実習態度、実習記録による実習目標の達成度などから総合的に評価する。学内におけるグループワークへの参加および個人レポートも評価の対象とする。</p> <p>本科目は再評価を実施しない。</p>		
授業計画 (回数ごとの内容、授業技法 等)	<p>〔グループの編成〕 原則、1グループ5～6名でグループ編成する。</p> <p>〔実習計画〕 第1日目 実習ガイダンス 事前学習 第2日目 病棟オリエンテーション 第3日目～9日目 看護師長業務、リーダー業務、メンバー業務、夜間業務 多職種連携 (栄養サポートチーム、褥瘡対策、院内感染対策など) 第10日目 実習のまとめ・授業全体の振り返り</p> <p>〔事前指導計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟オリエンテーションを受ける。 ・看護師長、リーダー、メンバー、多職種の役割等を事前学習しておく。 ・専門職業人としての姿勢や態度について考えて、自己の課題を明確にしておく。 ・複数患者を受け持つとはどういうことなのか、各疾患、優先度の考え方について学習しておく。 <p>〔実習中の指導計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病棟のオリエンテーションを受けた後、看護師長、リーダー、メンバー、夜間実習をローテーションしながら、それぞれの責任や役割、業務内容を学ぶ。 ・看護師長とリーダー業務は同行し、学ぶ。 ・メンバーでは、複数患者 (2名程度) を受け持ち、優先順位を考えながら看護援助を行う。 ・1日は、機能別看護師に同行し、検査時の看護等受け持ち患者では学べない看護を学ぶ。 ・患者を取り巻く保健医療福祉チームの活動に同行し、チーム医療の役割や取り組み、多職種との連携について学ぶ。 ・最終日にはグループワークにて実習のまとめを行い、学びの内容を共有する。 ・専門職業人としての姿勢や態度について考え、今後の自己の課題を明確にする。 <p>〔事後の指導計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りを記録を通して行う。 ・グループワークでの学びを生かして、自己の課題を明確にし、取り組む。 ・授業全体の振り返り。 		

授業概要(シラバス)

<p>使用教科書</p>	<p>系統看護学講座 「看護管理」 医学書院 配布資料</p>
<p>自己学習（予習・復習等の内容・時間）</p>	<p>既修の知識、技術を復習しておくとともに、看護師長、リーダー、メンバー、多職種の役割等を事前学習しておく。 看護学実習を終えた段階での専門職業人としての姿勢や態度について考えて、卒業のことを見据え、自己の課題を明確にしておく。これまでは一人の患者への看護を考えてきたが、複数患者を受け持つとはどういうことなのか、各疾患、優先度の考え方について学習しておく。 4年間の集大成としての実習となるので、既修の知識、技術を活用しながら多重課題への対応や継続した看護の重要性について学んでほしい。そして、社会人となる自覚をもって専門職業人として必要な姿勢や態度を考え、身に付けるための努力をしてほしい。</p>

授業概要(シラバス)

授業科目名	国際看護学演習		
授業担当者名	鈴木 里美、宮本 恵子、土井 智子		
単位数	1単位	開講期 (年次学期)	4年次後期
教員担当形態	複数、クラス分け (主担当：鈴木 里美)	ナンバリングコード	241-2CON3-16
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[授業科目のテーマ] 他国の保健医療の実態を理解し述べるができる。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の健康問題の現状について文献学習することができる。 2. 対象となる人々が抱える健康問題の要因を説明することができる。 3. 対象となる人々の健康課題を解決するための計画を討議し立案することができる。 4. 外国人患者への支援について考えることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」○		
授業の概要	この演習の目的は、世界の健康問題の現状について、文献、資料などを通し、保健医療、健康、看護の格差の要因を検討し介入方法を討議検討することにある。国際協力については、国際的医療ケア活動の歴史的経緯を通し、現在の国際医療ケア(Global Health care)が遭遇している問題(開発途上国の実態と看護の実態)を学び思考を深めるとともに、国際協力の課題についても討議する。討議に際し、個人を対象とする看護過程と同様、情報収集・アセスメント・計画立案について検討する。外国人患者の現状と課題について情報収集し、課題と支援について考える。個人・集団・コミュニティにアプローチする演習を行い、意図的・系統的な協力支援のあり方について考える。		
学生に対する評価の方法	グループワークにおける参加度(20%)、プレゼンテーションとディスカッション(50%)、リアクションペーパー(30%)により総合的に判断する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01～02回 外国人を取り巻く医療について</p> <p>第03～06回 やさしい日本語(演習)</p> <p>第07回 世界の保健医療システム、文献・データベース等の検索方法</p> <p>第08～09回 グループワーク：調査国を選定し保健医療システムについて文献検索・情報収集、SDGs、JICA中部なごや地球ひろば訪問プログラムについて情報収集</p> <p>第10～11回 JICA中部 なごや地球ひろば訪問プログラムの参加</p> <p>第12～13回 グループワーク：調査国のSDGsの達成状況、健康課題について情報収集健康課題解決のための計画立案</p> <p>第14回 グループワーク：プレゼンテーション</p> <p>第15回 プレゼンテーション、国際看護学演習のまとめ、授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	配布資料		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>授業計画に即して、提示する資料や参考図書について自己学習を行い、主体的に受講する。授業後は、講義資料や参考図書を用いて復習する(週60分)。</p> <p>第01～02回 文化の違いにどのように対応していくのかなどを考える(週60分)。</p> <p>第03～06回 外国人患者の支援について考える。病棟で使用しているパンフレットをやさしい日本語で作成してみる(週60分)。</p> <p>第07～09回 選定した調査国の保健医療システム、SDGsについて情報収集を行う(週60分)。</p> <p>第10～11回 JICA中部なごや地球ひろばでの見学を通して、国際協力、開発途上国の現状を把握する(週60分)。</p> <p>第12～13回 選定した調査国の課題解決のための計画立案を行う(週60分)。</p> <p>第14～15回 グループワークの結果をまとめ、プレゼンテーションを行う(週60分)。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	キャリアデザイン		
授業担当者名	宮本 恵子		
単位数	1単位	開講期(年次学期)	4年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-4CON3-10
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>〔テーマ〕 各個人が自己の職業観を明確にして、主体となって自立の方向性を探り、キャリアプランを構想し、それに向かってたくましく踏み出すことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインを支える考え方、キャリア理論を理解できる。 2. 自分の本当の姿(大事にしていること、強みなど)を知る。 3. 自己のキャリアプランを考えることができる。 		
ディプロマポリシーとの関連	DP4:意欲・態度 ◎		
授業の概要	<p>キャリアデザインを学ぶ目的は、「看護とは」をどう自分の人生に価値づけし、なりたい自分に焦点を合わせ、進路を定め方向性を明確にしていくことにある。自らの未来を描くことは、現在の自分を客観的に見つめ、これからの方向性を主体的に考えるうえで意味がある。大学卒業後の自分、例えば「10年後の自分」をどのように描けるか。ジェネラリストとしてのナース、セーフティネットでの仕事、助産師や保健師の選択、大学院への進学、研究者や教師を目指すなど、キャリアデザインには自由かつ多くの選択肢がある。自らの知識と能力、行動力、想像力をふくらませ、自ら意思決定しスキル発達へと進む。</p>		
学生に対する評価の方法	レポート(70%)、リアクションペーパー(30%)から総合的に評価する		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	<p>第01回 キャリアとは、キャリアデザインとは</p> <p>第02回 看護の経験から大切にしているものをみつける キャリアの方向性と臨床での実践力</p> <p>第03回 キャリアデザインを支える考え方</p> <p>第04回 ライフプランとキャリアプラン</p> <p>第05回 自分の本当の姿を知ろう</p> <p>第06回 キャリア理論</p> <p>第07回 キャリア理論</p> <p>第08回 自己の課題と展望 授業全体の振り返り</p>		
使用教科書	配布資料		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>授業計画に即して、個人ワークを通して、これまでの実習での経験等から大切にしているものを知り、免許を取得後、どの分野(臨床・助産・保健・養教・保育等)に進むのか、看護の実践の場でどのように取り組み、どの分野で自己の能力を育て発揮していくのか、看護職を中心とした人生のプランを設計していく。グループワークでの他者との意見交換を通して自己を見つめ主体性を身につける。</p>		

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護研究2		
授業担当者名	五十里 明		
単位数	4単位	開講期 (年次学期)	4年次
教員担当形態	クラス分け (主担当: 鈴木里美)	ナンバリングコード	241-2CON3-14
備考			
授業のテーマ及び到達目標	<p>[授業科目のテーマ] 1年から3年で培った看護の学修内容、臨地での実習経験を生かして、関心のある課題を見出し、3年次で学んだ看護研究を行うための基礎的知識を基に、倫理的配慮をもって研究に取り組み、結果を論文にまとめて発表する。</p> <p>[授業科目の到達目標] 1. 研究課題を決定し、課題に関連した文献や資料を収集できる。 2. 研究計画を立案できる。 3. 計画に基づいてデータの収集、分析、結果とその考察までの過程を展開できる。 4. 研究を行う上での倫理的配慮が実施できる。 5. 研究の成果を論文にまとめて発表できる。 6. 看護実践の質的向上に寄与しようとする姿勢を示すことができる。</p>		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」○		
授業の概要	看護研究2では、卒業研究として研究テーマを設定し、実際に研究を進め、論文を作成し、発表するまでの過程の基本を学ぶことを目的とする。テーマを決定し、文献検索とレビューに基づいて研究計画を立案し、必要に応じて大学および調査対象となる各機関に対して倫理申請を行う。データの収集、集計、分析、結果の解釈、考察からまとめまでの一連を論文としてまとめる。研究の結果を分野内で発表する。卒業研究を通して、研究を進める上での基本を習得し、看護の実践現場での研究に対する基本的な姿勢を学ぶ。		
学生に対する評価の方法	指導教員が、授業目標への達成度(65%)、論文作成と発表(15%)、研究態度(20%)として総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回	ガイダンス 看護研究2の進め方 研究グループ編成 担当教員の決定	
	第02回～第58回	決定したテーマにそって、担当教員の指導を受けながら 研究に取り組み、論文を作成	
	第59回～第60回	分野ごとに研究成果を発表	授業全体の振り返り
使用教科書	適宜紹介する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	<p>本科目の履修には、自主的な学修活動が必須です。準備学修としての予習(文献クリティーク、資料収集など)、まとめとしてのレポート作成などの時間をそれぞれ1時間以上要します。内容は、研究課題や進行状況により異なります。</p> <p>看護研究2(卒業研究)では、これまでに学んだ知識や経験をさらに発展させて、自らテーマを選び、主体的に、研究的に学んでいきます。</p> <p>将来看護の専門家としてどのようなキャリアを積もうと必ず必要となる重要な科目です。自らの興味や関心、得意分野を活かして、積極的に取り組んでください。各分野の教員が学生をガイドします。</p>		